

# 商学研究科履修案内

平成 17 年度

(2005 年度)

慶應義塾大学大学院  
商学研究科

本案内は、大学院商学研究科における履修の方法，手続き等と講義内容を記載したものです。学生諸君はこの案内を熟読したうえで，履修する授業科目を決定し，指定された日に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。

## 履修にあたって

これまでの経済社会の変化がいわば過去の延長線上の変化である漸進的变化であったとすれば、今、われわれが直面している変化は不連続的变化であるといえよう。こうした経済社会の質的変容が、大学への新たなニーズを作り出し、学問研究の場でも当然のことながら、解決すべき多くの課題をもたらしてきている。これまで、現実の社会では順機能現象をもたらしてきたと考えられてきたさまざまな社会・経済的なシステムが逆機能現象を起こすというような状況が生み出されているとあってよい。これまでに基本的に良しとされてきたシステムや知識が環境変化によって、その意義を問われるようになってきているわけである。グローバル化の進展が、日本の経営システムについて新たなあり方の検討を迫っているなどがその例であろう。

こうした変化を遂げている現実社会の問題を分析し、新たな学問的進歩を遂げようとする努力がなければ、学問研究の場としての大学の存在意義が問われることになってしまうであろう。既存の知識が経済社会現象を十分に把握し、分析するということに適応性を欠くとすれば、その理由を明らかにし、現実をより良く分析し、説明する理論を求めてゆくという努力を続けなければならない。

大学院は、そこに籍を置く諸君が自らの知的好奇心と問題意識をもって研究活動を実践する場にほかならず、そこで研究努力こそが、学問研究の進歩をもたらすことになる。修士課程に、また博士課程に籍を置くいずれの諸君もそれぞれ学部教育の場で、あるいは修士課程で培った知的好奇心と学問的知識をもって各々の視点から経済社会現象を分析しようという大なる意欲とともに研究生活を続けようとしているわけである。諸君が実証的研究、理論的研究のいずれを目指そうとも、自ら設定した問題の解決のためには客観的な理論、科学的な知識の習得が必要であるし、同時に現実問題に対する認識がなければならない。いずれに重点がおかれるかといった相対的な軽重の差はあるものの、両者の視点を了解しておくという意味からいって、研究に必要とされる基本的な姿勢には変わりがないとあってよいであろう。したがって、研究者としては、できうる限り幅広い研究を試み、同一分野でも問題に対する接近方法に相違があることを確認して、自らの視点を改めて問い直すという姿勢が重要な意味をもつことになるのであり、そのうえで自らの問題とする点に焦点をあて、研究を深化させてゆくことが望ましいことといえる。

このようなことを考慮に入れ、商学研究科では、実証的研究だけではなく、客観的な理論、科学的知識の認識進歩問題に取り組む素養を涵養することを目的に、カリキュラムの改善・整備に努めてきている。共通科目、専攻基本科目と総称されている科目がこのような目的を充足するものである。また同一の分野であっても、異なった視点や接近方法がとられている場合が少なくなく、こうした異なった立場にたって研究を行なっている人々が一同に会して、発表・討論を行なうという合同演習の制度が各専門分野で導入されている。さらに、広く海外の大学院との交換留学の制度の充実、世界銀行の奨学制度による留学生の受け入れにも努め、加えて著名な研究者による特別講義を開設するなど、できるだけ広い視野にたった研究能力が涵養できるようにも努力してきている。諸君らがこうしたカリキュラムを自らの研究のために自主的に大いに活用されることを期待し、またその一方で、商学研究科自体も、より良い制度を求めて改善の方向性を模索してゆく努力を継続しなければならないと考えている。諸君らが批判精神をもって着実に

自らの研究に取り組まれんことを願っている。

最後に博士課程に籍をおいている諸君には、この履修案内に掲載されている学位授与に関する内規に照らして、計画的に・着実に準備されるよう助言しておきたい。

商学研究科委員長

桜 本 光

# 学則の説明と履修上の注意

履修申告にあたっては、以下の説明をよく読み、適切な科目選択と誤りのない手続きに心掛けてほしい。

## 商学研究科の構成

大学院商学研究科の博士課程は、前期博士課程（標準修業年限2年）と後期博士課程（同3年）に区分され、前者は修士課程として扱われている。いずれの課程も商学専攻と経営学・会計学専攻とに分かれているが、修士課程ではさらに10の専門分野に分かれている。

## 学則の主要な特色

上記の枠組みを基礎としながら商学研究科では、修士課程、博士課程についての学則を1995年度から改正した。

現行学則の主な特色は以下のとおりである。

1. 4月入学3月修了は当面維持するが、半期制の原則を採用している。この結果幾つかの例外を除いて、授業は半期単位のまとまりで行なわれる。したがって単位数は半期につき週2回集中授業のものが4単位、週1回のものが2単位となる。これによって、研究上の必要と関心とに応じてより効率的に科目履修ができるようになっている。
2. 修士課程においては、科目の性格にしたがって、「共通科目」、「専攻基本科目」、「分野専門科目」の区分がある。「共通科目」は、研究の視野の拡大、研究方法の基礎の形成に役立つ科目群によって構成される。「専攻基本科目」では、各専攻分野の総論的、もしくは基本的な部分が扱われる。「分野専門科目」は、各専攻分野の特殊な論題などを深く究明する科目群と、演習科目群とによって構成されている。「共通科目」、「専攻基本科目」には、講義、コース・ワークなどが随時織り込まれており、研究に必要な基礎的な力の養成を目的としている。したがって、専門分野の異なる人々の履修も想定されている。（例：経営学分野の大学院生の「マクロ・マーケティング論」の履修、商業学分野の大学院生の「統計学基礎理論」の履修等）
3. 修士課程では「演習」のほかに「合同演習」、後期博士課程では「特殊演習」のほかに「特殊合同演習」がある。これらの科目の授業方法には多様な形態がある。分野あるいは「テーマ」を同じくする大学院在籍者のもとより学部若手スタッフ、大学院担当者などすべての出席のもとに開催される合同研究発表会、ジョイント・ワークショップあるいは国内外の大学との共同研究プロジェクトの研究会などがある。とくに後者については大学院生の海外大学院での調査研究も組み込まれる予定になっている。これによって海外での共同研究経験をもつ大学院生の養成を目指している。個別的指導を中心とした「演習」、「特殊演習」にない多彩な研究の場を提供するねらいがある。
4. 修了要件は、指導教授の下での個別研究指導の長所を活かしながらも、より広い視野から個別研究

主題に接近できるように配慮されている。修士課程では、修了必要単位30単位のうち、20単位以上を上記の「専攻基本科目」、「分野専門科目」から選択履修することになる。この場合、それらには自分が所属する専攻の演習科目（含む「合同演習」）8単位が含まれねばならない。しかし、その残りについては自分の所属する専攻の設置科目かどうかは問わない。後期博士課程では、総必要単位12単位のうち自己の所属する専攻の演習科目8単位（含む「特殊合同演習」）を含むことが要件となる。

## 履修上留意すべき点

詳細については大学院学則の参照を望むが、上に述べた学則の趣旨を十分に活用するために、とくに以下の諸点に留意してほしい。

### A. 修士課程，後期博士課程共通

1. 両課程とも、学則上の科目表記につけられているアルファベットは繁雑になるので開講科目名では省略されている。その代わりに、「演習」を除く修士課程の「分野専門科目」および後期博士課程の科目では、科目名の直後に授業の主題が括弧内に表示されている。
2. 同一科目名，同一担当者の科目であっても、授業内容が異なれば重複履修ができる。
3. 修士課程の「合同演習」，後期博士課程の「特殊合同演習」は科目の性格上，出席するだけでは単位が認定されない。合同研究会での研究発表，リサーチ・ワークへの参加・報告の作成などによってはじめて単位となることが多い。各々の「合同演習」，「特殊合同演習」のコーディネーターに単位確認の条件を事前に確かめておくことを勧める。
4. 授業科目の選択履修にあたっては，あらかじめ指導教授（「演習」，「特殊演習」の担当者）の指示を受けなければならない。指導教授が適当と認めた場合には，他研究科の授業科目を履修することができる。この場合の修得単位は修了必要単位に計算される。（修士課程の場合は，「専攻基本科目」または「分野専門科目」として）また，指導教授は修士課程にあつては学部の授業，後期博士課程にあつては修士課程の授業を指定して履修させることがある。この場合は修了のために必要な単位には算入されない。
5. 海外の大学の大学院で修得した単位も，要件を満たせば一定の範囲内で修了単位に計算される。詳細は学習指導委員に問い合わせしてほしい。

### B. 修士課程

1. 「共通科目」，「専攻基本科目」，「分野専門科目」の間に，科目選択の順序はとくに学則に定められてはいない。しかし，おおよそ「共通科目」，「専攻基本科目」などの基本的な科目をできるだけ早期に修得し，その後次第に「分野専門科目」に重点を置いて行くことを予定している。「共通科目」，「専攻基本科目」に必修の単位数は規定されていないが，これらに配置された科目群は研究の基礎固め，視野の拡大に資するものばかりなので積極的な履修を期待する。指導教授とよく相談し，それぞれの実情にあった科目選択をしてほしい。
2. 修了に必要な単位数は30単位であるが，そのうち少なくとも20単位は「専攻基本科目」，「分野専門科目」の科目の単位でなければならない。この両者ともその科目の設置されている専攻，分野が

必ずしも自分の所属する専攻，分野である必要はない。ただし，自分の属する専攻の演習科目（「演習」あるいは「合同演習」）8単位だけは必ず含まなければならない。

3. 上記2であげた単位数以上の修得と，修士論文の審査および最終試験の合格が修士課程の修了要件となる。修士論文は研究科委員会に定める期日までに提出しなければならない。
4. 修士課程2年目は，論文作成に多くの時間を費やすようになるので，できるだけ1年目に多くの科目の履修選択を勧める。また，修士課程の目的と上記1の趣旨に照らして研究の視野を広げるための科目，研究の基礎となる科目の早期履修を期待する。
5. 後期博士課程進学希望者には，「専門外国書研究」の履修が有用となる。
6. 2002年度入学者より，プロフェSSIONALのためのアカデミックな教育プログラム（APPs; Academic Program for Professionals）および APPs・AO入試が創設され，カリキュラムが再検討された。この結果，商学研究科がこれまで持ち続けてきた基本理念をこれまで以上に重視し，それに沿った教育を実施していくことが大切であるとの考えで一致した。ただし近年，授業に対する社会の要請も変わりつつあることから，新たに共通科目三科目と，「環境」「イノベーション」「ファイナンス」「非営利組織」「戦略」の五つの分野を対象とする専門科目を設置することにした（P.32参照）。これらの新設科目については，すべての学生が履修可能なので，学生全員の履修を勧めたい。

#### C. 後期博士課程

1. 修了に必要な総単位数は12単位である。ただし，そのうち8単位は自分の属する専攻の演習科目（「特殊演習」あるいは「特殊合同演習」）でなければならない。
2. 上記1の単位数以上を修得し，博士論文の審査および最終試験に合格することが修了の要件となる。
3. 後期博士課程入学試験において英語（読解）と英語（作文）の組み合わせで受験した者は修士課程設置の英語以外の「専門外国書研究」を，また英語（読解）と独，仏，中いずれかの語学との組み合わせで受験した者は同じく修士課程設置の英語の「専門外国書研究」を，それぞれ博士課程修了までに履修することを強く希望する。なお，すでに修士課程において該当の科目を履修した者はこの限りではない。
4. 博士学位に関する制度のうち，課程による博士学位については博士論文の円滑な作成と研究水準の維持とを目的とした特別な研究指導制度が設けられている。（後掲内規参照）

大学院は，広い視野と豊かな学識に基づく専門分野における高度な研究能力を陶冶する場であると考えられる。この趣旨にそって各自がこれまでの成果の上に立ってさらに研鑽を積まれることを願ってやまない。講義要綱や履修上の問題について疑問・不明な点があれば，学習指導委員または学事センター商学研究科係まで問い合わせられたい。

商学研究科学習指導委員

黒川 行 治

# 目 次

平成17年度（2005年度）学事関連スケジュール .....	9
一般注意事項 .....	10
履修申告のしかた .....	20
履 修 要 項 .....	32
開講科目と単位数 .....	32
課程修了にいたるまでの要件 .....	38
履 修 方 法 .....	38
学位請求論文の提出について .....	38
留 学 について .....	40
単位取得退学および在学期間延長 .....	40
海外の教育機関に留学する場合の取扱いについて .....	42
講義要綱・シラバス .....	43
修士課程設置科目 .....	44
博士課程設置科目 .....	91
各研究科共通の科目 .....	105
関係規程抜粋 .....	153
学位請求論文製本表紙見本 .....	161



# 平成17年度（2005年度）学事関連スケジュール

成績証明書発行（2年生以上）	4月1日（金）	12時30分～	
慶應義塾大学在外研修プログラムガイダンス	4月4日（月）	13時	528 番教室
教育実習事前指導（今年度実習予定者）	4月5日（火）	14時45分	517 番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日（水）	16時30分	531 番教室
入学式	4月7日（木）	9時	西校舎ホール
履修案内等資料配付	4月7日（木）	10時30分～11時	519 番教室
ガイダンス	4月7日（木）	11時	519 番教室
学事 Web システムパスワード変更締切	4月7日（木）	16時30分	学事センター
教職課程ガイダンス	4月7日（木）	16時30分	517 番教室
教育実習ガイダンス（来年度実習予定者）	4月7日（木）	18時10分	513 番教室
春学期授業開始	4月8日（金）		
履修申告用紙配付日	4月11日（月）・12日（火）	8時30分～18時10分	学事センター
Web による履修申告期間	4月14日（木）	10時～16日（土）13時	
履修申告用紙による履修申告日	4月15日（金）	8時30分～18時10分	学事センター前受付ボックス
開校記念日（休講）	4月23日（土）		
在学料等納入期限（全納または春学期分納）	4月28日（木）		
履修申告科目確認表送付（本人宛）	5月上旬（掲示を出します）		
健康診断	5月上・中旬		
履修申告修正受付	5月6日（金）～10日（火）（予定）		
修士課程2年生修了見込証明書発行	5月6日（金）以降		
博士課程3年生単位取得退学見込証明書発行			
早慶野球戦	5月下旬		
春学期補講日	7月11日（月）・15日（金）		
春学期授業終了	7月16日（土）		
春学期末試験（この期間は授業は行われません）	7月19日（火）～27日（水）		
夏季休業	7月28日（木）～9月21日（水）		
（三田キャンパス一斉休業）	8月9日（火）～15日（月）		
春学期学業成績表送付（本人宛）	9月中旬		
秋学期授業開始	9月26日（月）		
9月学位授与式	9月29日（木）		
在学料等納入期限（秋学期分納）	10月31日（月）		
早慶野球戦	10月下旬		
秋学期補講日(1)	11月18日（金）	午前	
三田祭（準備・本祭・片付を含む）（休講）	11月18日（金）	午後～11月24日（木）	
休学願提出期限（今年度分）	11月30日（水）		
冬季休業	12月23日（金）～1月5日（木）		
（三田キャンパス一斉休業）	12月28日（水）～1月5日（木）		
授業開始	1月6日（金）		
福澤先生誕生記念日（休講）	1月10日（火）		
秋学期月曜代替講義日	1月18日（水）		
秋学期補講日	1月20日（金）		
秋学期授業終了	1月21日（土）		
秋学期末試験（この期間は授業は行われません）	1月23日（月）～2月4日（土）		
福澤先生命日	2月3日（金）		
春季休業	2月上旬～3月下旬		
学業成績表送付（本人宛）	3月中旬		
3月学位授与式	3月29日（水）		

（注1） 印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

（注2） 事情により日程・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。変更がある場合は掲示板への掲示が優先します。

その他、主要提出物締切日一覧（提出先：学事センター 詳細は掲示でお知らせします。）

研究報告会（後期博士課程対象）募集締切	（10月下旬開催分）	8月下旬	
	（3月下旬開催分）	1月初旬	
修士論文題目届提出締切		11月中旬	1
修士論文提出締切		1月上旬	1
小泉信三記念 大学院特別奨学研究生募集申込締切		1月中旬	
後期博士課程 在学期間延長許可願・単位取得退学届提出締切		2月上旬	2
1 38ページ 「第4 学位請求論文の提出について」参照			
2 40ページ 「第6 単位取得退学および在学期間延長」参照			

# 一 般 注 意 事 項

## 学 生 証 (身 分 証 明 書)

- 1 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
- 2 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
  - (1) 本塾教職員の請求があった場合
  - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
  - (3) 各種試験を受験する場合
  - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
- 3 再交付手続  
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。  
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として2,000円が必要です。
- 4 返 却  
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

## 掲 示 板

- 1 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。  
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある共通掲示板および学部共通掲示板をご覧ください。
- 2 主な掲示事項  
授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等。休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-modeのみ）により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。（27ページを参照してください。）  
また、掲示の一部は塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) でも確認できます。

## 試験・レポート等

### 1 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には、掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

### 2 レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターおよび西校舎一階掲示板前に備えてあります。

### 3 学位請求論文（修士論文・博士論文）

38～40ページ、および156・161ページを参照してください。

### 4 成績通知

修士課程・後期博士課程とも学業成績表は9月中旬および3月中旬に本人宛に発送します。なお、取得した科目の成績が成績証明書に記載される時期は、翌年度の4月以降となります。ただし、修士修了決定者の証明書については申請方法を3月に掲示します。

## 諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

### 1 休学願・退学届・就学届

「病気その他やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要な期間休学することができる」（学則第125条）

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授および学習指導の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶときは、改めて許可を得なければなりません。休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合にはあわせて医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて学事センター窓口に出しなければなりません。

### 2 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」（学則第124条）

詳しくは、40・42ページも参照のうえ、学事センター商学研究科係に問い合わせてください。

### 3 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届出は、受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

- ・住所変更届：在学カード
- ・保証人変更届：変更届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），保証人住民票
- ・改姓(名)届：改姓(名)届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），戸籍抄本，学生証再交付願  
また，学生総合センター学生生活支援窓口に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても，正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお，履修上の連絡，あるいはその他の重要な事柄の処理に際し，これらの変更届が出されない場合は，極めて重要な支障をきたすことがありますので，十分に注意してください。

## 各種証明書

証明書の発行，申込み，受取，いずれの場合でも学生証が必要です。

在学料等が未納の場合，すべての証明書が発行できません。

### 1 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

料金は改定されることがあります。

在学証明書（4月1日 12時30分～）	1通 200円
成績証明書（4月1日 12時30分～）	
修士課程修了見込証明書（5月6日～）	
履修科目証明書（6月1日～）	
修士課程修了見込証明付成績証明書（5月6日～）	1通 400円
学割証（JR 各社共通）	無料
健康診断証明書（6月中旬～年度内）	1通 200円

### 注 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時 [授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く]

メンテナンス，故障等により，証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し，あらかじめ早めに準備してください。

学割証（JR 各社共通）は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお，定期健康診断を未受診の場合には，学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

各種証明書等で厳封を必要とする場合には，学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません）。

健康診断証明書は6月中旬以降，定期健康診断受診者を対象に発行されます。

なお，奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は，保健管理センター三田分室受付に相談してください。

## 2 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

いずれも1通200円。（料金は改定されることがあります）

- (1) 英文在学証明書（4月1日12時30分～）
- (2) 英文修了見込証明書（5月6日～）
- (3) 英文成績証明書（4月1日12時30分～）

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり学事センター窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

## 3 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

# 学事センターの窓口

## 1 学事センター事務取扱時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日……8時30分～18時10分

〔なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。〕  
8時30分～16時30分

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日……8時30分～11時30分、12時30分～16時30分

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

## 2 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み（学部設置の科目）
- (6) 休学願・留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

修了後の成績証明書等の申込み・発行は、塾員センター（北館3階）で行います。

## 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）…… 研究室（三田研究室棟）

日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）…… 教員室（南校舎 2 階）

## 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生総合センターの窓口業務について紹介します。

### 学生生活支援窓口

#### 学生談話室 A・B の使用申込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の 4 日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

#### 山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後 1 週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

#### 学外行事届の受付

公認学生団体・研究会等で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その 4 日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

#### 学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

#### 備品使用申請の受付

ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の 4 日前までに申請してください。

#### 車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の 4 日前までに申請してください。

#### 学生ラウンジの使用

南校舎 1 階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は 8 時 45 分～21 時です。室内での飲食はできません。

## 伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

## その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

## 奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

### ・慶應義塾大学奨学金 [給費]

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

### ・日本学生支援機構奨学金 [貸費]

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と1999年度から設置された第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

### ・地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金 [給費・貸費]

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

### ・指定寄付奨学金 [給費]

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

## 奨学融資制度 [奨学金付き学費ローン]

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

## 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので口座登録が必要です。

### (1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院

は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」(学生総合センターにも置いてあります)をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職担当、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室 (西校舎地下2階)

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみつめることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています(このスケジュールは相談室に問い合わせてください)。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても個人の秘密を厳守しますし、すべては来訪者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援、就職・進路支援

月～金曜日…… 8時30分～17時 都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

学生相談室

月～金曜日…… 9時30分～16時30分

土曜日……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分



## 学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし，もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式など，教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舍にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハンググライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるため，ゼミ合宿を学外で行う場合，および学内学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

## 任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は，(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03 - 3453 - 6098

慶應生活協同組合 Tel. 045 - 563 - 8489

学生カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1 提出学年

全学年

## 2 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

## 3 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に提出してください）。

## 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

学部学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

## 緊急時における授業の取扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取扱いは次のとおりとします。

### 1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取扱い

#### 【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

#### 【対象路線】

- ・山手線      ・中央線（東京―高尾間）      ・京浜東北線（大宮―大船間）
- ・東急（電車に限る）

のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとします。

#### 【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

#### 【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

## XI 早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします（3回戦以降もこれに準じます）。

雨天等により試合が中止になるときは、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス TEL 03-3236-8000

# 履修申告のしかた

## 1. 履修申告について

### (1) 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、両方法を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください）。

### (2) 履修申告上の注意

履修申告にあたり、前年度以前の入学者はすでに本人宛に送付されている2004年度の学業成績表により、取得した科目を確認し、「履修要項」、「履修申告のしかた」（本項）を熟読して、申告してください。特に誤登録、申告漏れ等によって不都合が生じることがあります（課程修了に影響する場合があります）ので十分に注意してください。

原則として、申告期間後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分にすることとなります（学則第 161 条）。

### (3) 学事 Web システムによる申告

4月14日（木）10時～4月16日（土）13時

期間中は何回でも履修の修正が可能です。最終日に初めて申告するのではなく、なるべく早いうちから申告を行なうようにしてください。ただし、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止しています。

### (4) 履修申告用紙による申告（履修申告用紙提出日）

（修士・博士同日）4月15日（金）8時30分～18時10分まで 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センター窓口にお問い合わせください。

(6) 履修申告科目確認表（履修申告した授業科目のリスト）は5月上旬に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で、この期間経過後は確認は終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

- (8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

## 2. 履修科目の登録方法

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。  
(2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義等、複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を登録することで、他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできませんので注意してください。

また、商学研究科設置科目のうち他研究科・研究所と併設している科目については、必ず商学研究科の設置科目を履修しなければなりません。商学研究科の時間割の登録番号で登録確認してください。（諸研究所設置科目の登録番号は商学部時間割の巻末で確認してください。商学部時間割は学事センター窓口で閲覧できます。）

- (3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（A欄申告）と、各自分野を選択しなければならない場合があります。（B欄申告。申告の際は2桁のB欄分野番号を登録します。）どちらの欄で登録するかは30ページ以降の分野番号表を参照してください。

## 3. 学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システム URL : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp>

学事 Web システムを利用するためにはID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、修了するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の5つの機能があります。

履修申告（履修申告期間中は、何度でも修正が可能です）

登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます）

休講・補講情報の確認

パスワード変更

受付確認メールの送付先アドレス変更

また携帯電話（i-mode のみ）では、上記のうち 休講・補講情報の確認、パスワード変更、を行うことができます。

...注 意...

学事 Web システムは、4月1日（金）から休講情報の確認ができます。必ず4月7日（木）までにログインできることを確認してください。もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（木）16時30分までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2004年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は2005年3月に送付した成績表に印字されています）。

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC。大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます）。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名） 学籍番号

（Windows アカウントのユーザー名） m \*\*\*\*\* または d \*\*\*\*\*

(1) 学事 Web システム操作上の注意

- ・複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- ・学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- ・学事 Web システムは30分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ・ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押したり、30分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- ・学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定方法や履修エラーメッセージ詳細説明, Q&A (質問回答集), Web 履修にあたっての注意事項 (地区 / 学部別) については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ ([http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index\\_br\\_top.html](http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html)) からのリンクを参照してください。

(2) 履修の申告

2005年度の学事 Web システムを利用しての履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4月14日（木）10時～16日（土）13時

学事 Web システムの URL

<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告(申告の修正)を行ってください。

### 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「インターネットエクスプローラ」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



学事 Web システムブラウザ用トップページ  
学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



### ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述の画面の「ログインできない時」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。



## トップメニュー画面

右の画面（トップメニュー画面）の「メールアドレス登録・変更」から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[登録]ボタンをクリックしてください。

（学事センターからの連絡や呼出などがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります。）



## （注意）学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて

学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp>) に登録されているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しております。

履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

学事 Web システムには学校配付のメールアドレス（\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp 等）を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。メールアドレスのユーザー名（例：'\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp' の\*\*\*\*\*部分）は変更できません。またユーザー名のみ登録しても届きません。ご注意ください。

## 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

## 科目の選択

右の画面が「履修申告メイン画面」になります。(a) と (b) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

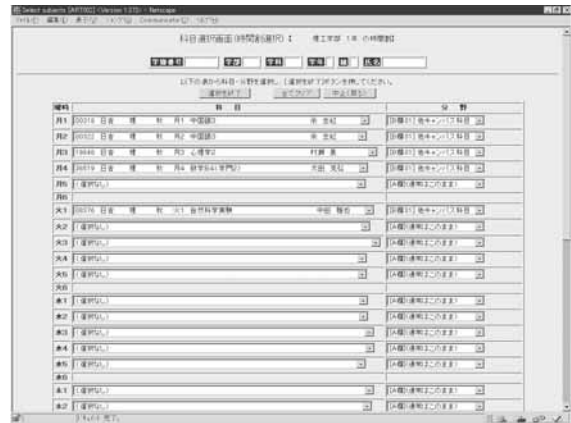
### (a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置研究科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください（初期設定では自分の所属する研究科および学年が自動的に指定されています）。





科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他研究科の科目を履修する場合などで、分野を「A欄」以外で選択する場合は30ページ以降の分野番号表を参照してください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、履修書類配付時に配付された時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、科目情報欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に [選択を終了] を押ししてください。



(a) (b) いずれの方法も、分野（A・B欄）の選択方法は同じですので、30ページ以降の分野番号表を参照してください。

(a) (b) の手順は、連続して行うことができます。同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

選択した科目の確認

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。（選択直後は 状態 欄に「未登録」として表示されます。）

選択した科目を取り消す場合

の画面から、取り消したい科目の登録No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧



表から削除されたことを確認してください。

### 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。 および  
で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

### 登録結果表示の確認

履修申告メイン画面の [登録] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。(エラーメッセージの詳細については、 の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。) 右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控えとしてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、 からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。ここで Web ブラウザーを終了しないでください。 (ブラウザの右上の × 印をクリックして閉じないでください)



### 受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、 で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送信されます。(この場合は、メールアドレスの登録はされません。) [指定しない] ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配付のメールアドレスを指定する

ようにしてください（参照）。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

### (3) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。（確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(2)の（トップメニュー画面）までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

### (4) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、以下のページおよび各キャンパスの掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL)

URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

[ブラウザ編]

(2)の から までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

(2)の（トップメニュー画面）の画面から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



年月日	曜日	曜日	科目名	担当教	備考
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-1(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-2(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-3(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-4(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-5(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-6(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-7(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-8(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-9(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-10(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-11(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-12(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-13(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-14(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-15(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-16(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-17(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-18(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-19(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-20(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-21(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-22(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-23(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-24(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-25(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-26(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-27(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-28(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-29(1)	堀江 洋平	
2007-12-19	月	日	英語Ⅰ-30(1)	堀江 洋平	

休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

## [i-mode 編]

学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力 (詳しくは携帯電話の説明書をお読みください) し、(2) の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくとう便利です。(詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください)。

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。

「学籍番号」と(2)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。

この画面から [休講情報] あるいは [補講情報] ボタンを押してください。

パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の(5)を参照してください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

### (5) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

前述(2)の (トップメニュー画面) の画面から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後 (再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

#### 【注 意】

パスワードは英数字半角で入力してください (大文字 / 小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。(22ページ「注意」参照)

## 4. 履修申告用紙（マークシート）での申告について

Web による履修申告がやむをえずできない場合には、以下の日程で履修申告用紙（マークシート）を配付します。以下の提出日を過ぎると申告用紙での申告はできません。

履修申告用紙配付日・場所

4月11日(月)・12日(火) 学事センター

履修申告用紙提出日・場所

4月15日(金) 8時30分～18時10分 学事センター前受付ボックス

いずれも修士・博士同日となります。

履修申告用紙記入の際は、以下の点に注意してください

- (1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (2) 学籍等の記入方法  
研究科，専攻，学年，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。
- (3) A 欄記入上の注意事項  
ア 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。  
イ 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。  
ウ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
- (4) B 欄記入上の注意事項  
ア 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。  
イ 科目名・教員名を記入します。  
ウ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。  
エ 分野欄：分野番号表より 2 桁の履修申告用 B 欄分野を記入し，マークします。
- (5) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，「無効マーク」を利用してください。
- (6) 履修申告用紙の再交付について  
履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は，なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので，その履修申告用紙を持参のうえ，学事センター窓口に出してください。  
交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。

[修士課程分野番号表]

科目の分類	分野番号	分類の説明
共通科目	01 - 01 - 01	商学研究科修士課程に共通科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
専攻基本科目	01 - 02 - 01	商学研究科修士課程に専攻基本科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
分野専門科目	01 - 03 - 01	商学研究科修士課程に分野専門科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
自専攻内演習科目	01 - 04 - 01	商学研究科に分野専門科目として設置されている授業科目のうち自己の所属する専攻の演習もしくは合同演習の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
指定他研究科科目	01 - 05 - 01	指導教授が必要と認める他の研究科修士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>B欄で申告してください。</u> (B欄分野：21)
指定科目(自由)	09 - 01 - 01	指導教授が必要と認める学部の授業科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。</u> (B欄分野：30)
自由科目	09 - 02 - 01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。</u> (B欄分野：31)

8  
単位  
以上

20  
単位  
以上

30  
単位  
以上

[博士課程分野番号表]

科目の分類	分野番号	分類の説明
講義科目	01 - 01 - 01	商学研究科博士課程に設置されている講義科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
自専攻内演習科目	01 - 02 - 01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）のうち、自分の所属する専攻の演習科目で修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
他専攻演習科目	01 - 03 - 01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）のうち、自分の所属する専攻以外の専攻に設置されている演習科目で修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
指定他研究科科目	01 - 04 - 01	指導教授が必要と認める他の研究科博士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>三田地区の研究科博士課程（文・経・法・社）の授業科目はA欄で、他は、B欄で申告してください。（B欄分野：21）</u>
指定科目（自由）	09 - 01 - 01	指導教授が必要と認める研究科修士課程の授業科目または学部の科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>三田地区の研究科修士課程（文・経・法・社・商）の授業科目はA欄で、他は、B欄で申告してください。（B欄分野：30）</u>
自由科目	09 - 02 - 01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。（B欄分野：31）</u>

8  
単  
位  
以  
上

12  
単  
位  
以  
上

# 履 修 要 項

## 第 1 開講科目と単位数

2005年度商学研究科に開講される科目と単位数は次のとおりです。なお、特定期間集中の科目は、掲示でその期間を確認してください。

印は、APPs (Academic Program for Professionals) 創設にともない、2002年度より新たに開講された科目をあらわします。

### 1. 修士課程設置の科目

#### (1) 共通科目

科 目 名	単位数	授業形態
ビジネス・エコノミクス	2	春・秋学期
ビジネス・ヒストリー	2	秋学期
社会科学方法論	2	春学期
専門外国書研究(英書)	2	通年
専門外国書研究(独書)	2	通年
専門外国書研究(仏書)	2	通年
ジャパニーズ・エコノミー	2	春学期
統計学基礎理論	2	春学期
経済数学基礎理論	4	通年
特別講義(先端技術と社会)	2	秋学期
統計解析	2	春学期
会計情報の作成と見方	2	秋学期
経済・金融指標の見方・使い方	2	春学期

#### (2) 専攻基本科目

##### 1) 商学専攻，経営学・会計学専攻共通

科 目 名	単位数	授業形態
環境の経済・経営・商業・会計	2	春学期
イノベーションの経済・経営・商業・会計	2	春学期
ファイナンスの経済・経営・商業・会計	2	秋学期
非営利組織の経済・経営・商業・会計	2	秋学期
戦略の経済・経営・商業・会計	2	秋学期



2) 商学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
マクロ・マーケティング論	2	春学期
ミクロ・マーケティング論	2	秋学期
租 税 法	2	春学期
租 税 法	2	秋学期
金 融 論	2	春・秋学期
リスク・マネジメント論	2	秋学期
交 通 ・ 公 共 政 策 論	2	休 講
産 業 組 織 論	2	春学期
計 量 経 済 学	2	春・秋学期
理 論 経 済 学	2	秋学期
国 際 経 済 学	2	秋学期
国 際 経 済 学	2	秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史	2	春学期

3) 経営学・会計学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
現 代 日 本 経 営 論	2	春学期
経 営 学 説	2	春学期
会 計 学	2	秋学期
労 働 経 済 学	2	春学期
産 業 関 係 論	2	春学期

(3) 分野専門科目

1) 商学専攻

商業学分野

科 目 名	単位数	授業形態
マクロ・マーケティング特論	2	春・秋学期
ミクロ・マーケティング特論	2	春・秋学期
商 業 学 演 習	2	春・秋学期
商 業 学 合 同 演 習	2	秋学期

金融・証券論分野

科 目 名	単位数	授業形態
金 融 特 論	2	春・秋学期
証 券 特 論	2	春・秋学期
財 政 特 論	2	春・秋学期
税 務 行 政 特 論	2	春学期
金 融 論 演 習	2	春・秋学期
金 融 論 合 同 演 習	2	春・秋学期
財 政 論 演 習	2	春・秋学期
税 制 ・ 経 済 政 策 演 習	2	春・秋学期

保険論分野

科 目 名	単位数	授業形態
リスク・マネジメント特論	2	秋学期
保 険 特 論	2	春学期
保 険 経 営 特 論	2	秋学期
リスク・保険論演習	2	春・秋学期
リスク・保険論合同演習	2	休 講

交通・公共政策・産業組織論分野

科 目 名	単位数	授業形態
交通・公共政策特論	2	春・秋学期
経 済 地 理 特 論	2	休 講
産 業 組 織 特 論	2	春学期
交通・公共政策演習	2	春学期
産 業 組 織 論 演 習	2	秋学期
公共政策・産業組織論合同演習	2	春学期

計量経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
計 量 経 済 学 特 論	2	春学期
数 理 統 計 学 特 論	2	春学期
産 業 連 関 特 論	2	春学期
開 発 経 済 特 論	2	秋学期特定期間集中
計 量 経 済 学 演 習	2	春・秋学期
計 量 経 済 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

国際経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
国 際 関 係 特 論	2	春・秋学期
国 際 金 融 特 論	2	秋学期
国 際 経 済 特 論	2	春学期
国 際 経 済 学 演 習	2	春・秋学期
国 際 経 済 政 策 演 習	2	秋学期
国 際 経 済 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

産業史・経営史分野

科 目 名	単位数	授業形態
産 業 史 特 論	2	秋学期
経 営 史 特 論	2	春学期
流 通 史 特 論	2	休 講
産 業 史 ・ 経 営 史 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 合 同 演 習	2	休 講

2) 経営学・会計学専攻

経営学分野

科 目 名	単位数	授業形態
現 代 企 業 経 営 特 論	2	春・秋学期
経 営 管 理 特 論	2	春・秋学期
比 較 経 営 特 論	2	春学期特定期間集中
経 営 学 演 習	2	春・秋学期
経 営 学 合 同 演 習	2	秋学期

会計学分野

科 目 名	単位数	授業形態
財 務 会 計 特 論	2	春・秋学期
管 理 会 計 特 論	2	春・秋学期
会 計 史 特 論	2	春・秋学期
会 計 学 演 習	2	春・秋学期
会 計 学 合 同 演 習	2	休 講

産業関係論分野

科 目 名	単位数	授業形態
労 働 経 済 特 論	2	秋学期
産 業 関 係 特 論	2	春・秋学期
産 業 社 会 特 論	2または4	春・秋集・秋学期
社 会 保 障 特 論	2	春学期
産 業 関 係 論 演 習	2	春・秋学期
産 業 関 係 論 合 同 演 習	2	春・秋学期

## 2. 後期博士課程設置の科目

### 1) 商学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
商 業 学 特 殊 研 究	2	春・秋学期
商 業 学 特 殊 演 習	2	春・秋学期
商 業 学 特 殊 合 同 演 習	2	秋学期
金 融 論 特 殊 研 究	2	春・秋学期
金 融 論 特 殊 演 習	2	春・秋学期
金 融 論 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期
財 政 論 特 殊 研 究	2	春・秋学期
財 政 論 特 殊 演 習	2	春・秋学期
リ ス ク ・ 保 険 論 特 殊 研 究	2	春・秋学期
リ ス ク ・ 保 険 論 特 殊 演 習	2	休 講
リ ス ク ・ 保 険 論 特 殊 合 同 演 習	2	休 講
交 通 ・ 公 共 政 策 特 殊 研 究	2	秋学期
交 通 ・ 公 共 政 策 特 殊 演 習	2	春学期
産 業 組 織 論 特 殊 研 究	2	春学期
産 業 組 織 論 特 殊 演 習	2	秋学期
交 通 ・ 公 共 政 策 ・ 産 業 組 織 論 特 殊 合 同 演 習	2	春学期
計 量 経 済 学 特 殊 研 究	2	春・秋学期
計 量 経 済 学 特 殊 演 習	2	春・秋学期
計 量 経 済 学 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期
統 計 学 特 殊 研 究	2	春学期
統 計 学 特 殊 演 習	2	休 講
国 際 経 済 学 特 殊 研 究	2	春・秋学期
国 際 経 済 学 特 殊 演 習	2	春・秋学期
国 際 経 済 学 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 特 殊 研 究	2	春学期
産 業 史 ・ 経 営 史 特 殊 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 特 殊 合 同 演 習	2	休 講

## 2) 経営学・会計学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
経営学特殊研究	2	春・秋学期
経営学特殊演習	2	春・秋学期
経営学特殊合同演習	2	秋学期
会計学特殊研究	2	春・秋学期
会計学特殊演習	2	春・秋学期
会計学特殊合同演習	2	休 講
産業関係論特殊研究	2	春・秋学期
産業関係論特殊演習	2	春・秋学期
産業関係論特殊合同演習	2	春・秋学期

## 第2 課程修了にいたるまでの要件

### 1. 修士課程 (大学院学則第76条, 77条, 109条参照)

2年間以上商学研究科修士課程に在籍し, 学位論文(修士論文)の審査ならびに最終試験に合格すること, および次の必要単位を充たすこと。

共通科目, 専攻基本科目, 分野専門科目から合計30単位以上を履修・合格すること。ただし, そのうち20単位以上は専攻基本科目と分野専門科目とし, かつ自分の所属する専攻の演習または合同演習の合計8単位以上を含まなければなりません。

### 2. 後期博士課程 (大学院学則第83条, 109条参照)

3年間以上商学研究科後期博士課程に在籍し, 学位論文(博士論文)の審査ならびに最終試験に合格すること, および次の必要単位を充たすこと。

自分の所属する専攻の演習8単位以上を含む授業科目12単位以上を履修・合格すること。

なお, 上記要件のうち, 学位論文の審査および最終試験を除き, 所定の教育課程を終えた段階で終了する場合「単位取得退学」として扱われます。(第6 単位取得退学および在学期間延長の箇所を参照してください)

## 第3 履修方法

具体的な履修については, 本書熟読の上, 指導教授と必ず相談して決定してください。なお, それでも不明な点がある場合は, 学習指導担当教員又は, 学事センター商学研究科係に問い合わせをするようにしてください。

## 第4 学位請求論文の提出について

### 1. 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は, 大学院前期博士課程, 大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第3条)

第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は, 学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第7条 )

修士論文提出に関する手順は次のとおりです。

#### (1) 修士論文題目届 (11月中旬締切)

指導教授と相談の上, 修士論文の提出が許可された場合は, 所定用紙(学事センターで交付)にて論文題目を届け出てください。詳細については10月中旬に掲示板にて指示します。

なお, この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は, 必ず学事センターに申し出てください。

#### (2) 論文提出 (1月上旬締切予定)

提出日, 提出方法については掲示板上にて指示します。なお, 論文題目については(1)で提出した

題目（副題目も含む）と同じものとします。

(3) 修士論文面接（2月下旬または3月初旬予定）

提出された論文をもとに面接が行われます。面接日時および可否の結果については後日、掲示で通知します。

## 2. 博士論文の提出と博士学位の授与

(1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。（学位規程第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条）

なお、商学研究科では課程による博士論文の早期作成および研究水準維持を目的とした特別な研究指導制度が設けられていますので、巻末の関連規定1-3「商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規」を参照してください。

(2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。（同第8条）

博士論文を提出する場合は、学事センター窓口で提出書類、手続方法について確認してください。なお、博士論文の審査については、「博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする」（学位規程第10条）と規定されています。

## 3. 論文体裁

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）および国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく以下の体裁に整えるよう協力をお願いします。提出する論文について修士論文の場合は製本したものを1冊と、簡易製本を3冊提出してください。博士論文の場合は最低限2冊を製本してください。（但し、博士論文については論文の整理・保管・審査の都合上できる限り3冊とも製本するよう協力をお願いします。）いずれの場合でも論文の提出メ切りは厳守してください。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

表紙は黒を原則とし、白文字を使用してください。

製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとしてください。

表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

#### 4. 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

修士論文を学事センターに提出する際に、「修士論文複写許可回答」に必要事項を記入の上、一緒に提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

## 第5 留学について

留学を希望する場合は、指導教授と相談の上、必ず出発前に学内での手続きを終えておくようにしてください。手続きの手順は以下のとおりです。

学事センターにて交付される留学申請書に必要事項を記入する。

留学申請書に記載されている必要書類を用意する。

と を合わせて学事センターに提出し検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定をしてもらう。

学習指導担当教員との面接。

学事センターに提出する。

留学は1回の申請につき1年を限度としますので延長の場合は早目に延長の手続きをとるようにしてください。

なお、商学研究科における留学の扱いについては42ページも参照してください。

## 第6 単位取得退学および在学期間延長（博士課程のみ）

### 1. 単位取得退学

大学院博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として教育課程を終了することができます。

上記の条件に該当し、単位取得退学を希望する場合は、所定の期間内（2月上旬締切）に、「単位取得退学届」を学事センターに提出してください。

なお、「単位取得退学届」は学事センターで所定用紙を受け取ってください。ホームページ上からダウンロードすることも可能です。（次頁参照）

単位取得退学者のメディアセンターの利用について

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年



サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

## 2. 在学期間延長許可願

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限（6年）を越えない範囲で在学期間の延長を許可することができます。例年2月上旬までに「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。

以上の取扱いについては巻末諸規程抜粋を併せて参照してください。

関連規程	1 - 1	学位規程（抜粋）
	1 - 2	学位の授与に関する内規
	1 - 3	商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規
	4 - 1	大学院在学期間延長者取扱い内規
	4 - 2	大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

掲示や所定用紙の多くは、「塾生ページ（商学研究科）」のホームページでも参照可能です。以下の URL を参照してください（一部、掲載していないものもあります）。

「学事センター（三田）商学研究科」ホームページ URL

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/shoken/>

または

慶應義塾大学トップページ (<http://www.keio.ac.jp/>)

「塾生（在学）の皆様へ」 「三田キャンパス」の「商学研究科」をクリック

## 海外の教育機関に留学する場合の取扱いについて（商学研究科）

- ・在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で、正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等） なお、留学には 「交換留学」 「奨学金による留学」 「私費留学」の3つの区別があります。	語学研修 その他左記の留学と認定されない場合
期 間	申請期間	留学の開始日から最長1年まで ・年度の途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2005.9.22 ~ 2006.9.21	年度末日（3月31日）まで ・年度末をまたいで休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 ・休学の開始日がいつであってもその年度はすべて休学の扱いになります。 ・休学願の提出締切はその年度の11月末日です。
	延長	2回まで可能 (留学開始日から3年まで) それ以降は「休学」となります。 ・延長する場合、「国外留学申請書」を改めて提出してください。	次年度も休学する場合は、再度休学願を提出してください。
学費・渡航費	学費減免措置	・1年目：減免制度はありません。 ・2年目以降：減免される場合があります。 ・留学開始日から1年ないし2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します。（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します）	減免制度はありません。
	渡航補助費	「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合がありますので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	年度の途中から留学する場合は、留学前に履修申告した科目を留学後継続履修し、単位取得することが可能です。 (同一科目同一担当者が原則となります) ・必ず留学前に各科目担当者に、留学終了後に継続して履修する意志があることを伝えておいてください。	休学中の年度は履修できません。 [年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学届を履修申告日までに提出してください。 [年度途中から休学] 4月に履修申告した科目はすべて削除されます。
	得た単位を認定	10単位を超えない範囲で、慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。 ・認定を希望する場合は、帰国後学事センターに申し出てください。	単位認定はありません。
在学 年 数	進級・卒業 (修了)	1年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に参入することがあります。ただし、逾及卒業(修了)は認められません。	在学年数に算入されません。 (ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します)

**注意** TOEFL, GRE, GMAT 等受験の際には身分証明としてパスポートが必要になります。早めに準備するよう心掛けてください。

# 講義要綱・シラバス

# 修士課程設置科目

## 1. 共通科目

---

### ビジネス・エコノミクス（春学期）

---

教授 中島 隆 信

#### 授業科目の内容：

米国のビジネス系大学院では、ファイナンス等の応用経済学分野を専攻する学生はもちろんのこと、会計学や経営学やマーケティングを専攻する学生も **Managerial Economics** を1年次に履修することが義務づけられている。それは、企業や消費者の経済行動についての理解なしにはそれらの分野を究めることができないという認識があるからである。

本講義では、商学研究科の大学院生なら誰もが身に付けていることが望ましい経済学的考え方を、**Managerial Economics** のテキストを用いて解説する。使用する教材（下記）は、企業という組織を利害の異なる集団（経営者・従業員・顧客・株主・債権者等々）間の「契約の束」としてとらえる立場から書かれた、まったく新しいタイプのテキストであり、どのように組織を構築すべきかという点に主眼が置かれている。春学期に行われる本授業は **Part 1** および **Part 2** をとり上げ、残りは秋学期の谷口助教授の授業に引き継がれる。

授業は履修者による報告形式をとる。教材は各自で入手しておくこと。

---

### ビジネス・エコノミクス（秋学期）

---

助教授 谷 口 和 弘

#### 授業科目の内容：

近年、企業組織のミクロ的な制度分析が注目されている。とくに、経営・商学研究者やビジネス・スクールの理論家によって、戦略や組織の経済学を扱ったテキストが数多く出版されている。本講は、取引費用経済学や比較制度分析などの分析枠組を理解するとともに、その有効性を検証するために、現実の企業経営にかんするケースにふれる。とりわけ、「企業の組織アーキテクチャ」に関連した研究成果を扱い、企業の性質にかんする理解を深めていくことになろう。

本講においては、受講者の報告形式を採用する。第1回目の授業の際に、報告担当の配分などを行うので、受講者はかならず出席すること。また、連絡を e

メールで行うことがあるので、各自アドレスを取得しておいてほしい。なお、受講希望者は、あらかじめビジネス・エコノミクス（春学期：中島隆信教授）を履修しておくこと。

---

### ビジネス・エコノミクス（春学期）（秋学期）

#### Business Economics (Spring term)(Autumn term)

---

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍 谷 雅 敏

Professor Masatoshi KURATANI

#### 授業科目の内容：

Introduction to microeconomic concepts and principles: demand and supply, behavior of individuals and organizations, competition and monopoly, accumulation of productive factors and economic growth. Application of basic economic theory to grasp the effects that public policies have on private-sector economy.

---

### ビジネス・ヒストリー（科学技術発展における国家の役割）（秋学期）

#### (Basic Business History) (Autumn term)

---

特別招聘助教授 ルイス, ジョナサン

Guest Associate Professor Jonathan LEWIS

#### 授業科目の内容：

This course examines the roles of states, companies and other actors in promoting and regulating the development of science and technology. Relevant theories are introduced and illustrated with case studies, particularly from the fields of information technology and space development.

The main themes will be as follows:

- diffusion of innovations
- intellectual property
- standards
- the role of universities
- science, technology and economic development
- technonationalism
- big science
- open source

---

### 社会科学方法論（春学期）

---

教授 榎 原 正 勝

#### 授業科目の内容：

本講の意義と目的：本講は、人と人とのかわりによって生じる社会関係が生み出す社会現象を対象とした科学、すなわち、社会科学の知識形成の論理と方法を理解することを目的とする。諸君が研究している経済学、経営学、会計学、マーケティング論など個別の学問の知識が、科学的性格を持つためにはどのような論理と方法とを必要とするか、諸学問探求にとって欠かすことの出来ないのが、この方法論である。諸君は、方法論を学ぶことによって、どのような学科目を専門としていようと、よりしっかりとした基礎をもった学問探求を可能にすることが出来ると思われる。

授業科目の内容：本年度は K. R. ポパーの方法論を学ぶことによって社会科学の方法的性格についての理解を深めたい。下記 K. R. ポパー「客観的知識」をテキストにして、輪読・討論形式で進める。一回の授業で1章づつ（30～40 ページ程度）読む予定。

---

#### 専門外国書研究（英書）

#### ACADEMIC READING AND WRITING（English）

---

教授 トビン, ロバート I.

Professor ROBERT I. TOBIN

#### 授業科目の内容：

This course will focus on strengthening English communication skills for business.

The first half of the year [Spring Semester] emphasizes development of research, writing, reading, analytical and presentation skills. This will help prepare students for writing research papers and their graduation thesis in English. Students will review current research in their field and prepare reports for presentation to the class.

The second half of the course [Fall Semester] focuses on development of effective leadership and management skills in order to assist students in becoming leaders in their organizations as well as understanding and initiating organizational change.

Weekly assignments and contribution to discussions are required in this class which will be conducted as a seminar. Class discussion will be based on texts and current reading, case studies, video segments, group projects and research projects.

The course is conducted in English and is open to all graduate students.

---

#### 専門外国書研究（独書）

---

助教授 前田 淳

#### 授業科目の内容：

グローバル化の本質、実態、さらに危険を扱った著作やフォルクスワーゲンにおける共同決定を扱った著作といったドイツの最新の文献を輪読していく。

なお、授業の進行方法は、参加者による翻訳と内容説明を主体とするので、必ず前もっての予習が必要である。試験は行わないので、出席、翻訳・内容説明、レポート（2回）が成績評価の基準である。

---

#### 専門外国書研究（仏書）

---

講師 大井 正博

#### 授業科目の内容：

フランス語の基礎を学んだ人に対して、経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し、日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに、慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

---

#### ジャパニーズ・エコノミー（春学期）

#### Japanese Economy（Spring term）

---

教授（フジタ・チェアシップ基金）

小島 明

Professor Akira KOJIMA

#### 授業科目の内容：

戦後から現在に至る日本経済を世界経済との関連を重視しながら分析。高度経済成長、制度改革、雇用慣行、企業経営など多面的に論ずる。

1980年代の円高、バブル景気とその崩壊、不良債権問題、直接投資、金融改革、日本的経営の在り方などを議論する。日本が現在直面している政策問題も点検。講義及び討議は英語を使用。

ビデオ、テープなども利用しながら当局者、専門家の生の声、意見に接することができるようにしたい。

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through

Video and tapes etc.

---

## 統計学基礎理論（春学期）

### 統計解析（春学期）

---

教授 早見 均

#### 授業科目の内容：

公表されている論文ではつぎつぎと新しい手法が利用されており、実際のところ修士論文でそれらを利用する場合はかなり理論的な勉強をしなければならない。ただしコンピュータのソフトウェアもつぎつぎと開発されるので、ソフトの使い方さえわかればデータさえ入力すると計算結果がでてくる状況にある。この授業ではその隔たりを埋めるために、とりあえず知っておいた方がよい最低限の数理統計学を解説する。各分野で利用される統計的手法、たとえば多変量解析や計量経済学を学ぶために必要な基礎知識である。

扱う内容は、確率と確率変数、確率分布、モーメント生成関数、極限定理、十分統計量、推定論、漸近理論などの主なテーマのなかにシミュレーションによる分布の計算、ローカル回帰など現代的話題の簡単な例もいれていきたい。

昨年度は広く読まれている Casella and Berger の推測統計を解説したが、進む速度が速くしかも難しいということであった。今年度はその経験を踏まえて、題材をしばって解説していきたい。

とりあえず微積分の基礎は必要である。

昨年度は 3 回の演習問題のレポートで評価した。今年は学部と併設されるので短いレポートとあわせて学期末に簡単な試験をする予定である。

---

## 経済数学基礎理論

助教授 木戸 一夫

#### 授業科目の内容：

##### 目的

数学を直観的に理解し、自在に使いこなせるようになることを目指す。精確な直観を得る為に、この授業では下記内容を厳密に学んでいく。

##### 内容

戦略形ゲーム、展開形ゲーム、完全均衡点、情報不完備ゲーム、繰り返しゲームなど。

##### 方法

教科書を、学生による輪読形式で読み進める。数学を理解しようという積極的な質問はどのような分野のものであろうとも、いつでも歓迎する。学生は、自分

の専門分野に関連付けながら学び進んで欲しい。

---

## 会計情報の作成と見方（秋学期）

助教授 前川 千春

#### 授業科目の内容：

貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表の作成方法と読み方を習得することを目的とし、経済・経営・商業など会計以外の分野を専攻している学生の学習状況を考慮して基礎的なところを中心に講義を行う（必要があれば複式簿記の基本原則について 1~2 回ほど講義を行う）。授業は講義だけでなく受講者の報告発表（テキストの輪読）も交えて進める予定である。成績評価は授業への参加状況・報告発表にもとづいて行う。

---

## 経済・金融指標の見方・使い方（金融とマクロ経済学を通して経済指標の読み方を学ぶ）（春学期）

教授 深尾 光洋

#### 授業科目の内容：

この授業では、金融経済動向を判断するのに必要な経済・金融データの読み方を身につけることを目標にする。単に統計指標を解説するのではなく、マクロ経済学の基礎を学びながら、理論的概念と現実のデータとの関係を理解できるようにしたい。概略次の順序で講義を行う。

##### 1. 金融の役割

所得、利益と資金過不足

GDP と三面等価

資金余剰主体と資金不足主体

資金過不足と貯蓄・投資バランス

銀行の資金仲介と決済機能

証券会社の役割

##### 2. 金融のミクロ的基礎：負債と株式

会社の仕組み

倒産とは何か

負債と株式の違い

負債とデフォルト

株式は「ある時払いの催促あり」

株主の議決権

金利と貸倒リスク

社債金利と国債金利

債券価格の理論

株価決定の理論とその限界

##### 3. 金融政策

短期市場金利の決定要因

- ベースマネー需要関数
- 金融政策のトランスミッションメカニズム
- 実質金利，資産効果，為替相場
- 金利の非不制約とデフレ
- 信用乗数論の問題点
- マネーサプライの意味
- 短期金利と長期金利の関係
- オペ手段とその効果
- 準備預金制度
- 巨額の国債オペと日銀破綻のリスク
- 政府紙幣提案の問題点
- マイナス金利政策の意味
- 4-6. 国際金融の基礎
  - 外国為替とは何か
    - 国際決済の仕組み
    - 金利裁定と先物相場
  - 国際収支と貯蓄投資バランス
    - 国際収支と為替需給の関係
  - 為替レートの理論と実証
  - 公的介入の効果
    - 不胎化介入と非不胎化介入
  - 内外金利の相互関係
- 7-8. 金融とマクロ経済学
  - 金融政策と LM 分析の関係
  - IS-LM 分析と日本の現状
    - 実質金利と名目金利
  - 短期均衡と長期均衡
  - マンデルフレミングモデルの問題点
    - 固定相場と変動相場
    - 中国へのインプリケーション
- 9. デフレと日本経済
  - 長期的な物価動向
  - デフレに関する誤った議論
    - 相対価格と絶対価格の混同
    - 中国と日本のデフレ
  - GDP ギャップの推計
  - フィリップスカーブの実証
- 10-11. 日本の銀行セクター
  - 不良債権問題と銀行の収益性
    - 不良債権問題の正常化とは何か
  - 株価と自己資本
  - 銀行増資の実態
  - 金融監督と自己資本比率規制
  - 銀行の破綻処理
  - 預金保険制度の問題点

- 12. 日本の生保セクター
  - 生命保険の基礎
    - 終身保険，定期保険，養老保険，年金
  - 生保監督とソルベンシーマージン
  - 生保の破綻処理と予定利率引き下げ問題
  - 生保と銀行の関係
    - ダブルギャリングのリスク
  - 簡保の健全性
  - 共済という名の保険会社
- 13. 財政赤字，デフレと金融政策
  - ソブリン格付けと日本の信用度
  - 長期金利の決定要因
  - 主要国の貯蓄投資バランス
  - 主要国の長期金利の決定要因
  - 財政赤字と財政破綻のリスク

---

特別講義 I (先端技術と社会) (秋学期)

---

教授 吉原 順二

授業科目の内容：

現代は、技術が社会の基本的な部分を変える技術革新の時代である。こうした社会においては、個人にとっても組織にとっても、技術についての理解が欠かせない。他方で、技術は専門化の度を加え、細分化し、一般人には理解が困難になっている。

この授業は、先端技術と社会との相互作用について、一個人として、将来の企業幹部として、あるいは当該技術分野以外の研究者として、持つべきと考えられる基本的な知識と分析の視点を提供することを目的とする。先端技術の例としては情報通信技術 (ICT) を主として取り上げ、バイオ技術にも言及する。主な項目は以下のとおり。

- (1) ICT が変える社会
  - ・ ICT の概要と ICT 産業の歴史
  - ・ ICT と個人 (情報セキュリティ問題など)
  - ・ ICT と企業 (ICT による企業行動の変化など)
  - ・ ICT と国家 (ICT のもたらす法的問題など)
- (2) 社会が育てる ICT
  - ・ どのような社会で技術は育つか (シリコンバレー概論)
  - ・ 国はどう係ってきたか
  - ・ 誰がルールを決めるか (標準の問題など)
- (3) バイオ技術と社会
  - ・ バイオ技術の概要
  - ・ その社会的影響と社会的受容

## 2. 専攻基本科目

### 商学専攻、経営学・会計学専攻 共通

#### 環境の経済・経営・商業・会計（春学期）

コーディネーター 教授 岡本大輔

#### 授業科目の内容：

本講義は経済学・経営学・商業学・会計学のそれぞれの専門家が現代社会において環境問題をどのように研究し、成果をあげているかを講義する学際的科目であり、「環境学」へのプロローグである。

#### 第1週（4月9日）ガイダンス

商学部教授 岡本大輔

コーディネーターにより本講義の担当講師と環境問題への統合アプローチによる講義概要が紹介され、引き続いて経済学的アプローチの第1回講義が行なわれる。

#### 第1週（4月9日）廃棄物問題（経済Ⅰ）

商学部教授 和気洋子

廃棄物問題をめぐる PPP、拡大生産者責任などの原則論議、環境保全の政策手段と政策効果、あるいは一連の包装・容器、家電、自動車リサイクル法に関する具体的論議について講義する。

#### 第2週（4月16日）地球温暖化問題（経済Ⅱ）

商学部教授 和気洋子

地球温暖化防止のための国際的な枠組みをめぐる諸課題を、日本経済の費用負担などとの関連から、講義担当者が関与する政府委員会等におけるエネルギー・炭素税などの話題に言及しながら、講義する。

#### 第3週（4月23日）【休講】

#### 第4週（4月30日）【休講】

#### 第5週（5月7日）国際環境経済システム（経済Ⅲ）

商学部教授 和気洋子

環境と貿易／FDI をめぐる諸問題を解説し、途上国の持続的経済発展のシナリオや地球環境問題へのコミットメント問題などとの関連において、国際環境経済システムの構築に資する問題を講義する。

#### 第6週（5月14日）なぜ、今環境経営が必要か（経営Ⅰ）

千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

20世紀に起こった人口爆発と飽くなき豊かさの

追求の結果、人類は地球の限界に突き当たってしまった。「無限で劣化しない地球」から「有限で劣化する地球」へ地球観を切り替えていかななくてはならない。この変化を「自然満足度曲線」という新しい概念で説明する。

#### 第7週（5月21日）資源生産性の向上でビジネスチャンスを掴む（経営Ⅱ）

千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

企業の基本戦略は、労働生産性の向上をいかに高めるかにある。エネルギー、資源に着目すると、20世紀の企業は、エネルギー、資源を多消費、多浪費することで、規模の経済を実現し、労働生産性を高めてきた。しかし地球の限界に直面した21世紀の企業は、逆にエネルギー、資源を節約することで、労働生産性の向上を目指さなければならない。資源、エネルギーの節約とは、資源生産性を高めることにほかならない。その中にビジネスチャンスがある。

#### 第8週（5月28日）環境ビジネス発掘のマトリックス（経営Ⅲ）

千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

人類が地球の限界に遭遇した今日、これまでのビジネスは大幅な修整を迫られている。このことは、逆にいえば、新しいビジネスを発掘し、発展させるまたとないチャンスと受け止めることができる。環境ビジネス発掘のマトリックスを説明し、それを埋めることで、新たなビジネスの発見に挑戦してもらおう。

#### 第9週（6月4日）環境経営の定量評価（会計Ⅰ）

中央大学経済学部教授 河野正男

環境に配慮する企業経営の定量評価に関する二つの手法—環境パフォーマンス評価と環境会計を紹介する。とくに環境会計の枠組みと基礎概念について詳述する。

#### 第10週（6月11日）外部報告のための環境会計（会計Ⅱ）

中央大学経済学部教授 河野正男

環境省の「環境会計ガイドライン」の解説の後、財務報告書および環境報告書における環境会計情報の現状をガイドラインに関連付けて紹介する。

#### 第11週（6月18日）意思決定のための環境会計（会計Ⅲ）

中央大学経済学部教授 河野正男

環境要因を考慮に入れたいくつかの管理手法すなわちライフサイクル・コストリング、環境品質原価



計算、トータル・コスト・アセスメントおよび予算管理などについて紹介する。

第 12 週 (6 月 25 日) 環境問題とマーケティング  
(商業 I)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授

西尾チヅル

地球環境との共生や資源循環を推進する方法にはどのようなものがあるか、その中でマーケティングに課せられている役割とは何か、を概説する。その上で、環境マーケティングの概念と課題を企業事例を紹介しながら説明する。

第 13 週 (7 月 2 日) 消費者の環境配慮行動の規定要因とその特徴 (商業 II)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授

西尾チヅル

市場を構成する消費者の環境問題への認知の特徴や環境配慮行動の規定要因に関する国内外の研究を紹介し、その特徴を整理する。それらを踏まえた上で、環境配慮型商品の市場を拡大するためのコミュニケーション方法や整備すべき仕組みなどについて議論する。

第 14 週 (7 月 9 日) 環境マーケティングの展開方法  
(商業 III)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授

西尾チヅル

上記 2 回に渡る議論を通じて、環境マーケティングの内容を製品・サービスの企画・販売段階、使用・消費段階、廃棄・資源回収段階ごとに整理し、具体的な展開方法について議論する。また、企業の環境マーケティングを推進するために必要な法制度や社会システムについても考察を加える。

---

## イノベーションの経済・経営・商業・会計 (春学期)

---

コーディネーター 教授 高橋 郁 夫

### 授業科目の内容:

講義は以下に記すスケジュールに従って進める予定である。

#### 1. オリエンテーション

(担当: 慶應義塾大学教授 高橋郁夫)

##### 第 1 回 (4 月 9 日)

本講義のねらいと進め方、それに成績評価の仕方等について情報の伝達を行う。

#### 2. イノベーションと経済

(担当: 学習院大学教授 宮川努)

##### 第 2 回 (4 月 16 日) マクロ経済とイノベーション

マクロ経済学において、技術進歩やイノベーションがどのように組み込まれているかを説明し、昨今の日本経済における技術進歩の役割について説明する。

##### 第 3 回 (4 月 30 日) IT 投資と日本経済

1990 年代に入ってから、世界的に IT 化が急速に進んでいる。経済学では、この IT 化をどのように把握しているのか、また日本の IT 化は、世界に比べて進んでいるのか、遅れているのかということを経済データに基づきながら論じる。

##### 第 4 回 (5 月 7 日) イノベーションの源泉: 研究開発投資と人的資本

経済学では、イノベーション (技術進歩) の源泉は、研究開発投資による知識ストックの蓄積と教育による人的資本の向上であると考えられている。両者の動向について、統計データに基づきながら解説を行う。

#### 3. イノベーションと会計

(担当: 東洋大学教授 西村優子)

##### 第 5 回 (5 月 14 日) イノベーションと戦略的管理会計

イノベーションは新製品や新サービスを提供する新知識の創出であり、新知識は技術知識とマーケット知識等からなり企業の競争力の源泉と考えられる。新知識の創出のプロセスは企業の経営戦略の策定と密接に関連する。イノベーションによる新知識の創出・ストック、経営戦略の策定と実行、ならびに戦略的管理会計との関係について取り扱う。

##### 第 6 回 (5 月 21 日) 知的資産の会計的評価

イノベーションによって創出・蓄積される知的資産を会計的に測定し評価する方法として、①コスト・アプローチ、②インカム・アプローチ、③マーケティング・アプローチがある。これらの測定方法の理論と計算について、具体的に明らかにする。なお、通商白書 2004 年の第 2 章「新たな価値創造経済」と競争軸の進化を参考資料として用いる。

##### 第 7 回 (5 月 28 日) 知的資産に関わる会計情報と開示

知的資産の会計処理、会計情報の開示、ならびに知的財産報告書について以下の指針、会計基準などに基づいて検討する。

・日本公認会計士協会経営研究調査会研究報告 24 号「知的財産評価を巡る課題と展望 (中間報告)」 (2004 年 6 月)

・経済産業省「知的財産情報開示指針 特許・技術

情報の任意開示による企業と市場の相互理解に向けて」(2004年1月)

- ・国際財務報告基準における IAS38 号「無形資産 (Intangible Assets)」(1998年), IAS36 号および IAS38 号の改訂公開草案 (2002年)
- ・米国財務会計基準書 142 号「暖簾およびその他の無形資産 (Goodwill and Other Intangible Assets)」(2001年)

#### 4. イノベーションと経営

(担当: サンノゼ州立大学教授 Mark Fruin)

第 8 回 (6 月 4 日) 第 9 回 (6 月 11 日) 第 10 回 (6 月 18 日)

アメリカのハイテク企業におけるイノベーション・マネジメント, 特に研究開発のプロセスの現状と特質についてシリコンバレーを拠点として行動しているベンチャー企業を中心にして理論的・実証的な視点から解説する。

①イノベーションの分類と企業戦略

②イノベーションとグローバリゼーションの諸点

#### 5. 流通におけるイノベーション

(担当: 青山学院大学教授 田中正郎)

第 11 回 (6 月 25 日) 流通における情報一定型の情報と非定型の情報—

情報という言葉が意味するところは, 必ずしも一定したものではない。流通において特に必要とされる情報は, 商品の需要と供給に関するものである。こうした情報が持つ特徴とは何かを考える。

第 12 回 (7 月 2 日) 小売業の商品管理システムと情報技術

小売業における商品管理システムは, 技術革新の連続であった。キャッシュレジスターの発明から POS システムが開発されるまでの商品管理システムにおける技術革新のようすをふりかえってみる。

第 13 回 (7 月 9 日) 企業間の流通関連業務プロセスの統合化

食品や雑貨品のメーカー, 卸, 小売を含めたサプライチェーン内の企業が協働して, サプライチェーン内の可視性向上やパートナーがもつリソースの活用等が模索されている。こうした動きの背景を考える。

\* 必要に応じて, 学事日程上の 7 月 15 日 (木), 16 日 (金) を補講日とする。

## ファイナンスの経済・経営・商業・会計 (秋学期)

コーディネーター 教授 辻 幸民

### 授業科目の内容:

#### 1. 意義と目的

現代経済におけるファイナンスの重要性はますます高まっている。たとえ金融のプロや企業の財務担当者でなくても, ファイナンスの理屈や仕組みを理解しておくことはビジネスの世界で活躍する上で不可欠な要件となっている。この講義では, 経済・経営・商業・会計の 4 分野でファイナンスにかかわる研究や仕事に従事している方を講師に招き, それぞれの立場からファイナンスに関する諸問題を, 各 3 回にわたってわかりやすく講義してもらう。科目の性質上, 講義内容は 4 分野間で必ずしも有機的に繋がっているわけではないが, 各 3 回の講義は体系的な内容となるよう配慮がなされている。ファイナンスを専門としない人も, この講義を契機にファイナンスに対する関心と理解を深めてもらいたい。

#### 2. 講義日程と担当者 (敬称略)

ガイダンスと総論 (10/1)

辻 幸民 (商学部)

ファイナンスの経済 (10/8, 10/15, 10/22)

新井富雄 (東京大学)

ファイナンスの商業 (10/29, 11/5, 11/12)

木村正芳 (木村正芳事務所代表)

ファイナンスの会計 (11/26, 12/3, 12/10)

醍醐 聡 (東京大学)

ファイナンスの経営 (12/17, 1/7, 1/14)

小山史夫 (アクセンチュア)

#### 3. 講義概要

初回到総論的な解説を行う。ファイナンスに関する諸問題を 4 分野の視点から論ずることの意義と相互の関係について述べる。2 回目以降の講義概要は以下のとおりである (各担当者から提出された講義紹介文をもとに作成)。

### ファイナンスの経済

- 1) 価値創造と設備投資の意思決定: 価値創造という観点から設備投資決定に関して考える。投資プロジェクトに伴うキャッシュフローの把握方法, NPV や IRR の概念およびプロジェクトのリスクと割引率の関係に関して説明する。
- 2) 企業価値の評価: リスクとリターン, CAPM 等の資産価格評価モデル, 資本構成の影響を論じた後, フリーキャッシュフロー法, EVA/MVA など代表的な企業価値評価方法について解説する。

- 3) リスク管理とデリバティブ：リスク管理の意義とデリバティブの利用について説明する。先物、スワップ、オプションなどの価格評価理論についてもその概要を解説する。

---

### 非営利組織の経済・経営・商業・会計（秋学期）

---

コーディネーター 教授 跡田直澄

#### 授業科目の内容：

非営利組織について経済・経営・商業・会計の諸分野からのアプローチによる分析・検討により総合的な理解を深めることを目的とする。

#### 1. 総論（跡田直澄）

- ① 非営利組織体の分類と特徴
- ② 非営利組織体と営利組織体の活動環境（資源の獲得、市場との関わり）の相違点と類似点
- ③ 非営利組織体の財務報告の目的

#### 2. 商業（浅井慶三郎）

はじめに：本テーマの講義は大略以下の内容で行う予定です

第1回は、NPOの社会的役割およびNPOが直面する経営問題をサービスマーケティングならびに税制の視覚から戦略的に論考します。

第2回は、NPOの主要分野の一つである大学の経営問題を取り上げて大学のマーケティングを論ずるが、特に Apps の今後の経営戦略を受講生諸君と一緒に考えてみましょう。

第3回は、冷戦後に於ける大国間の覇権を巡る文明の衝突が民族間紛争を多発させ、地球の人類、動植物および自然資源の浪費と環境の破壊を齎している現実をいかにして平和と共存の道を求めるかを、政治や軍事に頼らずグローバルな草の根の文化交流に見出すべきと思考し、NPOのグローバルネットワークをベースとする観光サービス（平和だから観光ができる、観光が出来るから平和が生まれる）の開発を問題として検討してみたいと考えています。

\*各回毎により更に詳しい講義内容のレジュメと必要に応じて参考となる新聞その他の資料を学事センターを通じて配布します。詳細は掲示でお知らせしますので、センターを訪れて確認し入手して、授業に出る前に授業内容を予想し予習してく

ださい。

#### \*基本的参考文献

- ・サービスとマーケティング（増補版）浅井慶三郎 2003 同文館出版（株）
- ・コミュニティビジネスの時代、NPOが変える産業、社会、そして人間 金子郁容他 2003 岩波書店
- ・新版コミュニティ・ソリューション 金子郁容 2003 岩波書店
- ・儲けはあとからついてくる、片岡勝のコミュニティビジネス入門 片岡勝 2002 日経新聞社

\*3回とも出欠をとります。また3回の講義終了後、以下の要領でレポートを学事センターに提出してください。（締切日等、詳細は掲示でお知らせします）

テーマ：小生の講義に関連づけて各自で問題だと考えるテーマを決めて結構です。これを1600字で旨く纏めて小論の形にして、A4版1ページにプリントする。

#### 3. 経営（谷本寛治）

企業とNPOの関係について、具体的な事例をもとに考えていくことにする。

- (1) NPOの特徴：NPOの3つのパターン（慈善型、監視・批判型、事業型）
- (2) 企業とNPOの基本的な違いと類似点を確認する。
- (3) 企業とNPOの多様な関係性について下記の点について考察する。
  - ① 企業によるNPO支援
  - ② NPOによる企業の監視・批判
  - ③ NPOによる企業評価
  - ④ 企業とNPOのアランアンス

---

### 戦略の経済・経営・商業・会計（秋学期）

---

コーディネーター 教授 小宮英敏

#### 授業科目の内容：

1. オリエンテーション 担当 十川 廣國  
講義の全体像についてのオリエンテーションを行う。

戦略の会計的視点 担当 田中 隆雄

#### 2. 企業戦略と企業価値

日本企業は比較的最近まで、資本コストに注意をあまり払わなかった。その結果、資本効率を無視して、設備投資を行い事業を存続してきた。そのような企業戦略ないしは資源配分によって日本企業の資

本効率は外国企業に比して著しく低くなっている。いうまでもなく、財務的目標は企業戦略を構築する際に最重視すべき課題の1つである。近年、欧米のみならず日本においても関心の高まっている財務測度として、企業価値がある。企業価値とはどのような測度で、それを測定する方法としてどのような方法があるのであろうか？また、企業価値重視の経営、いわゆるバリュー・ベースのマネジメントとはどのようなものであろうか？日本企業の実態を含めて話すことにする。

### 3. 組織戦略と管理会計

近年、日本においては持株会社やカンパニー制といった新たな組織形態に移行する企業が少なくなっている。そして、これらの企業は社内資本金制を採用するケースが多い。また、会計の仕組みとしては、ビジネス・ユニット（BU）別の貸借対照表を作成している。社内資本金制やBU貸借対照表は事業業績の向上や企業戦略・事業戦略の遂行にどのような効果を発揮するのであろうか？また、BU貸借対照表の作成ユニットを細分化すれば、資産別の収益性を把握することも可能になり、時価主義会計で問題となる減損の把握が容易になる。組織革新と会計の仕組みについて検討することとする。

### 4. 戦略の実行と業績評価

近年、アメリカにおいては戦略の実行をモニターするツールとして、Balanced-Scorecard（BSC）が急速に普及しつつある。BSCはもともとBUの業績管理手段として考案されたが、実際に使ってみると戦略の実行をモニターする機能を兼ね備えていることが解かった。BSCは財務的尺度と非財務的尺度の複合した測定尺度である。非財務的尺度としては、顧客の視点、従業員の視点そしてプロセスの改善などによって構成される。非財務尺度は将来の業績を予測するうえで有益な測度であるといわれるが、それは何ゆえか？非財務的測度は戦略の実行とどのように関わるのであろうか？

#### 戦略の商業(マーケティング)的視点 担当 濱岡 豊

戦略についてマーケティングの観点から論ずる。3回の授業のうち初回ではマーケティングにおける戦略について復習した後、それらの限界、近年の展開を概観する。残りの2回では、近年のマーケティング戦略の動向として、ブランド戦略、消費者による開発のマーケティング戦略への影響について紹介する。

### 5. マーケティング戦略のこれまでと限界

ここではまず、マーケティングにおける戦略立案プロセスの古典的な手順、概念を紹介する。下記の項目について紹介し、それぞれの課題を指摘する。そして、近年のマーケティングの動向について概観する。

マーケティングにおける戦略的発想の歴史

マーケティング戦略策定の古典的手順

SWOT分析

プロダクト・ライフサイクル

マーケット・セグメンテーション

ポジショニング

マーケティングミックスの策定

古典的な手順の限界

マーケティング戦略の動向

ワンツーワンマーケティング

共進化マーケティング

### 6. ブランド戦略

マーケティング戦略の近年のトピックスとしてブランド戦略を紹介する。主な論点は下記の通り。

ブランドの歴史

ブランド資産の定義

ブランド管理の諸問題

ブランド拡張の成功条件

ブランドのアーキテクチャ

ブランド管理の組織

日本のブランドと海外のブランド

### 7. 創造する消費者の台頭とマーケティング戦略へのインパクト

Linuxがユーザーによって開発されてきたことにもみられるよう、消費者による創造、開発はマーケティングにとって無視できない現象である。筆者によって提案された創造しコミュニケーションする「アクティブ・コンシューマー」についての分析結果を紹介し、企業と消費者が相互作用しながら進化するという「共進化マーケティング」の方向性を展望する。

消費者、ユーザーによるイノベーション

アクティブ・コンシューマーの特徴

共進化マーケティングの成立条件

#### 戦略の経済的視点

担当 小宮 英敏

### 8. 交渉問題の導入

社会では様々な交渉が行なわれるが、交渉が成功裏に決着した場合交渉の当事者たちは何らかの経済

的行為をなし、その結果その経済的行為をなさない場合に比べそれぞれの効用が増加しているはずである。この交渉の戦略的構造が交渉による経済的価値の創造とその価値の分配という視点でとらえられることを理解することを目指す。また、交渉の当事者の効用には貨幣が加法的に含まれ効用が譲渡可能な場合を考察する。

#### 9. 交渉問題における交渉力と非協力ゲーム

交渉問題の交渉力が決定される要因として交渉当事者の時間選好が本質的であることを明らかにしたルービンシュタインの交渉理論を紹介する。これは交渉当事者をプレーヤーとする提案応答ゲームの形式をもつ非協力ゲームとして定式化される。提案応答の最終期間が明確に設定されている場合とそうでない場合の違いなど提案応答ゲームの特質の理解を目指す。

#### 10. ナッシュ交渉問題と協力ゲーム

交渉問題の古典であるナッシュの交渉問題を取り扱う。ナッシュの交渉問題は協力ゲームとして定式化される。この交渉問題の本質的な構造をとらえると共に、ナッシュによる交渉問題の公理的な解決法のアイデアを理解することが目的である。これは前回の非協力ゲームによる交渉問題の定式化と好対照をなす。その理解のためには期待効用仮説、あるいは数学的な概念の理解が必要になるが、丁寧に解説するつもりである。

戦略の経営的視点 担当 十川 廣國

#### 11. 企業経営から見た戦略

企業成長のためには、企業が目指すべき将来の方向を選択し、その目標実現のために経営資源をいかに活用するかが基本的な課題となる。こうした活動を担うのが経営戦略である。しかし、経営戦略に対する考え方は、伝統的な視点から現代的な視点へと変化を遂げてきている。まずは、戦略の経営的視点がどのように変容してきたかについての理解をすすめることにしたい。

#### 12. 持続的競争優位の構築と戦略経営

変化する環境のもとでの企業の成長・存続は、競争優位をいかに構築するかにかかっている。人々の創造性発揮を通じた経営資源の新たな活用が求められることになり、組織をいかに活性化するかが解決されるべき重要課題となる。新たな組織能力が競争優位の源泉になると考えられるからである。ここでは、こうした組織能力とは何か、それが競争優位構

築にどう結びついて行くと考えられるのかについて検討したい。

#### 13. 戦略の経営的視点と戦略経営についてのまとめ

## 商学専攻

### マクロ・マーケティング論（マクロ・マーケティング・システムと社会とのインタラクション）（春学期）

教授 高橋 郁夫

#### 授業科目の内容：

生産、流通、消費の関係を巨視的に捉え、それをマクロ・マーケティング・システムと呼ぶとき、本講はそのシステムとそれを取り巻く社会とのインタラクションについて研究を行う。そのためには基本的文献（主に、英文による学術論文）の研究によってその理論的背景や研究枠組について理解を深めると共に、そこで用いられる各種の分析手法についても検討を加える。

毎回の予習と報告が義務付けられ、また、履修者の人数によっては、学期末にレポート試験を課す予定である。

### ミクロ・マーケティング論（秋学期）

教授 堀田 一善

#### 授業科目の内容：

マーケティング研究の方法をめぐる主要な議論のうち、現在最も注目を集めている S. D. ハントの主張を中心に、その他の方法的立場をめぐる主張との相違を比較検討することを通じて、今日のマーケティング研究領域の知的到達状況を判断するための基礎を探究する。

### 租税法 I（春学期）

#### Domestic Tax Law（Spring term）

特別研究教授 本庄 資

Professor Tasuku HONJO

#### 授業科目の内容：

国家・地方団体の財政基盤を成す租税について、各国・各地方団体の状況を踏まえて適切な租税政策を選択しこれを実現するための租税構造を有することが必要である。本論は、所得税制と消費税制について各国が共通して直面している下記の課題を取り上げ、これらに対する基本的な考え方を示す。さらに各国の実情

を踏まえて議論する。

[課題]

1. 租税政策と租税構造
2. 租税法の原則と最近の論点
3. 所得税法の課題（個人・法人を含む）
  - (1) 納税義務者（特にパス・スルー・エンティティ、投資媒体の取扱）
  - (2) 課税標準（所得分類、非課税所得、所得概念、必要経費）
  - (3) 税率（累進税率、比例税率、国際標準化）
  - (4) 税額控除（特に外国税額控除）
  - (5) 源泉徴収の問題（税収の確保と国際金融の障害）
  - (6) 租税特別措置の問題（不公平税制か税制の戦略的利用か）
4. 消費税法の課題
  - (1) 納税義務者（事業者登録・管理）
  - (2) 前段階税額控除（インボイス方式と帳簿方式）
  - (3) 課税取引の範囲
  - (4) 電子取引の問題
5. 租税回避防止の問題

The State and local authorities need to have their appropriate tax structure under their tax policies to meet the current situation of the public finance. From this point of view, this lecture will take up the following issues which most countries are facing and show the basic stand toward them. Concrete measures appropriate for each country will also be discussed.

1. Tax policy and tax structure
2. Principles of tax law and the current issues
3. Main problems of income tax law (including individuals and corporations)
  - (1) Taxpayer (especially pass-through entity and collective investment vehicle)
  - (2) Tax base (classification of income, exempted income, concept of income, deductions, threshold)
  - (3) Tax rate (progressive rate, flat rate, international standard)
  - (4) Tax credit (especially foreign tax credit)
  - (5) Withholding tax (mechanism for raising tax revenues or obstacles to international financial transactions)
  - (6) Special tax measures (unfair taxation system or strategic use of tax system)

4. Main problems of consumption tax law
  - (1) Taxpayer (registration and control of business entrepreneur)
  - (2) Input tax credit (invoice method or booking method)
  - (3) Scope of taxable transactions
  - (4) Electronic commerce
5. Counter-measures against tax avoidance

---

## 租税法Ⅱ（秋学期）

### International Tax Law (Autumn term)

---

特別研究教授 本 庄 資  
Professor Tasuku HONJO

#### 授業科目の内容：

すべての国の経済が国際化する中で、企業経営は世界規模の税負担の減少を目的とするため、諸外国における事業、投融資、人的役務提供について予測可能性と法的安定性を要求する。各国としては、自国企業の外国課税（アウトバウンド取引課税）について予測可能性を確保し、外国企業の自国内における課税（インバウンド取引課税）について予測可能性を与えることが、資本輸出の中立性を確保しつつ、外資導入促進のために、必要である。そのため、国際取引の円滑化のためにはその障害となる国際的二重課税の排除と各国の課税権の配分をする必要があり、国際課税ルールの確立が不可欠とされる。このような観点から、本論は、現在の国際課税ルールとして受入れられるOECDモデル条約や国連モデル条約を確認した上で、最近の主要な論議を取り上げて、これらに対する基本的な考え方を示す。さらに各国の実状を踏まえて議論する。

[課題]

1. 各国の課税原則（居住地国課税と源泉地国課税）
2. 確立された国際課税ルール（OECDモデル条約）
3. 租税条約と国内法
4. 最近の国際課税問題
  - (1) 移転価格課税
  - (2) 過少資本税制
  - (3) タックス・ヘイブン税制
  - (4) 有害な税制と租税特別措置
  - (5) トリーテイ・ショッピング防止規定
  - (6) 租税条約の適用対象者としての事業体の取扱
5. 国際的二重課税の排除の方法（国外所得免除方式か外国税額控除方式）

6. 特定の経済圏内の相互免税と圏外居住者の差別待遇

The management of enterprise needs to have a clear predictability and a juridical stability of the taxation on the operation of business, investment and loan activities as well as the provision of personal services so as to minimize the world-wide income tax burdens along the economic globalization of every country. It is necessary for them to facilitate their own domestic enterprises to secure the predictability for the foreign taxation on the outbound transaction not to injure the neutrality of capital export and to give foreign enterprises the predictability for the domestic taxation on the inbound transaction to promote the introduction of foreign capital. The establishment of international tax rules must be essential for smooth international transaction to eliminate the double taxation and to allocate the taxing power to the specific country. From this point of view, this lecture will take up the following issues which most countries are facing and show the basic stand toward them. Concrete measures appropriate for each country will also be discussed.

1. Principles of taxation in each country (taxation by resident country and taxation by source-country)
2. Established international taxation rules (OECD Model Convention)
3. Tax treaty and Domestic tax law
4. Modern international taxation issues
  - (1) Transfer Pricing Taxation
  - (2) Thin capitalization
  - (3) Anti-tax haven measures
  - (4) Harmful tax system and domestic special tax measures
  - (5) Anti-treaty shopping measures (Limitation on benefits)
  - (6) Treatment of business entity under tax treaty
5. Elimination of international double taxation (foreign income exemption method or foreign tax credit method)
6. Mutual exemption within a particular economic group and discrimination of any resident outside the group

金融論（企業金融論）（春学期）（秋学期）

教授 金子 隆

授業科目の内容：

学問分野としてのファイナンスは、企業金融論 (Corporate Finance) と証券投資論 (Investment) に大別されるが、今年度は前者のテキストを輪読する。使用するものは、米国の経営大学院 (MBA) で数多く採択されている非常に定評のある企業金融論のテキストである。私の解説を交えながら輪読するので、ファイナンスを専攻していない大学院生でも、ミクロ経済学と数学と統計学の基礎知識があれば十分ついてこられると思う。履修者はできるだけ春学期・秋学期を通して履修して欲しい。

テキストの構成は以下の通りである。

1. Introduction to Financial Management
  2. Financial Statements, Taxes, and Cash Flow
  3. Working with Financial Statements
  4. Introduction to Valuation: The Time Value of Money
  5. Discounted Cash Flow Valuation
  6. Interest Rates and Bond Valuation
  7. Equity Markets and Stock Valuation
  8. Net Present Value and Other Investment Criteria
  9. Making Capital Investment Decisions
- 以上、春学期（予定）
10. Some Lessons from Capital Market History
  11. Risk and Return
  12. Cost of Capital
  13. Leverage and Capital Structure
  14. Dividends and Dividend Policy
  15. Raising Capital
  16. Short-Term Financial Planning
  17. Working Capital Management
  18. International Aspects of Corporate Finance

以上、秋学期（予定）

授業は毎回、レポーターがレジюмеを用いて内容を紹介・解説し、私が必要に応じて補足解説を行い、時間があれば章末の演習問題を解くというスタイルで進める。レポーター以外の人も必ず予習してきて積極的に授業に参加すること。成績評価は平常点と各学期 2 回程度のレポートで判断する。

---

## リスク・マネジメント論

### (リスク処理手段としての保険) (秋学期)

---

講師 真屋 尚生

リスク・マネジメントの目標は「最低の費用で企業危険のもたらす不利益を除去または最小化しようとする事」(亀井利明)とされますが、本講義では、焦点をリスク・マネジメントの一手段とされる保険にしぼりこみ、以下のような課題のもとに考察をすすめていきます。

- ・リスク・マネジメントと生命保険
- ・リスク・マネジメントと損害保険
- ・リスク・マネジメントと第三分野の保険
- ・リスク・マネジメントと社会保険
- ・リスク・マネジメントと産業振興保険
- ・リスク・マネジメントと国民福祉関連保険

また、本講義では、バブル経済崩壊—金融ビッグ・バン以後の消費者の生活不安の増大、雲仙普賢岳噴火や兵庫県南部地震に代表される近年における自然災害の多発、アメリカにおける同時多発テロ、日英両国における狂牛病対策の比較、などをも視野に入れて、現代社会における危険管理・危機管理のあり方についての論評を試みます。

特定の教科書・参考書は使用しません。必要に応じて、資料と参考文献一覧を配布します。

---

## 交通・公共政策論

休講

---

## 産業組織論 (春学期)

教授 井手 秀樹

### 授業科目の内容:

「競争政策と政府規制の経済学」の観点から理論的かつ実証的な文献を中心に検討する。

随時、レポート等を課す。

---

## 計量経済学 (経商連携 COE 科目) (春学期) (秋学期)

教授 新保 一成

### 授業科目の内容:

#### パネルデータの計量経済学

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。なおこの授業は、21世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—」の連携科目として設置され、経済学研究科の応用計量経済学 (修士課程)、計量経済学特論

(博士課程) (いずれも担当は辻村和佑教授、宮内環助教授、河井啓希助教授) と合同で行う。

---

## 理論経済学 (秋学期)

教授 中島 隆信

教授 樋口 美雄

### 授業科目の内容:

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

---

## 国際経済学 (秋学期)

助教授 遠藤 正寛

### 授業科目の内容:

国際貿易論の理論分析と実証分析を講義します。具体的な項目は以下の通り。

- 1 リカード・モデル
- 2 ヘクシャー=オリーン・モデル
- 3 収穫逓増モデルとグラビティ方程式
- 4 貿易利益と地域貿易協定
- 5 輸入関税とダンピング
- 6 輸入数量制限と輸出補助金

---

## 国際経済 (秋学期)

### International Economy (Autumn term)

教授 (フジタ・チェアシップ基金)

小島 明

Professor Akira KOJIMA

### 授業科目の内容:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.



---

## 産業史・経営史（春学期）

教授 工藤 教和

### 授業科目の内容：

20世紀はBig Businessの時代であったとされる。この機能と役割を正面から取り上げたChandlerの見解がそれへの批判を含めて産業史や経営史の論壇を賑わした。21世紀はこれに比してSmall FirmsとNetworkの時代と言われている。今日の時代が基礎とする企業システムが20世紀に到達したどの部分を継承しどの部分を継承しなかったかを考えるためにも、今一度世界各国におけるBig Businessの成立と役割を見直してみたい。テキストとしては、Chandlerの*Scale and Scope*が刊行され、世界中のBusiness Historianたちがそれを読み込んでいた1994年、ミラノで開催された国際経済史会議の1セッションのために集められた論文を使用する。今の時代から10数年前の当時を振り返り、今後の研究方向を見定める糧としたい。

---

## 経営学・会計学専攻

---

## 現代日本経営論（春学期）

名誉教授 藤森 三男

### 授業科目の内容：

日本の企業経営は欧米のそれと比較して、どのよう  
に同質であり、どのように異質であるか知識を与える  
ことを第一の目標として、第二には統計、文献などの  
一次資料の読み方、考え方を指導することを目標とし  
て授業を行う。入門者、留学生といった初心者にも理  
解できるように解説する。

留学生には英文の資料も配布する。

1. 日本の近代化と企業経営
2. 戦後日本の経済発展（復興期、前期高度成長期、後期高度成長期、石油危機とそれ以降、バブル経済と構造調整期）
3. 日本経済の「奇跡」と日本の企業者
4. 資本主義と企業経営
5. 企業目標、社是社訓
6. 資金問題と財務管理・税金
7. トップマネジメント、意見決定機関と社長
8. 企業組織、その日米比較
9. 人事問題と給与、労働組合
10. 戦略

11. 日本型企業経営の将来、欧米の企業経営と東アジアの企業経営

---

## 経営学説（春学期）

教授 榊原 研互

### 授業科目の内容：

今日の経営学の現状は多様な研究プログラムやアプローチの併存という事態によって特徴づけられ、まさに錯綜した様相を呈している。こうした状況にあってさらに実りある発展を経営学に期待するならば、何よりも諸理論、諸学説を批判的に整序し、かつその限界を明らかにすることが重要である。本授業では経営学の科学化のために先人たちが払ってきた努力を明らかにしながら、経営学の今日的な問題を考察する。

---

## 会計学（秋学期）

### Accounting (Autumn term)

教授 伊藤 眞

Professor Makoto ITO

### 授業科目の内容：

#### International Accounting Standard and International Financial Reporting Standard

International Accounting Standards (IAS) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRS) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which is restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepare new IFRS and improve IAS.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IAS (including IFRS) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, will be required to report in accordance with IAS from year 2005. Many countries are taking steps to harmonize their national accounting standards with IAS with some modifications to allow for local environment.

In this course, we will study the brief history of IAS, IASC and IASB, Framework for the

Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS2 “Inventory”, and IAS39 “Financial Instruments: Recognition and Measurement”, IAS11 “Construction Contracts”, which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IAS, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

---

#### 労働経済学（春学期）

---

教授 清 家 篤

##### 授業科目の内容：

労働市場における主体均衡と市場均衡について講義する。具体的には、労働力の測定、労働供給の理論、労働需要の理論、労働市場の均衡についての講義である。この授業は、労働経済特論（秋学期）においてとり扱う労働市場の諸問題について考えるために必須のものである。

---

#### 産業関係論（春学期）

---

教授 八 代 充 史

##### 授業科目の内容：

下記の文献をテキストに用い、授業参加者の報告と討論によって授業を行う。

### 3. 分野専門科目

#### 商学専攻

#### <商業学分野>

---

#### マクロ・マーケティング特論（流通問題） （春学期）（秋学期）

---

名誉教授 清 水 猛

##### 授業科目の内容：

本講義ではマクロ・マーケティング研究の一環として、主に流通問題を取り上げ、社会システム論の視点から多変量解析による分析について学ぶ。英文文献をベースにして、講義、報告、議論をおこなう予定である。各学期毎にレポートを課す。

---

#### マクロ・マーケティング特論（マーケティング方法論） （春学期）

---

教授 堀 越 比呂志

##### 授業科目の内容：

本講では、マーケティング研究における様々なアプローチとその科学性に関する諸問題を論究する。マーケティング研究が成熟してくる過程で、方法に関する議論は幾度となく展開されてきている。授業では、このマーケティング研究における方法論争にかかわる論文やその理解に必要な基本的文献を選択し、その輪読、発表をもとに全員での討議を行う。

受講者は、出席はもちろんであるが、相当量の準備が必要とされるであろうし、自分の進めている研究における方法を自覚した上で議論に参加することが望まれる。

---

#### ミクロ・マーケティング特論（消費者行動論）（秋学期）

---

助教授 斎 藤 通 貴

##### 授業科目の内容：

ミクロ（個別企業の経営的視点）からのマーケティングへのアプローチを考える上で、市場行動の理解が重要なことは言うまでもない。本講義では、マーケティング戦略研究において必要な消費者の選択行動を中心に、消費者行動研究の基本的な文献の講読とそれをもとにしたディスカッションを行っていきたいと考

えている。

本講義を履修する際には、少なくとも学部での商業学関連科目、特に、消費者行動論（新学則）市場調査論（旧学則）を履修済みであるか、同程度の知識があることを必要とする。

使用する文献に関しては、Journal of Consumer Research, Journal of Marketing Research などのジャーナルと研究書（英文が主）から論文を中心に選択する。

成績の評価は、クラス・パーティシペーションとレポートによって行う。授業への出席はもちろんであるが、毎クラスごとの平常点が重視される。

---

### マイクロ・マーケティング特論（価格決定論）（春学期）

---

助教授 里村 卓也

#### 授業科目の内容：

企業のマーケティング活動において価格決定は重要な意思決定事項の一つである。価格決定には新製品発売時の価格設定や既存製品の価格改定に関する研究領域と、価格プロモーションに関する研究領域がある。これらの領域ではマーケティング論により「価格戦略」「消費者行動」「製品」「セールス・プロモーション」等を扱うこともあれば、企業行動を扱うマイクロ経済学からのアプローチもある。価格決定にはこれら 2 つのアプローチが必要となってくる。

本講ではこれら価格決定論の諸研究領域について、基礎的な文献の講読、討議を中心に進め理解を深める。

---

### マイクロ・マーケティング特論（グローバル・マーケティング論）（秋学期）

---

講師 シェロン, エマニュエル

#### 授業科目の内容：

Macroeconomic, politic, cultural and legal variables are studied in relation to commercial opportunities available in export markets. Information search and global markets assessments are presented as a prerequisite to structuring a marketing strategy and preparing a proposed international marketing mix. Internet sources of information for export are covered. International marketing opportunities and challenges are presented for small and medium sized businesses as well as for large global corporations.

---

### マイクロ・マーケティング特論（イノベーション・新製品開発）（秋学期）

---

教授 濱岡 豊

#### 授業科目の内容：

##### ○意義と目的

この授業では、イノベーションが生まれ新製品を開発する段階に注目し、主にマイクロな視点からの研究を進める。

##### ○授業内容とスケジュール

##### 『目次』

マーケティングに限定せず、イノベーション研究、技術のマネジメント、心理学における創造性研究、組織論、社会学など、学際的な視点から研究を進めて行きたい。参加者の興味に応じて、以下のトピックを適宜選択する。

- ・イノベーション・新製品の源泉
- ・人や消費者の創造性と創造プロセス
- ・イノベーション・新製品の開発プロセス
- ・イノベーション・新製品の開発組織、コミュニケーション
- ・イノベーション・新製品の開発プロセス改善のためのツール、メディア
- ・イノベーション・新製品のパフォーマンス指標

---

### 商業学演習（マーケティング理論の研究）（春学期）（秋学期）

---

教授 檜原 正勝

#### 授業科目の内容：

##### 1) 講義のテーマ

経験的に目にすることが出来るマーケティング現象の背後に、どのようなマーケティング原理が働いているか、を見出しうる能力を養うべく、マーケティングの理論的知識と理論思考を学ぶことを目的とする。

##### 2) 授業項目の概要

マーケティングについて各種論文が載っている下記テキストを輪読する。この論文集は 1 巻が 500～750 ページ程あるもの 5 巻からなり、総ページ数 3000 ページ以上に及ぶ膨大な論文集である。マーケティングの各ジャンル毎に分類整序され、古典と目されるものから最新の研究のものまで極めて多くの論文が網羅され、マーケティング研究に必要な基本的論文はほとんど掲載されている。

この論文集の論文を履修者の関心に即して選択し、翻訳しながら輪読していく。

- 3) 主に対象とする学生  
特に定めない。
- 4) 授業の進め方  
授業は担当箇所を各自全訳（事前配布）、発表し、討論中心で進めていく。

---

**商業学演習（マーケティングの理論と実証）**  
（春学期）（秋学期）

---

教授 高橋 郁夫

**授業科目の内容：**

本講は商業学を専攻する履修者の修士論文執筆のための指導を行う。その前提として、商業学の知識と統計的解析能力が必要とされる。ゼミ形式と個別形式を適宜組み合わせる指導を進める。

---

**商業学演習（マーケティングにおける社会ネットワーク分析）**  
（春学期）（秋学期）

---

教授 濱岡 豊

**授業科目の内容：**

社会ネットワーク分析は古くからある手法だが、データの入手困難性から、その分析手法は比較的原始的なものであった。しかし、近年のインターネットの発達に伴い、ホームページのリンク、電子メールのコメント関係など、比較的簡単に巨大な社会ネットワーク・データを得ることができるようになった。この授業では、社会ネットワーク分析についての基本的な文献、応用論文、最新の研究論文などを読みながら、実際のデータを用いて演習を進める。最終的には、各自のもつ研究テーマに対して、この手法を応用し報告してもらおう。可能ならば受講生との共同研究も行いたい。

- 1) 様々なネットワークとその機能
  - 消費者間のネットワーク
  - 企業間のネットワーク
  - 企業の成員のネットワーク
    - 情報や影響の伝達
    - 創造活動、問題解決
- 2) ネットワークの定量化
  - 個人レベルの指標
  - 社会ネットワークレベルの指標
- 3) 分析のための手法
  - 記述的な手法
  - 統計モデル
- 4) 社会ネットワーク分析の新展開
  - ダイナミックなネットワーク

- 大規模ネットワーク
- 可視化手法
- 社会関係資本の定量化
- 社会ネットワークと個人の行動の相互作用

---

**商業学演習（マーケティング研究と批判的合理主義）**  
（春学期）（秋学期）

---

教授 堀田 一善

**授業科目の内容：**

履修者の論文作成を目的に発表・討論を中心に指導する。但し、受講者数との関係もあるので、少人数の場合は、マーケティングの古典を併せて輪読することも考えている。

---

**商業学演習（マーケティング・メタ研究とマーケティング研究の理論化）**  
（春学期）（秋学期）

---

教授 堀越 比呂志

**授業科目の内容：**

これまでのマーケティング研究の成果を、その対象、方法、学説という3つの視点から整理し、分析するマーケティング・メタ研究を基礎として、マーケティング研究の理論化を探求する。授業は、このテーマに興味を持つ履修者の論文作成のための発表と討論が中心となり、修士課程および博士課程合同で、両者の時間帯（4時限、5時限）を連続して行うので、履修申告の際は注意されたい。また、単独の授業とともに、討論の実り豊かさを考慮して、堀田一善教授および榎原正勝教授との合同授業の形態も採用される。詳しいスケジュールは、最初の授業の時に、履修者と相談の上決める予定なので、必ず出席されたい。

---

**商業学合同演習（秋学期）**

---

コーディネーター 教授 榎原 正勝

**授業科目の内容：**

マーケティング一般を対象とし、履修者各自の「個人研究発表」と「英文文献翻訳発表」を中心に行なうが、時々、担当教員やゲストスピーカーの講義を織り混ぜ、バラエティに富んだ合同演習にしたいと考えている。

なお、授業はディスカッションの実り豊かさを考え、修士、博士合体で行なう予定である。

## <金融・証券論分野>

---

### 金融特論 (Asset Pricing 1) (春学期)

---

教授 辻 幸 民

#### 授業科目の内容 :

この授業では、asset pricing における CAPM 以降の動向（主に理論面）を取り上げる。CCAPM や SDF は登場以来 20 年が経過し、これらは今日のファイナンス研究の最も中心的な理論的ツールとなっている。これらの基本的な理解に努めたい。

授業はテキストの輪読であり、履修者による報告が義務付けられる。なお履修者は秋学期もあわせて履修されることが望ましい。

---

### 金融特論 (Asset Pricing 2) (秋学期)

---

教授 辻 幸 民

#### 授業科目の内容 :

この授業では、春学期の授業をふまえて、CCAPM の理論的な展開とその応用を取り上げたい。

授業はテキストの輪読であり、履修者による報告が義務付けられる。なお履修者は春学期もあわせて履修されることが望ましい。

---

### 金融特論 (秋学期)

---

#### Advanced Study of Finance (Corporate Governance and Financial System) (Autumn term)

---

教授 深 尾 光 洋

Professor Mitsuhiro FUKAO

#### 授業科目の内容 :

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-

governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

#### 1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

#### 2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

#### 3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol. 8, No.3, 1992.

Bank of Japan, "The Japanese Employment System," Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRR, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative

committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

#### 4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries,

Governance structure of government owned companies and private companies,

Issues related to bankruptcy procedures,

Security exchange law and governance system,

Incentive mechanism for directors,

Banking problems and deposit insurance system.

---

### 証券特論（資本市場構造論）（春学期）

教授 赤川 元章

#### 授業科目の内容：

証券市場とは、証券発行を行う近代株式会社や公経済などの社会的資産の集中機構を前提として成立する証券の売買運動＝証券の需要・供給の場である。この証券市場は、商品としての証券（株式・社債・公債）を取扱う特殊な資本、証券取引資本（証券会社・銀行）の機能に支えられ、証券資本主義の発展と共に、その役割はますます重要となっている。かかる証券市場の構造を貨幣的経済理論の観点からとくに、景気循環との関連から究明する。

テキストはアメリカの証券市場を対象としたウィーン学派の経済学者マハループ、Fの：Machlup, F., *The Stock Market, Credit and Capital Formation* 『株式市場、信用および資本形成』（千倉書房）を用いる。

---

### 証券特論（証券市場制度論）（秋学期）

教授 赤川 元章

#### 授業科目の内容：

証券のもつ様々な属性はその保有者との関係において、特殊なもの（たとえば、利子・配当請求権証券、投機的売買差益証券、経営支配証券など）に限定されて現れる。とりわけ、価格論として証券を対象とする場合には、収益とリスクの両面において、発行主体の経営体の個別的状态ならびに金融市場の一般的動向に依存する。証券は、今日、「信用代位」の高度形態としての「証券代位」として展開され、証券市場の範囲を一層拡大している。このような証券市場のシステムを証券取引所の機能も含めて制度論的側面から検討する。本年度は、東欧・中国などの国有企業の民営化を踏まえた証券市場論についても取り扱う予定。

---

### 財政特論（春学期）

教授 跡田 直澄

#### 授業科目の内容：

目的：公共部門は肥大化し、財政赤字を累積している。なぜこのような事態が引き起こされるのか。この点を解明するため、春学期では主に歳出面についての公共経済学の基礎的な文献を輪読するとともに、若干の解説的講義を行なう。

#### 授業内容：

1. ミクロ経済学の復習
2. マクロ経済学の復習
3. 公共経済学のテキスト輪読
4. 関連文献の輪読

---

### 財政特論（秋学期）

教授 跡田 直澄

#### 授業科目の内容：

目的：公共部門は肥大化し、財政赤字を累積している。なぜこのような事態が引き起こされるのか。この点を解明するため、秋学期では主に租税面についての公共経済学の基礎的な文献を輪読するとともに、若干の解説的講義を行なう。

#### 授業内容：

1. 所得税
2. 法人税
3. 間接税

---

財政特論（春学期）

Advanced Study of Public Finance（Spring term）

---

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, public debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic.

Covered Topic:

Fiscal and Monetary Policy  
Budget  
Revenue Forecasting  
Public Debt  
Cost-benefit analysis  
Public goods and bads  
Local Public Finance  
Finance and Development  
International Issues in Public Finance

---

財政特論（秋学期）

Advanced Study of Public Finance（Autumn term）

---

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

Covered Topic:

A Framework of Taxation  
Commodity Taxation  
Individual Income Taxation  
Corporate Taxation  
Capital Income Taxation  
Inheritance and Gift Taxation  
Tax Compliance and Evasion

---

Tax Reform

---

税務行政特論（春学期）

Advanced Study of Tax Administration（Spring term）

---

特別研究教授 本庄資

Professor Tasuku HONJO

授業科目の内容：

The State and local authorities need to have sufficient tax revenues to maintain their public finance in sound health. The basic premises for raising tax revenues as provided by tax laws are a fair and efficient tax administration and a high level of taxpayer compliance. From this point of view, this lecture will take up the following issues which most countries are facing and show the basic stand toward them. Concrete measures appropriate for each country will also be discussed.

1. Organization and human resource for tax administration
2. Registration and control of taxpayers
3. Tax examination and investigation
4. Measures to secure tax revenues
5. Countermeasures against “tax saving,” “tax avoidance,” “tax evasion” and “corruption”
6. Protection of taxpayer’s rights
7. Income tax administration and value added tax administration

国家・地方団体の財政基盤を健全に保つには、自主財源である税収を十分に確保することが必要である。そして税制の予定する税収を上げるには、公正で効率的な税務行政と納税者のコンプライアンスが不可欠の前提である。このような観点から、本論は、各国が共通して直面している下記の課題を取り上げ、それらに対する基本的な考え方を示す。さらに各国の実情を踏まえ、具体的にどう対処すべきかを議論する。

〔課題〕

1. 税務組織機構及び人的資源
2. 納税者管理
3. 税務調査
4. 円滑な税収確保政策
5. 節税・租税回避・脱税・腐敗への対応
6. 納税者の権利保護
7. 所得税の税務と付加価値税の税務

---

**金融論演習（金融経済論）（春学期）（秋学期）**

---

教授 赤川 元章

**授業科目の内容：**

履修者と相談のうえ、決定する

---

**金融論演習（春学期）（秋学期）**

---

教授 金子 隆

教授 辻 幸民

**授業科目の内容：**

金融・証券に関するテーマに取り組んでいる大学院生と研究者を対象とした金融ワークショップを共同で開催する。履修者には現在手掛けている論文の中間報告をしてもらう。報告すべき段階に至っていない人は、研究テーマに関連した文献の紹介・検討でもよい。教員やゲスト・スピーカーによる報告も適宜取り入れる。

こういう趣旨で行うので、毎週定期的で開催されるとは限らない。初回到履修者と相談して大体のスケジュールを決定する。

---

**財政論演習（春学期）**

---

教授 跡田 直澄

**授業科目の内容：**

目的：財政学の各テーマについて、理論的あるいは計量的分析をおこなっている基礎的論文および近年の展開をサーベイし、各自が興味あるテーマで実際にモデルを作り分析を行なうことを目的とする。春学期においては、おもに社会保障制度をテーマとする。

**授業内容：**

1. 年金制度
2. 医療制度

---

**財政論演習（秋学期）**

---

教授 跡田 直澄

**授業科目の内容：**

目的：財政学の各テーマについて、理論的あるいは計量的分析をおこなっている基礎的論文および近年の展開をサーベイし、各自が興味あるテーマで実際にモデルを作り分析を行なうことを目的とする。秋学期においては、おもに租税制度をテーマとする。

**授業内容：**

1. 最適所得税論，最適課税論
2. 資本所得課税

---

**財政論演習（応用ミクロ経済学）（春学期）（秋学期）**

---

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍谷 雅敏

**授業科目の内容：**

ミクロ経済学は広い応用分野をもつが、中でも、年金・税制・法制・資本市場等を分析するツールとして有効である。また、今日の我が国では長寿化や知識経済化等が進展しているが、そうした趨勢下におけるライフサイクル・家族・組織・都市等の変貌を理解するうえでも、ミクロ経済学は様々な洞察をもたらす。

本演習では、財政金融制度等の公共政策のあり方や、その基盤として考慮すべき経済社会環境の変化をテーマとし、ミクロ経済学のロジックを応用しつつ研究に取り組む大学院生に対する指導を行う。

演習運営方式は、履修者から研究の進展結果の報告を受けて指導することを基本とし、併せて、関連する各種論点に関し、参考文献を踏まえて議論し理解を深める。

---

**財政論演習（春学期）（秋学期）**

---

**Seminar: Public Finance（Spring term）（Autumn term）**

---

特別研究教授 北村 行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

**授業科目の内容：**

**Objective:** To write, at least, one research paper on the topics related to public finance as a term paper or a part of Master's thesis. The research paper must be clearly written (precise, crispy) and may not be too long (approximately 20pages).

**Teaching Method:** Presentation of assigned papers/chapters of a book and discussion after presentation. Once each participant's research topic is selected, participant's own paper in progress is to be presented and discussed by me and other participants.

**Possible Research Topics:** The topic must be narrowly focused and well defined. The core idea must be something new and have some policy relevance.

- (1) Fiscal Policy in the Process of Economic Development  
Provision and effectiveness of social capital and infrastructure.
- (2) Consumption Tax versus Income Tax  
Means of raising revenue from taxation.
- (3) Economics of Tax Evasion



How widely tax evasion prevails? What mechanism to prevent it?

(4) Debt Management Policy or Measurement of Public Deficits and Its Implications

What determine optimal debt management? How harmful public deficits in the conduct of fiscal policy?

(5) Social Security and Public Pension Design Intergenerational transfers and generational accounting

(6) Provision of Public Goods and Externalities.

Must transportation, housing, telecommunication, TV network, among others be provided publicly?

(7) Others

---

税制・経済政策演習（春学期）（秋学期）

Seminar : Advanced Study of Taxation and Economic Policies (Spring term) (Autumn term)

教授（大正製薬チャシップ基金）

鞍谷 雅敏

Professor Masatoshi KURATANI

授業科目の内容：

This seminar will discuss concrete themes concerning relations between private-sector economy and public policies. Seminar students are required to fulfill reading assignments and present their own views in classes. They are also required to write research papers on topics related to taxation and economic policies.

---

金融論合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 深尾 光洋

授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題になっており，これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば，一切問わない。

成績評価は，発表者は発表内容，発表者でないものは学期末のレポートによる。

---

金融論合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 深尾 光洋

授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題になっており，これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば，一切問わない。

成績評価は，発表者は発表内容，発表者でないものは学期末のレポートによる。

---

< 保険論分野 >

リスク・マネジメント特論

（リスク・マネジメントの意義と体系）（秋学期）

講師 真屋 尚生

本講義では，まず第1に，生産，販売，財務，労務など，企業のあらゆる活動と業務に関わる多種多様な危険によって引き起こされる可能性がある企業の倒産を，最少の費用で防止するためのリスク・マネジメントの意義と体系について考察します。また，リスク・マネジメントの一手段とされる保険の機能とその限界に論及しつつ，保険事業における経営危険とリスク・マネジメントのあり方についての論評も試みます。

時間が許せば，1970年代以降，アメリカにおいて環境管理支援システムとして注目されているミティゲーション（mitigation）について紹介する予定です。開発行為が環境に与える影響を回避（avoid）することを第一義として，不可避的な影響は最小化（minimize）し，それでも生じる影響は，それに見合う環境を人為的に創造することによって代償（compensate）する，という環境管理制度をミティゲーションといいます。ミティゲーションはリスク・マネジメントの手法を環境保護に応用している，とみることも可能であり，リスク・マネジメントがアメリカで発達してきたことを考慮するとき，非常に興味深いものがあります。

特定の教科書・参考書は使用しません。必要に応じて，資料と参考文献一覧を配布します。

---

## 保険特論（春学期）

教授 堀田 一 吉

### 授業科目の内容：

保険学は、その特殊性から、経済学、金融論、制度論、経営論、法律論、数理論その他、いろいろな学問分野と隣接し、それぞれの成果を取り入れて従来理論をより精緻にする形で発展してきた。

ところが、現在の保険学研究を概観すると、研究者の興味対象が細分化された結果、研究相互の関連性が不明確になりつつあるように見える。これからの研究の方向性を定める上では、これまでの研究成果を整理し、残された課題を確認しておくことが不可欠である。

本講義では、代表的な研究書または論文を読むことを通じて、保険学研究の動向を探りながら、多様な研究アプローチを習得することを目的とする。授業は、指定した文献について、予め指名されたレポーターが、要約およびコメントを行い、それに対して、問題点を整理しながら議論しあう形で進めたい。したがって、言うまでもなく、受講者は、相当量の準備が要求される。評価は、授業で平常点と、学期末のレポートによって行なう。

---

## 保険経営特論（秋学期）

教授 堀田 一 吉

### 授業科目の内容：

本講義は、企業としての保険会社の行動理論を取り扱う。規制緩和の流れの中で、保険業界は、将来の構造変化に備えて、厳しい選択を迫られているということが言える。授業では、現在、わが国の保険業界が抱えている課題をいくつか取り上げて、問題解決に向けてさまざまな角度から再検討してみる。授業の進め方は、毎回レポーターを決めて、事前に与えたテーマについて現状および課題を整理してもらい、それをふまえて全員で討議を行なう。併せて、適宜、関連した文献を紹介しながら、現在の研究段階を確認していくことにする。

受講者に対しては、保険業界の現状について、ある程度問題意識を持っていることが望ましい。

---

## リスク・保険論演習（春学期）（秋学期）

教授 堀田 一 吉

### 授業科目の内容：

本講座では、履修者の論文指導を主な目的とする。そのために、まず、各自の研究テーマに関連する文献

を取り上げて、文献研究を通じて問題意識を鮮明にすべく議論を行なう。さらに、適宜各自の研究報告をしてもらい、質疑応答により改善点を確認し、論文作成の進捗を図る。

---

## リスク・保険論合同演習

休 講

---

## <交通・公共政策・産業組織論分野>

---

### 交通・公共政策特論（春学期）

助教授 伊藤 規子

#### 授業科目の内容：

主に価格メカニズムか規制システムについての基本的理論を研究します。1冊か2冊理論的かつ基礎研究の蓄積に役立つベーシックなテキストを輪読することを予定しています。テキストは初講日に決めます。

---

### 交通・公共政策特論（市場規制論）（秋学期）

教授 中条 潮

#### 授業科目の内容：

履修者と相談の上、決定する。

---

## 経済地理特論

休 講

---

### 産業組織特論（イノベーションと中小企業）（春学期）

教授 高橋 美樹

#### 授業科目の内容：

この授業では、産業組織論と中小企業論との接点に当たる分野をとりあげ、議論する。具体的には、ネットワーク型企業間関係、イノベーションと企業規模、中小企業政策などのテーマについて、『日本の中小企業研究』“Small Business Economics”所収論文などを適宜輪読し、議論を整理、検討してゆく。

（注）履修予定者は、申告前に、必ず授業担当者  
と、メールにてコンタクトをとること（メール・アドレス：takamiki@fbc.keio.ac.jp）。また、履修者の問題意識に応じて、テーマが若干かわることもあり得ます。

交通・公共政策演習（規制の経済学・交通経済学）  
（春学期）

教授 中 条 潮

授業科目の内容：

受講生と相談の上、決定する。

産業組織論演習（秋学期）

教授 井 手 秀 樹

授業科目の内容：

産業組織，公的規制，および関連領域の問題について最近の文献と事例を中心に議論する。

産業組織論演習（日本の企業と産業組織）（秋学期）

教授 高 橋 美 樹

授業科目の内容：

本演習では，履修者各自の問題意識向上・明確化，論文作成能力の向上を目的とします。

具体的には，「日本の企業と産業組織」を大きなテーマとして，履修者による発表，議論を中心に授業をすすめます。

（注）履修予定者は，申告前に，必ず授業担当者と，メールにてコンタクトをとること（メール・アドレス：[takamiki@fbc.keio.ac.jp](mailto:takamiki@fbc.keio.ac.jp)）。

公共政策・産業組織論合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 井 手 秀 樹

授業科目の内容：

ネットワーク産業と競争政策，規制のあり方について文献講読と参加者の発表を中心に議論する。

<計量経済学分野>

計量経済学特論（春学期）

教授 牧 厚 志

授業科目の内容：

消費者行動の基礎理論を研究します。

数理統計学特論（統計的推論）（春学期）

教授 早 見 均

授業科目の内容：

よく利用されている統計的手法を理解するには，（1）基本的な確率論あるいは確率過程論の知識が必要なこと，（2）利用されるデータに即した確率的モデルが作成できること，（3）コンピュータの性能を

駆使したシミュレーション手法が使えること，などが必要条件となっている。修士論文の作成にあたってデータを利用した分析を考えている人を前提にして，一步踏み込んだ基礎知識を習得することをねらいとしている。

これまでに扱った文献テキストは B.L.S. Prakasa Rao [1999] *Statistical inference for diffusion type process*, *Kendall's Library of Statistics 8*, Arnold, H. Goldstein [1995] *Multilevel statistical models*, *Kendall's Library of Statistics 3*, Arnold, G. Grimmett and D. Stirzaker [2001] *Probability and random processes*, 3<sup>rd</sup> ed., Oxford University Press, D. Williams [2001] *Weighing the Odds*, Cambridge University Press である。

最初の講義でいくつかの参考文献を持参しながら，どのように講義を進めて行くかを定めることにする。博士課程の統計学特殊研究と併設講義である。

産業連関特論（産業連関分析）（春学期）

教授 桜 本 光

授業科目の内容：

産業連関分析の基礎理論及び応用例を講義する。国際間分析例としては，日米・アセアン産業連関分析，地域間分析例としては東京都産業連関分析をとりあげ，日米間・東アジア間及び地域間の相互依存関係を分析する二つのモデル（静学・動学）を述べ受講者にも演習してもらう予定である。

- I. 概説 現代における産業連関分析の意義
- II. 国民経済計算と産業連関表（SNA と I—O表及び SAM）
- III. 産業連関分析の基礎理論
  - 3.1 数量分析と価格分析（レオンチェフ・オープンモデル）の解説
  - 3.2 産業連関分析に関連する諸係数の解説
  - 3.3 パソコンによる生産・労働・資本波及効果分析（演習）
  - 3.4 生産関数と産業連関分析  
生産者行動理論の系譜と I—O 分析
- IV. 産業連関表と一般均衡分析
  - 4.1 一般均衡モデルの解説
  - 4.2 パソコンモデルによる演習予定
- V. 産業連関分析の応用
  - 5.1 家計消費の内生化（消費関数と産業連関分析）  
消費者行動理論の系譜と I—O 分析（消費コ

ンバータの解説)

5.2 民間設備投資の内生化 (投資関数と産業連関分析)

設備投資行動と固定資本マトリックス

5.3 輸出・輸入の内生化 (国際産業連関分析)

日米産業連関表と国際産業連関表の解説とその応用 (貿易摩擦)

5.4 移出・移入の内生化 (地域産業連関分析)

東京都地域間産業連関表の解説とその応用 (東京一極集中のメカニズム)

5.5 経済成長と技術進歩

産業構造の三角化と T. F. P. (全要素生産性) の計測例

5.6 持続的成長と環境保全

エネルギー・環境分析用産業連関表 (EDEN表) の応用例

VI. 産業連関表とエネルギー・環境分析

VII. 産業連関表の推計と今後の課題

---

開発経済特論 (秋学期特定期間集中)

Advanced Study of Development Economics (Autumn term)

特別招聘教授 キラナンダナ, ティエンチャイ

Guest Professor Thienchay KIRANANDANA

授業科目の内容:

Course Outline

1. Concepts and measurement

- economics development
- economic growth
- income distribution and poverty

2. Approaches to economic development

- The linear-stages theory
- Rostow's stages of growth
- The Harrod-Domar growth model
- Structural changes models
- Surplus labor and the Lewis model
- Structural changes and patterns of development
- The international-dependence revolution
- The Neoclassical dependence model
- The false-paradigm model
- The dualistic development thesis
- The Neoclassical counterrevolution
- Free market, public choice, market-friendly approaches
- Traditional Neoclassical growth theory

—The New growth theory

—Endogenous growth

3. Industrialization and economic development

—The role of capital formation

—Industrialization policies

—The structuralist vs monetarist debates

4. The Green revolution

—Land reform

—Agricultural-led development

5. The foreign sector in development

—Export promotion and import substitution

—Manufactured exports from LDC's

—Export-led growth with primary products

—The liberal international economic order

—Market access issues (from GATT to WTO)

6. Capital formation in development

—Mobilizing domestic savings

—Fiscal and monetary policies

—Financial reforms

—Foreign sources of capital

—Direct foreign investment

—Official development assistance

—Bank lending and debt crisis

7. Demographic transition and development

—Population growth and changes

—Migration

—Urbanization

8. Human capital formation approach to economic development

—Endogenous growth theory

—Education

—Health

9. Market economies and economic reform

—Planning vs market economies

—Economic reform in market economies

10. Income inequality and poverty alleviation

—Growth and income distribution

—Development with equity

—Poverty alleviation

11. The environment and sustainable development

—Environmental problems

—Sustainable development

---

**計量経済学演習（春学期）（秋学期）**

---

教授 黒田 昌裕

**授業科目の内容：**

一般均衡数量モデルの構築について、先行研究をサーベイし、実証研究の例にとりながら、議論を行なう。秋学期については、Seminar形式と併用して行なう。授業は、博士課程科目「計量経済学特殊演習」と合同にて行なう。

---

**計量経済学演習（産業連関分析）（春学期）（秋学期）**

---

教授 桜本 光

**授業科目の内容：**

受講者による研究発表を予定している。

---

**計量経済学演習（生産関数の計測における工学的情報の援用（Ⅰ））（春学期）**

---

教授 新保 一成

**授業科目の内容：**

生産関数の計測における工学的情報の援用について文献のサーベイを行う。リーディングリストは、最初の授業で提示する。

---

**計量経済学演習（生産関数の計測における工学的情報の援用（Ⅱ））（秋学期）**

---

教授 新保 一成

**授業科目の内容：**

春学期に引き続き、生産関数の計測における工学的情報の援用について検討する。鉄鋼、電力、セメント、紙・パルプ産業に関して、工学的情報の援用した生産関数の計測に向けて、実験計画を検討する。

---

**計量経済学演習（市場の質に関する理論形成と実証分析）（経商連携 COE 科目）（春学期）（秋学期）**

---

教授 中島 隆信  
教授 樋口 美雄**授業科目の内容：**

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

---

**計量経済学演習（春学期）**

---

教授 牧 厚志

**授業科目の内容：**

参加者に報告していただきます。

---

**計量経済学合同演習（経済関連分野における実証分析の手法）（春学期）（秋学期）**

---

コーディネーター 教授 早見 均

**授業科目の内容：**

この演習では主に計量経済学の応用分野での研究報告をおこない、実証分析の手法・政策的課題について議論する。商学部・経済学部と産業研究所に在籍し経済分野の実証研究を中心におこなっているスタッフも参加する。

昨年の報告例では、最近改定された国民経済計算の新しい体系 93SNA について旧体系との相違点、昨年発表された 2000 年産業連関表との概念の違いについて 5 回ほどスタッフが解説・議論を行った。その後、受講者による研究報告や研究員による報告、あるいは他大学の研究者による報告も 2 回ほど行われた。扱われたおもなテーマとしては産業連関分析一般、ミクロデータをもちいた労働供給分析、資金循環分析、環境問題の経済分析である。ただし、独占禁止法にかかわる最近の話題、医薬品産業の雇用や寺など NPO の産業組織、カナダの労働市場分析など多彩であった。

今年度もできるかぎり広い分野からの報告を募り、研究活動の最前線を体験できる演習の時間としたいと考えている。春学期・秋学期ともに最初の講義の時間にだいたいの報告予定を決めることにしている。はじめの数回はスタッフによる研究報告をおこなうので見学するだけでなく、なるべく発言するつもりで参加して欲しい。計量経済学特殊合同演習と併設科目。

---

**計量経済学合同演習（春学期）**

---

コーディネーター 教授 樋口 美雄  
教授 中島 隆信**授業科目の内容：**

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

---

### 計量経済学合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

---

コーディネーター 教授 樋口 美 雄  
教授 中島 隆 信

#### 授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題となっており，これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば，一切問わない。

### <国際経済学分野>

---

#### 国際関係特論（中国社会主义市場経済と対外経済関係 I）（春学期）

---

教授 唐 木 園 和

#### 授業科目の内容：

1978年12月，中国共産党第11期3中全会以来の経済体制改革・対外開放政策を進めた理念について論ずる。「实事求是」，計画的商品経済，社会主义市場経済，それに三つの代表などの標語のもつ意味と，それを公認することによって得られた改革の成果について考察する。また，WTO加盟の意義について論ずる。そのことによって，社会主义経済体制と市場経済との対比や関係を明らかにする。

---

#### 国際関係特論（中国社会主义市場経済と対外経済関係 II）（秋学期）

---

教授 唐 木 園 和

#### 授業科目の内容：

春学期の内容を前提とした上で，WTO加盟以後の中国経済の現状と問題点を考察する。また，ナショナリズムの台頭，資源輸入の必要性の高まっている中国が，東アジア経済及び世界経済に今後どのような影響を与えるかを論ずる。

---

#### 国際金融特論（秋学期）

---

教授 深 尾 光 洋

#### 授業科目の内容：

##### Corporate Governance and Financial System:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among

the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

#### 1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

#### 2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

#### 3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol. 8, No.3, 1992.

Bank of Japan, "The Japanese Employment

System,” Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.

Black, Bernard, “Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders,” remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., “Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.,” February, 2002.

#### 4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, “Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure,” *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, “Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries,” paper for a NBER conference on “Structural Impediments to Growth in Japan” on March 18-19, 2002.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries,

Governance structure of government owned companies and private companies,

Issues related to bankruptcy procedures,

Security exchange law and governance system,

Incentive mechanism for directors,

Banking problems and deposit insurance system.

---

#### 国際経済特論（国際経済政策）（春学期）

教授 和気洋子

授業科目の内容：

1. 現代社会において、財・サービスの国際貿易の拡大と金融・資本市場の国際化の進展、そして企業経

営の一層のグローバル化を通じて、各国間の国際的な相互依存関係はこれまで以上に高まっている。こうしたなかでわれわれの眼前には、各国経済間のボーダー分析、経済政策運営、ビジネスの競争と協調のロジック、そして地球環境問題など多くのグローバルイシューが、問われるべき課題として次から次へと現れている。

本講は、これらの今日的な問題意識を基礎にして、とくに「貿易・直接投資・地球環境問題」をめぐる論点をさまざまな視点から整理し、いわば新しい国際経済政策論の枠組みのなかでより自由で活発な議論が行われることが目的である。

2. 授業内容および方法については、受講者の専門レベルなどに応じて、具体的に決めるつもりであるが、とくに地球環境問題に関連する資料など、とりあえず議論をすすめる上で必要と思われる基礎的な参考資料・文献については、その都度、講義のなかで紹介する予定である。これに並行して、受講者による自主的な論文解題を積極的に取り入れていきたいと考えている。

---

#### 国際経済学演習（春学期）

教授 唐木 圀 和

授業科目の内容：

国際経済学及び中国経済に関するテーマについて、受講者の希望を聞いた上で、文献を定め、その内容を検討し、かつ、論文作成の指導を行なう。

---

#### 国際経済学演習（秋学期）

教授 唐木 圀 和

授業科目の内容：

国際経済学及び中国経済に関するテーマについて、受講者の希望を聞いた上で、文献を定め、その内容を検討し、かつ、論文の指導を行なう。

---

#### 国際経済政策演習（秋学期）

Seminar: Advanced Study of International Economic Policies (Autumn Term)

特別招聘教授 鶴 光太郎  
Guest Professor Kotaro TSURU

授業科目の内容：

This seminar focuses on institutions and economic systems in nations and discusses the international comparison of them and institutional reforms from a global perspective. Discussion

subjects include legal institutions, financial system, the role of government and politics. The seminar asks why different institutions or systems emerge in different nations and what kind of institutional changes or reforms are appropriate in the process of globalization. The seminar studies these issues theoretically and empirically in the context of the recent development of economics including “Comparative Institutional Economics”, and emphasizes a political approach (“Political Economics”) to deal with policy issues.

- (1) What are institutions?
- (2) Private-ordered and self-enforcing governance
- (3) Law and economic institutions
- (4) Legal evolution and the transplant effect
- (5) Relationship-based and arm’s length-based system: From a perspective of comparative financial system
- (6) Globalization and institutional convergence
- (7) Conceptions of the state and the governance of government
- (8) Transparency of government I: Fiscal transparency
- (9) Transparency of government II: The role of media
- (10) The quality and performance of government
- (11) Does the “Washington Consensus” really work?
- (12) Institutions and growth

---

#### 国際経済学合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 和 気 洋 子

##### 授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題となっており，これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば，一切問わない。

---

#### 国際経済学合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 和 気 洋 子

##### 授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題となっており，これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば，一切問わない。

より，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題となっており，これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば，一切問わない。

### <産業史・経営史分野>

---

#### 産業史特論（石炭産業とエネルギー市場の歴史）（経商連携 COE 科目）（秋学期）

助教授 牛 島 利 明  
 経済学部教授 杉 山 伸 也  
 経済学部教授 古 田 和 子  
 経済学部教授 柳 沢 遊

##### 授業科目の内容：

経商連携 COE プラグラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」の歴史分析班による共同セミナーである。今年度は，テーマとして戦前・戦後における日本およびアジア諸地域の石炭産業を中心とするエネルギー産業に焦点をあて，基本的な研究文献を体系的にとりあげて報告と討論を行なう。

成績評価は，授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて，総合的に判断する。

---

#### 産業史特論（イギリス産業史）（秋学期）

教授 工 藤 教 和

##### 授業科目の内容：

イギリス産業の「衰退」をめぐる論議は賑やかで終息しそうにない。本年は個別の問題の検討を離れて，この 200 年間のイギリス産業史を俯瞰し，当該主題で何が問題とされるべきかを確認してみる。コンドラチェフの長期波動とシュンペーターの理論的枠組みとを織り交ぜて議論している文献をテキストとして取り上げ，これを批判的に読みすすめていきたい。

---

#### 経営史特論（比較経営史）（春学期）

教授 平 野 隆

##### 授業科目の内容：

19 世紀後半から第 2 次世界大戦期までを対象に，欧米および日本における諸産業の発展と企業経営の展開を比較史の視点から検討する。授業は，下記の文献の輪読および履修者の調査報告によってすすめる。



---

## 経営史特論（企業者史）（春学期）

教授 吉田 正樹

### 授業科目の内容：

本年度は資本主義発展のバロメーターとも機械を作る機械ともいわれる工作機械（machine-tools）産業の発展を取り上げ、そこでの技術革新、市場拡大に果たした企業者活動を考察していきます。講義は先ず工作機械の定義を検討し、産業成立の歴史をイギリス、アメリカを中心に考察していきます。各国の工作機械産業発展の特質に触れながら、技術進歩と企業経営にたいする技術者、企業者のかかわりを考察することになります。以上の欧米にみられた資本主義発展における工作機械産業の歴史考察を踏まえて、明治期の工作機械産業の導入と成長過程の考察に進みます。戦前のわが国においては工作機械産業の技術革新の重要性はあまり強く認識されず、国産品よりも輸入品に依存する安易な選択が一般に行なわれたといわれています。こうした産業発展の制約条件を戦前の工作機械産業の企業者はどのような方法により乗り越えようとしたのか、またどの程度まで克服し得たかを理解していきます。受講者はテキストによるレポート作成が課せられますが、これを基に議論をおこない必要な説明をくわえていきます。また講義の進捗状況に応じて課題をあたえますので、各受講生は欧文、和文の論文、資料或いは社史を用いて、レポートを作成し発表することになります。

---

## 流通史特論

休講

---

## 産業史・経営史演習（産業史関連修士論文作成と史料蒐集・批判）（春学期）（秋学期）

教授 工藤 教和

### 授業科目の内容：

修士論文作成に向けての個人指導、史料蒐集方法の助言、および1次史料を利用した史料批判の実習等を行なう。分野は18世紀以降の産業史・経済史が中心となる。

---

## 産業史・経営史演習（春学期）（秋学期）

教授 平野 隆

### 授業科目の内容：

修士論文作成のための個別指導を行なう。また、修士論文のテーマと関連した文献に関するディスカッションも併行して行なう。

---

## 産業史・経営史合同演習

休講

## 経営学・会計学専攻

### <経営学分野>

#### 現代企業経営特論（コーポレート・ガバナンスの比較制度分析）（秋学期）

名誉教授 植竹晃久

##### 授業科目の内容：

「企業は誰のために、いかに運営されるべきか」という基本課題について、株主主権論とステイクホルダー論の検討、また市場指向的アプローチと機関ないし制度指向的アプローチの検討を踏まえて、各国の歴史経路と制度補充関係に対応したコーポレート・ガバナンスのあり方について模索していく。

#### 現代企業経営特論（企業倫理）（秋学期）

助教授 梅津光弘

##### 授業科目の内容：

Lynn Sharp Paine の最新刊 Value Shift を講読しながら、現代社会における企業観、企業をとりまくステイクホルダー、企業パフォーマンスの評価基準の変化について、様々な角度から検討・考察していきたい。英文原典をほぼ一週間に一章のペースで読みすすめながら、討論中心のクラス運営を行う予定である。企業倫理の概論的な知識を得たい方には、春学期の商学部科目 現代企業経営各論（企業倫理）の履修もおすすめする。評価は期末レポート（70%）とクラス参加度（30%）で行う。詳細は第一回目のクラスでお伝えするので必ず出席のこと。

#### 現代企業経営特論（企業評価）（春学期）

教授 岡本大輔

##### 授業科目の内容：

企業評価研究のテーマは、視点の研究と手法の研究に分けることができる。前者は何を以って評価基準とするかという評価内容・評価視点の研究であり、いわば WHAT の研究である。一方後者はそれをいかにして評価するかという分析方法・分析手法の研究であり、いわば HOW の研究である。本講義では両者それぞれについての考察を行なう。

前者に関しては従来の評価基準である収益性と成長性に加えて、近年注目されている持続可能性（Sustainability）をとりあげる。後者に関しては人

工知能手法の企業評価への適用、特にニューラルネットワーク（Artificial Neural Networks）を取り上げる。

授業は参加者の報告と討論という形式で進めていく。なお、続いて行なわれる経営学演習の時間も利用するので、参加者は両方の授業に参加してもらいたい。

#### 現代企業経営特論（経営資源としての知的財産）（秋学期）

教授 清水啓助

##### 授業科目の内容：

特許、ブランド、デザイン、ソフトウェア、コンテンツ等の知的財産は企業の新たな競争力の源泉として注目されています。そして、これからの経済成長の原動力として知的財産を日本の産業の基盤とする「知的財産戦略」が打ち出されました。

そして、ベンチャー企業の設立や技術移転、M&A、企業評価等において知的財産が重視されるとともに、知財の価値評価、信託といった新たな動きが始まりました。

本講座では、知的財産の構造、知財ビジネスの現状、新たな知財の潮流について理解を深め、経営資源としての知的財産について多面的に検討を行います。

#### 現代企業経営特論（イノベーションのマネジメント）（春学期）

教授 十川廣國

##### 授業科目の内容：

グローバル化のうねりのもと、企業が維持・発展するためには現状を打破し、新製品・新事業の開発などにつながるイノベーションに取り組む必要がある。しかし、それは技術開発にかかわる問題だけではなく、広く組織のあり方にかかわる問題である。

以上のような問題を考えるために、本年度は、下記のテキストを基本的な議論の材料として活用し、議論を進めることにしたい。

#### 現代企業経営特論（組織の経済学）（秋学期）

教授 渡部直樹

##### 授業科目の内容：

当授業では、現代の組織経済学の2つのパースペクティブである、契約論的観点とケーパビリティ的観点に焦点を当て、それぞれがどのような議論に影響されて生成されたものか、それらの方法論的相違は何か、

またそれぞれが、組織における諸活動について、どのような仮定に立って、説明を果たそうとしているのか、といった点を具体的に探ってみる。特に、企業戦略とかコーポレート・ガバナンスといった具体的な状況に対して、どのようなスタンスをとるのかを明らかにしたい。また、今日の組織の経済学において重要問題になりつつある、組織の進化の問題やゲーム理論とのかかわりについても検討していきたい。

授業の進行は、以上の点に関わるテキストを幾つか選び、授業の参加者がそれに対してそれぞれ報告をし、全員でそれを討論するという形式をとる。成績は、レポート提出ということも考えられるが、基本的には報告とそれに対する討論に対する評価を中心に、行って生きたい。

なお授業で用いるテキストは、両者の学説研究を行っている Rutherford や Hodgson の 2000 年以降の最新の論文と、契約論では、Williamson, O. Hart 等の論文をピック・アップしていきたい。ケーパビリティ論の中では、Langlois や Foss の論文を取り上げてみたい。

---

#### 経営管理特論（組織のマネジメント）（春学期）

---

教授 今 口 忠 政

授業科目の内容：

現代の企業は事業の選択と集中を通して、事業の再構築を進めると同時に、新たな事業の創造に向けて、イノベティブな取り組みを増大させている。

講義では、このような事業再編の動向とイノベーションのマネジメントについて、関連する書物を輪読しながら、討議を通じて理解を深めるような授業にしたい。

---

#### 経営管理特論（知識資本主義時代の競争優位と競争戦略）（春学期）（秋学期）

---

講師 林 倬 史

授業科目の内容：

講義内容については、院生諸君の希望に沿うように配慮するが、本年度は以下のような講義概要とした。春学期の講義内容は、いよいよ本格的に始動するインターネット資本主義時代の国際経営戦略論の再構成を中心とする。とりわけ、春学期には以下の4点を中心の検討課題とし、国際経営戦略に関する諸説を再検証していく。

（春学期）

IT時代の競争優位

- (1) 競争のグローバル化と IT 時代の国際経営戦略
- (2) 競争戦略と国際競争優位の規定要因
- (3) 技術体系のパラダイム・シフトと競争優位
- (4) 競争戦略論

—M. Porter と J. Barney の諸説を中心として—

秋学期では、「知識資本主義時代の競争優位」を技術、研究開発、および組織におけるイノベーションの視点から検討していく。さらに企業の国際競争力の源泉ともいえる技術開発力と知識創造の問題を、文化的多様性との関連、および競争戦略論の再検討の視点から明らかにしていく。

以上の諸点に留意しながら、秋学期の講義ならびに共通の研究課題を以下の5点とする。

- (1) 知識資本主義時代の競争とその源泉
- (2) Virtual Integration と Vertical Integration
- (3) 異文化マネジメントと Knowledge Management の重要性
- (4) 知識創造と知的財産権の重要性
- (5) 知識資本主義時代の競争優位—イノベーションと組織・文化

---

#### 経営管理特論（日本の経営事情）（秋学期）

---

名誉教授 藤 森 三 男

授業科目の内容：

経営学を研究しようとするとき、理論的分析が重要になる。が、それよりも前に経営事象そのものを知らねばならない。経営の実態がどうであるかを知ることによって、経営学研究の道程を間違えないように援助するのが本講義である。

アメリカの経営の上にアメリカ経営学があり、日本の経営の上に日本経営学があるのか、世界の経営学は世界中共通のものであるか、を考えるのは、面白い問題である。日本式経営は存在しうるのかどうかである。この問題に解答するには、まず日本の経営事情を知らねばならない。

又、日本の経営の実態調査を重ねた清水龍塋の考え方、発掘した事実も紹介する。

講義は私の解説を中心に行う。

##### 1. 江戸時代

三井高利の革新的商法、商家と家訓、奉公人雇用制度、商家の会計制度、住友の銅山経営と鉱夫管理など

##### 2. 明治期

商家の新時代への対応と盛衰、政府の殖産興業と

官業払下，渋沢栄一と明治期の実業界，岩崎弥太郎と三菱の創業，高等教育の発展と専門経営者の登場など

3. 大正，昭和初期

財閥間競争と 3 大財閥の覇権確立，財閥のコンツェルン形式活動，「ドル買い」事件と財閥の「転向」，経営者企業の登場とホワイトカラーの形式，呉服店から百貨店へなど

4. 戦中・戦後初期

軍需産業の展開，電力国家管理，企業整備，第 2 次世界大戦期の遺産，金融業界の再編など

5. 戦後期

鉄鋼業における競争，エネルギー革命，商社の大型化，企業集団の形成，松下電器の発展など

---

比較経営特論（日本経営基本論）

（春学期特定期間集中）

Advanced Study of Comparative Management

(Management in Japan: The Basic System) (Spring term)

特別招聘教授 フルーイン，マーク

Guest Professor Mark FRUIN

授業科目の内容：

講義内容は別途掲示する。

---

経営学演習（組織のマネジメント）（春学期）（秋学期）

教授 今口忠政

授業科目の内容：

演習科目であるので，組織のマネジメントを中心としながら，修士論文のテーマと関係させて関連する論文の輪読，発表，調査・分析を混ぜ合わせた授業を行う。

2 年生にとっては受講生の修士論文を完成させるための指導，1 年生に対しては修士論文の作成に向けての論題の選定，体系化，調査・分析の指導を行う。

---

経営学演習（春学期）（秋学期）

教授 岡本大輔

授業科目の内容：

本演習では修士論文作成のための指導を行なう。具体的な指導方法については参加者と相談のうえ，決定する予定である。また，本演習は前の時間に行なわれる現代企業経営特論（企業評価）の補完的な役割を果たすので，参加者は両方の授業に参加してもらいたい。

---

経営学演習（春学期）（秋学期）

教授 榊原研互

授業科目の内容：

学説分析の方法や経営学の方法論的諸問題について輪読，討論を行う。詳細については履修者との相談の上決定する。

---

経営学演習（経営戦略と組織（I））

（春学期）（秋学期）

教授 十川廣國

授業科目の内容：

本授業は修士論文作成のための指導を中心に進めていく予定であるが，履修者の問題意識の向上という目的も兼ねて，履修者が共通の課題で討論を行うための機会をも設けることを考えている。

---

経営学演習（組織と進化）（春学期）

教授 渡部直樹

授業科目の内容：

当授業では，組織を進化という観点から捉え，それが組織行動を理解する上でいかなる意義があるのかを明らかにしたい。まずはダーウィニズムとラマルキズムに代表される進化概念の明確化から始め，その後，より組織に即した進化概念について検討を加えていきたい。

なお授業の進め方は，以上の問題に関する報告と討論を中心に行っていく，成績評価もそれに対する評価という点から行いたい。

また，演習という性格から，その内容の具体的な詳細は，参加者と相談して決めて行きたい。

---

経営学演習（制度とゲーム理論）（秋学期）

教授 渡部直樹

授業科目の内容：

当授業は，組織を含めた制度が，如何に成立するのか，なぜ安定性を保っているのかについて，ゲーム理論の観点から検討する。この研究は1980年代 90年代から盛んになったものだが，特に基本的な文献の理解から進めていきたい。なお，成績評価は，各自の報告と討論から行なっていきたい。また，演習という性格から，その内容の具体的な詳細は，参加者と相談して決めて行きたい。

---

### 経営学合同演習（秋学期）

---

コーディネーター 教授 十川 廣 國  
教授 渡部 直 樹

#### 授業科目の内容：

この演習は、基本的には修士課程在籍者の修士論文作成指導をより適切なものにするために個々の指導教授や他の教員が合同で論文発表の討論に参加する。また、学生の論文発表の機会だけではなく、教員が各自の研究成果を報告し、討論を行うことによって相互交流をはかる機会としても利用される。

なお単位付与は、平常の討論状況や論文発表による。

## <会計学分野>

---

### 財務会計特論（外貨換算会計論）（春学期）

---

教授 伊藤 眞

#### 授業科目の内容：

下記テキストについて、輪読形式により、担当者はレジメを作成し報告するとともに、これに基づいて参加者は議論し、下記事項につき理解を深める。

外貨建取引の換算、外貨表示財務諸表の換算、通貨換算デリバティブの会計処理、ヘッジ会計

会計学演習と連続して行う予定です。登録前に担当教員とコンタクトすること。

---

### 財務会計特論（金融商品会計論）（秋学期）

---

教授 伊藤 眞

#### 授業科目の内容：

IAS39 “Financial instruments: Recognition and Measurement” revised in 2004 及び金融商品会計に関する論文について、輪読形式により、担当者はレジメを作成し報告するとともに、これに基づいて参加者は議論し、下記事項につき理解を深める。

金融商品会計の論点、金融商品のキャッシュフロー及びリスク、時価概念

金融資産・負債の時価評価方法、認識及び認識の中止、事後測定、開示、ヘッジ会計

会計学演習と連続して行う予定です。登録前に担当教員とコンタクトすること。

---

### 財務会計特論（現行会計の再検討）（春学期）（秋学期）

---

名誉教授 笠井 昭 次

#### 授業科目の内容：

本年度は、時価主義会計学説を取り上げる。

会計学の基礎知識を具えている学生を対象としている。なお、随時タスクを課し、それに関するグループディスカッションを行なう。

また春学期と秋学期とは連動しているため、受講者は、共に受講することを希望している。

---

### 財務会計特論（会計基礎概念の検討）（春学期）（秋学期）

---

教授 黒川 行 治

#### 授業科目の内容：

I. ①会計に関する基礎概念を検討する。

②会計と法、経済との関連にも着目し、会計学の思考範囲の拡張を試みる。

II. テキストにそって、輪読を行う。毎回 1～2 章の予定。

報告者は、担当章の準備のため、予習が必要である。

---

### 管理会計特論（利益管理論Ⅰ）（春学期）

### 管理会計特論（利益管理論Ⅱ）（秋学期）

---

名誉教授 小林 啓 孝

#### 授業科目の内容：

DCF 法によるプロジェクトや企業の評価に当たっては、キャッシュ・フローの予測を行う必要があるが、評価結果の信頼性はキャッシュ・フローの予測の信頼性に依存する部分が多い。統計的手法を適用することにより過去のデータのみに基づいてキャッシュ・フローの予測を行うアプローチには限界がある。本講義では、システム思考に基づいたシステム・ダイナミクス・モデルを適用することによって上記の限界を克服していく道を探っていく。

受講者は、テキストを読んで内容をまとめ、報告をすることが要求される。講義では、報告をベースとしてディスカッションを行うとともにシミュレーション・ソフトウェアの Vensim を使用してモデルを動かす、展開される議論を確認していく。

学ぶべき項目が多岐にわたり、内容が豊富なので「利益管理論Ⅰ」、「利益管理論Ⅱ」を通じてシステム・ダイナミクスの学習を行っていく。

---

### 管理会計特論（ブランド管理会計）（春学期）

---

助教授 園 田 智 昭

#### 授業科目の内容：

ブランドは、企業全体のブランドであるコーポレートブランドと、個別の製品ごとのプロダクトブランドに大別することができるが、企業が競合他社と差別化を行う上で、これらのブランドを効果的に管理してブランドが持つ価値を向上させていくことが重要な意味をもっている。本講義では、管理会計上の観点から問題とされる、持株会社によるブランド使用料および管理料の設定、ブランド管理を実施する組織、非財務的指標を用いた評価、バランススコアカードの利用などの課題について検討する。なお、財務会計的な視点でのブランドの貸借対照表上の評価についても講義の前提として簡単に取り上げる。講義の進め方はレポーター方式で行う。

---

### 管理会計特論（持株会社の管理会計）（秋学期）

---

助教授 園 田 智 昭

#### 授業科目の内容：

近年、持株会社制度を導入して組織を大幅に変更している企業グループが増えている。本講義では、このような持株会社制度の導入に伴うグループ経営について、主に管理会計の視点から、持株会社および傘下の事業会社の業績評価、資源配分、シェアードサービス会社の設置、持株会社の規模と機能などの諸論点について検討する。講義の進め方はレポーター方式で行う。

---

### 管理会計特論（マネジメント・コントロール）（春学期） （秋学期）

---

教 授 横 田 絵 理

#### 授業科目の内容：

マネジメントコントロールは管理会計の1つの大きな柱です。

現在では組織論、人的資源論、組織行動など広い分野との関係からの研究が広がっていることを受け、ここでも広い視野から検討することになります。

まず、理論的な基礎をテキストや論文から学習します。その後具体的な事例を通じた実際の業績評価会計を題材に考えていきます。したがって、授業では、

---

### 会計史特論（会計の機能）（春学期）

---

教 授 友 岡 賛

#### 授業科目の内容：

会計の機能にかかわる理論、主としていわゆる「基礎理論」を吟味する。

会計史、とタイトルされてはいるが、歴史それ自体を対象とするというよりは、いわゆる理論研究にさいして、ときとして歴史的な視座をもちようとするものである。あるいはまた、歴史的な視座などというものはもちいないまでも、すくなくもその問題の歴史的な背景を念頭に置くことによって、理論研究に「厚み」をもたせようとするものである。

形式としては、ひとつの問題について参加者全員がとつおいつする、そんな「ブレインストーミングの場」を提供したい。

---

### 会計史特論（会計の構造）（秋学期）

---

教 授 友 岡 賛

#### 授業科目の内容：

会計の構造にかかわる理論、主としていわゆる「基礎理論」を吟味する。

会計史、とタイトルされてはいるが、歴史それ自体を対象とするというよりは、いわゆる理論研究にさいして、ときとして歴史的な視座をもちようとするものである。あるいはまた、歴史的な視座などというものはもちいないまでも、すくなくもその問題の歴史的な背景を念頭に置くことによって、理論研究に「厚み」をもたせようとするものである。

形式としては、ひとつの問題について参加者全員がとつおいつする、そんな「ブレインストーミングの場」を提供したい。

---

### 会計学演習（金融商品会計・外貨換算会計及び関連分野の理論と実務）（春学期）（秋学期）

---

教 授 伊 藤 眞

#### 授業科目の内容：

修士論文の指導を行う。

毎回、一人から論文の中間報告をしてもらい、参加者で議論し、相互に理解を深める。

財務会計特論と連続して行う予定ですので、登録前に担当教員とコンタクトすること。

---

### 会計学演習（会計研究論文の検討）（春学期）（秋学期）

---

教授 黒川 行 治

#### 授業科目の内容：

- I. 修士論文の指導を中心とする。
- II. 毎回、一人から修士論文の中間報告をしてもらい、全員で議論する。

---

### 会計学演習（春学期）（秋学期）

---

名誉教授 小 林 啓 孝

#### 授業科目の内容：

リアル・オプション、システム・ダイナミクスなどの数量的アプローチの管理会計の適用について研究していく。

---

### 会計学演習（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）

---

教授 友 岡 賛

#### 授業科目の内容：

論文の作成を目的として、研究報告にもとづくディスカッションをおこなう。

---

### 会計学演習（管理会計）（春学期）（秋学期）

---

教授 横 田 絵 理

#### 授業科目の内容：

演習では、受講生の修士論文テーマに沿い、研究課題の発見、基礎・関連研究の文選サーベイと質疑応答を経ながら論文作成を指導する。

---

### 会計学合同演習

---

休 講

## <産業関係論分野>

---

### 労働経済特論（労働市場研究）（秋学期）

---

教授 清 家 篤

#### 授業科目の内容：

この特論では労働市場の個別問題について講義と討論を行う。具体的には、賃金決定、人的資本投資、労働移動、失業などの諸問題についてあつかう。

---

### 産業関係特論（春学期）

---

講師 菊 野 一 雄

#### 授業科目の内容：

近代以降の産業（工業化）社会を、我々は「インダ

ストリアル・ソサエティー」ないし「ビジネス・ソサエティー」と呼び、豊かな生活を約束された素晴らしい社会と思いついてきた。しかし、インダストリーは「勤勉」、ビジネスは「忙しい」（ビジー）であり、「物的豊かさ」を求めて「物の加工」に忙しい時代であった。「忙しい」とは「心を亡ぼす」ことである。事実、我々は物的に豊かになればなる程、心を亡ぼしてきたように思う。だが、それは何故か？何故、物的豊かさを求めて工業を興し、労働の細分化（分業）と機械化を推進すればする程、雇用をめぐる諸関係（産業関係）に様々な副作用（矛盾）が生じてきたのか。商（ビジネス）学研究科において産業（インダストリー）関係論を研究する意義はまさにこの点にある。テキストは諸君と相談して決めたい。

---

### 産業関係特論（秋学期）

---

講師 菊 野 一 雄

#### 授業科目の内容：

「産業関係」（Industrial Relations=IR）という用語は 1910 年頃から英米において使われ始めたが、いまだ研究者の間で共有できる統一的なコンセプトや理論体系を有していない。産業関係（IR）は広義には、「雇用関係から派生する全ての行動、ないし雇用過程に関連する全ての行動」（D. ヨーダー）であるが、ここでは労働市場と雇用管理に焦点をあてて進めて行きたい。

テキストは諸君と相談して決めたい。

---

### 産業社会特論（経済法・国際経済法に関する事例研究）（秋学期集中）

---

法学部 教授 田 村 次 朗

#### 授業科目の内容：

経済法、国際経済法に関する最新の重要な判例及び事件を素材とした研究報告を行う。なお、経済法については、競争法及び競争政策に関する日本、アメリカ及び欧州競争法の事例を取り扱い、国際経済法については、WTO における小委員会、上級委員会報告を取り上げる。授業は、報告者による判例・事例研究報告発表及びそれに引き続く質疑及び討議によって構成される。

---

### 産業社会特論（産業社会学Ⅰ（理論編））（春学期）

---

教授 三 浦 雄 二

#### 授業科目の内容：

産業・経営・労働の社会学的研究の理論的検討を行

なう。社会学の文献を取り上げるが、それは当該領域の問題性に社会的側面が色濃く附着しているからである。そうした問題性を素直に追求していくと、自然に社会学という学問に行き着く。最初の関心はそうしたものでよい。

---

#### 産業社会特論（産業社会学Ⅱ（実態編））（秋学期）

---

教授 三浦 雄二

##### 授業科目の内容：

日本の産業・経営・労働に関する社会学的研究を取り上げ、その成果を検討する。社会学という学問的方法は武器であり、その有効性は、これと接する当人の問題意識ともからんでくる。当該領域の問題性の社会的側面を深めていくことを目的としている。

---

#### 社会保障特論（社会保障論）（春学期）

---

教授 権 文 善 一

##### 授業科目の内容：

論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

---

#### 産業関係論演習（社会保障論）（春学期）

---

教授 権 文 善 一

##### 授業科目の内容：

修士論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

---

#### 産業関係論演習（労働市場研究）（春学期）（秋学期）

---

教授 清 家 篤

##### 授業科目の内容：

労働市場分析の研究指導を行います。この演習で指導する研究範囲は、

- (1) 労働供給、労働需要にかんする理論および実証分析
- (2) 労働市場の調整（失業、雇用調整、雇用情報、雇用のフローなど）にかんする理論および実証分析
- (3) 雇用制度、慣行にかんする経済分析
- (4) 労働市場の構造変化にかんする実証分析などです。ただし履修者の研究興味によっては上にあげた以外の項目についてとりあげることもあります。具体的には、演習参加者の研究報告、およびそれに対する討論を中心に進めていきたいと思っています。

---

#### 産業関係論演習（産業社会学）（春学期）（秋学期）

---

教授 三浦 雄二

##### 授業科目の内容：

産業関係分野における私の演習は、「批判的的社会

学」と「産業社会研究」という私自身の二つの専門研究から組み立てられる。分野としての産業関係は、それ自体としては特定の学問的立場を予定していないが、領域的にはほぼ産業労働問題に相当し、労働者存在を念頭に現代産業社会の構造的仕組みの究明を志す私の産業社会研究と重なり合うところがある。私はこの産業社会研究を社会学の立場から行っている。そこで、演習でも社会学が学問的基盤としての中心になってくるのだが、批判的 sociology というのは社会学における学派的立場であって、たまたま私とその支持者であるところから社会学的思考の錬磨のたたき台として用いられるものであり、演習の参加者までむりやりこれに同調させる積もりは毛頭ない。つづめて言えば、私の演習は産業関係ないし産業社会の在り方に対する社会学の接近一般に関心を持つ人々に益するところがあるろう。

---

#### 産業関係論演習（人的資源管理）（春学期）（秋学期）

---

教授 八代 充 史

##### 授業科目の内容：

修士論文の執筆を行うための必要な指導を行う。

---

#### 産業関係論合同演習（春学期）（秋学期）

---

コーディネーター 教授 清 家 篤

##### 授業科目の内容：

研究科及び学部のスタッフ、学内外の研究者、実務家、並びに大学院生による研究報告と討議を行う。



# 博士課程設置科目

## 商学専攻

### 商業学特殊研究（マーケティング経済学） （春学期）（秋学期）

教授 梶原正勝

#### 授業科目の内容：

- 1) 講義のテーマ  
経済学的接近によるマーケティング研究をめざして、今年はおーストリア派経済学及び新制度派経済学を取り上げる。
- 2) 授業項目の概要  
マーケティング研究にとって無視出来ない制度研究をレビューすべく、オーストリア派経済学及び新制度派経済学の制度研究の主要論文を網羅した下記論文集をテキストにし、レジメ発表、討論形式で輪読する予定である。
- 3) 主に対象とする学生  
経済学の立場からマーケティング現象を理論的に分析することに興味を持つ者。
- 4) 授業の進め方  
討論中心（担当個所を各自全訳し、事前に配布）。

### 商業学特殊研究（流通分析）（秋学期）

名誉教授 清水 猛

#### 授業科目の内容：

本講はマクロ視点から流通問題の解明を目指す諸君を対象として講義、報告、議論を行う。日本の流通分析を具体的な研究素材とするため、多変量解析の知識と実行力が必要であるが、流通分析の具体的内容については、受講生の研究テーマと関心に応じて考慮する。

秋学期に2回のレポートを課す。

### 商業学特殊研究（消費者行動とマーケティングへの実証的アプローチ）（秋学期）

教授 高橋 郁夫

#### 授業科目の内容：

消費者行動およびマーケティングへの実証的方法に関する文献を講読し、議論することを通じて、その意義と限界について考える。あらかじめ、多変量解析に

関する基礎知識を要する。クラスにおける報告に加え、学期末にはまとめとしてのレポート提出が要求される。ただし、人数によっては、個別指導や修士課程の演習との連携によって履修者の学習効果の向上を図る予定である。

### 商業学特殊研究（マーケティング・サイエンス） （春学期）

教授 濱岡 豊

#### 授業科目の内容：

この授業では、マーケティング・サイエンスで開発されてきたモデルについて基本的な文献を行動しつつ、データを用いた演習も行う。本年度は、比較的簡単なモデルでありながら、マーケティング変数の導入、競合する製品の導入、国際比較など様々な局面で発展してきた Bass モデルについての論文集に基づいて授業を進める。

### 商業学特殊研究（マーケティング学説とメタ理論） （春学期）（秋学期）

教授 堀田 一善

#### 授業科目の内容：

本年度は Karl R. Popper 批判的合理主義をめぐる文献を講読し、関連問題を中心に検討する予定である。

受講を予定する者は春・秋両学期を連続して登録しなければならない。

### 商業学特殊研究（マーケティング方法論）（秋学期）

教授 堀越 比呂志

#### 授業科目の内容：

マーケティング研究は、様々な隣接諸学科の影響を受けながら進展してきているのであり、それゆえマーケティング研究に取り入れられた研究方法も多様である。本講では、マーケティング研究の科学化という観点から、これらの様々な方法、アプローチが検討される。

科学方法論、経済学方法論、その他隣接諸学科の方法に関する論文の輪読、報告を中心に研究を進めていく。

---

商業学特殊演習（マーケティング経済学の方法論）  
（春学期）（秋学期）

---

教授 榎原正勝

授業科目の内容：

マーケティング経済学の理論構築をはじめ、科学的知識形成にとって必要とされる方法論的諸問題を専門的に研究する。加えて、受講者の博士論文作成の指導を行なう。なお、授業は、ディスカッションの実り豊かさを考慮し、堀田一善教授担当の「商業学特殊研究及び同演習」と合体して行なう。

---

商業学特殊演習（マーケティングの理論と実証）  
（春学期）（秋学期）

---

教授 高橋郁夫

授業科目の内容：

商業学を専攻する受講者の研究課題に即し、クラスおよび個別の機会を通じて論文作成上の指導を行う。そこでは、あらかじめ多変量解析およびその計算作業に関する基礎知識が必要とされる。また、研究テーマによっては、大学院高度化推進研究プロジェクト等の各種研究プログラムへの積極的な参画を促す。さらに、修士課程の演習との連携によって履修者の学習効果の向上を図ることも計画している。

---

商業学特殊演習（マーケティングにおけるイノベーションとコミュニケーション）（春学期）（秋学期）

---

教授 濱岡豊

授業科目の内容：

イノベーションとコミュニケーションはマーケティングのみならず経営学、経済学などとも関連する重要な問題である。この課題に関心を持つ受講者による報告を中心として研究の指導を行う。少人数の場合、個人指導および他のクラスとの合同での演習も行う。

---

商業学特殊演習（経済諸科学の方法論）  
（春学期）（秋学期）

---

教授 堀田一善

授業科目の内容：

流通現象やマーケティング現象について、専門研究者として科学的説明や発言を心掛けようと試みる人々と共に、方法をめぐる諸問題、科学的説明の論理構造をめぐる諸問題を発表・討論形式で行ないたいと思う。

---

商業学特殊演習（マーケティング・メタ研究とマーケティング研究の理論化）（春学期）（秋学期）

---

教授 堀越比呂志

授業科目の内容：

これまでのマーケティング研究の成果を、その対象、方法、学説という3つの視点から整理し、分析するマーケティング・メタ研究を基礎として、マーケティング研究の理論化を探究する。授業は、このテーマに興味を持つ履修者の論文作成の為の発表と討論が中心となり、修士課程および博士課程合同で、両者の時間帯（4時限、5時限）を連続して行うので、履修申告の際は注意されたい。また、単独の授業とともに、討論の実り豊かさを考慮して、堀田一善教授および榎原正勝教授との合同授業の形態も採用される。詳しいスケジュールは、最初の授業の時に、履修者と相談の上決める予定なので、必ず出席されたい。

---

商業学特殊合同演習（秋学期）

---

コーディネーター 教授 榎原正勝

授業科目の内容：

マーケティング一般を対象とし、履修者各自の「個人研究発表」と「英文文献翻訳発表」を中心に行うが、時々、担当教員やゲストスピーカーの講義を織り混ぜ、バラエティに富んだ合同演習にしたいと考えている。

なお、授業はディスカッションの実り豊かさを考え、修士、博士合体で行う予定である。

---

金融論特殊研究（金融構造論Ⅰ／金融構造論Ⅱ）  
（春学期）（秋学期）

---

教授 赤川元章

授業科目の内容：

経済社会において資金の経済・仲介機能を果たす銀行は、預金と貸付を通じて資金の配分を行い、結果的には、社会的資源の配分に寄与する。また、資金の受入れとその運用の仕方によって各種の金融業務が発生し、これらを制度的に特殊化することによって専門的金融機関が成立する。期間対応の原則に応じた銀行の専門化および証券と銀行の両業務の分離の問題である。

本年度の春・秋セメスターを通しての授業は、伝統的に、すべての金融業務を遂行しているユニバーサル・バンキングシステムに基づくドイツ銀行業の経営について多面的に検討したい。履修者は、両セメスターを継続して参加することが望ましい。授業の形式

は、テキストを用い、輪読によって研究・討論する。

なお、テキストとして、昨年度にひきつづき Thomas Hartmann-Wendels・Andreas Pfingsten・Martin Weber, “Bankbetriebslehre”, Springer, 1998 を用いる予定である。

---

#### 金融論特殊研究（企業金融論）（春学期）（秋学期）

教授 金子 隆

##### 授業科目の内容：

企業金融論を専攻している博士課程の大学院生を対象に、文献の講読と研究発表を行う。受講生は、各自の研究テーマに密接に関連した文献を探してきて内容を紹介します。批判的に検討する。あわせて、現在取り掛かっている論文の進捗状況を定期的に報告する。

---

#### 金融論特殊研究（春学期）

教授 辻 幸民

##### 授業科目の内容：

この授業では、asset pricing（資産の価値評価）に関する専門的な文献を輪読したい。特に今回は mean-variance efficiency と multifactor model との理論的関連およびその実証的な応用可能性について考えたい。テキストとしては、この問題を考察する際の第一歩となるような文献を以下で指定しておくが、実際にはそこであげられている参考文献の論文などを読むことになるであろう。具体的に何を読むかは履修者と相談した上で、この授業の文献リストを作成したい。なお履修者は通年で履修されることが望ましい。

---

#### 金融論特殊研究（秋学期）

教授 辻 幸民

##### 授業科目の内容：

この授業では、asset pricing（資産の価値評価）に関する専門的な文献を輪読したい。特に今回は mean-variance efficiency と multifactor model との理論的関連およびその実証的な応用可能性について考えたい。テキストとしては、この問題を考察する際の第一歩となるような文献を以下で指定しておくが、実際にはそこであげられている参考文献の論文などを読むことになるであろう。具体的に何を読むかは履修者と相談した上で、この授業の文献リストを作成したい。なお履修者は通年で履修されることが望ましい。

---

#### 金融論特殊研究（春学期）（秋学期）

教授 深尾 光洋

##### 授業科目の内容：

受講者の博士論文執筆に必要な文献を指示し、その内容についての報告を行わせる。

---

#### 財政論特殊研究（春学期）

教授 跡田 直澄

##### 授業科目の内容：

歳出に関するテーマの論文を輪読する。

---

#### 財政論特殊研究（秋学期）

教授 跡田 直澄

##### 授業科目の内容：

歳入に関するテーマの論文を輪読する。

---

#### 財政論特殊研究（春学期）

##### Specialized Study on Public Finance (Spring term)

特別研究教授 北村 行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

##### 授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, tax and debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic.

##### Covered topic:

Fiscal and Monetary Policy

Public Debt

Budget

Revenue Forecasting

Cost-benefit analysis

Public goods and bads

Local Public Finance

Finance and Development

International Issues in public finance

---

**財政論特殊研究（秋学期）****Specialized Study on Public Finance (Autumn term)**

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

**授業科目の内容：**

Objective: To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

**Covered Topic:**

A Framework of Taxation

Commodity Taxation

Individual Income Taxation

Corporate Taxation

Capital Income Taxation

Inheritance and Gift Taxation

Tax Compliance and Evasion

Tax Reform

---

**金融論特殊演習（金融経済論）（春学期）（秋学期）**

教授 赤川元章

**授業科目の内容：**

履修者と相談のうえ決定する。

---

**金融論特殊演習（春学期）（秋学期）**

教授 金子 隆

教授 辻 幸民

**授業科目の内容：**

金融・証券に関するテーマに取り組んでいる大学院生と研究者を対象とした金融ワークショップを共同で開催する。履修者には現在手掛けている論文の中間報告をしてもらう。報告すべき段階に至っていない人は、研究テーマに関連した文献の紹介・検討でもよい。教員やゲスト・スピーカーによる報告も適宜取り入れる。

こういう趣旨で行うので、毎週定期的で開催されるとは限らない。初回に履修者と相談して大体のスケジュールを決定する。

---

**財政論特殊演習（春学期）**

教授 跡田直澄

**授業科目の内容：**

歳出に関するテーマについて、実証研究を行なう。

---

**財政論特殊演習（秋学期）**

教授 跡田直澄

**授業科目の内容：**

歳入に関するテーマについて、実証研究を行なう。

---

**財政論特殊演習（応用ミクロ経済学）****（春学期）（秋学期）**

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍谷雅敏

**授業科目の内容：**

本特殊演習では、財政金融制度等の公共政策のあり方や、その基盤として考慮すべき経済社会環境の変化をテーマとし、ミクロ経済学のロジックを応用しつつ研究に取り組む大学院生に対する指導を行う。

演習の運営方式及びスケジュールは、履修者の研究計画に則して決める。

---

**金融論特殊合同演習（春学期）**

コーディネーター 教授 深尾光洋

**授業科目の内容：**

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題になっており、これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば、一切問わない。

成績評価は、発表者は発表内容、発表者でないものは学期末のレポートによる。

---

**金融論特殊合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）**

コーディネーター 教授 深尾光洋

**授業科目の内容：**

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題になっており、これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾

内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば、一切問わない。

成績評価は、発表者は発表内容、発表者でないものは学期末のレポートによる。

---

#### リスク・保険論特殊研究（Ⅰ）（春学期）

---

教授 堀田 一 吉

##### 授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究の中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることにした。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

---

#### リスク・保険論特殊研究（Ⅱ）（秋学期）

---

教授 堀田 一 吉

##### 授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究の中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることにした。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

---

#### リスク・保険論特殊演習

---

休 講

---

#### リスク・保険論特殊合同演習

---

休 講

---

#### 交通・公共政策特殊研究（市場規制論）（秋学期）

---

教授 中 条 潮

##### 授業科目の内容：

履修者と相談の上決定する。

---

#### 交通・公共政策特殊演習（規制の経済学・交通経済学）（春学期）

---

教授 中 条 潮

##### 授業科目の内容：

受講生と相談の上、決定する。

---

#### 産業組織論特殊研究（春学期）

---

教授 井 手 秀 樹

##### 授業科目の内容：

産業組織に関する内外の適切な論文を輪読し、議論する。

---

#### 産業組織論特殊研究（中小・ベンチャー企業と産業組織）（春学期）

---

教授 高 橋 美 樹

##### 授業科目の内容：

産業組織論と中小・ベンチャー企業論との接点にあたる分野の文献を輪読し、議論する。具体的な文献は以下のような候補の中から、履修者の研究テーマ等に当たって、適宜、取捨選択する。

中小企業総合研究機構『日本の中小企業研究 1990－1999』同友館 2003

中小企業事業団中小企業研究所編『日本の中小企業研究：1980－1989』同友館 1992

中小企業事業団中小企業研究所編『日本の中小企業研究』有斐閣 1985

Zoltan J. Acs and David B. Audretsch (ed.)  
*Handbook of entrepreneurship research*,  
Boston: Kluwer Academic, 2003

(注)履修予定者は、申告前に、必ず授業担当者と、メールにてコンタクトをとること(メール・アドレス: [takamiki@fbc.keio.ac.jp](mailto:takamiki@fbc.keio.ac.jp))。

---

#### 産業組織論特殊演習（秋学期）

---

教授 高 橋 美 樹

##### 授業科目の内容：

博士論文執筆を進めている学生による報告と授業参加者を交えた討議を中心に授業を進める。

なお、できるかぎり授業外でも研究発表の機会を設け、研究の進展に役立ててもらおう予定である。

(注)履修予定者は、申告前に、必ず授業担当者と、  
メールにてコンタクトをとること(メール・アドレ  
ス: takamiki@fbc.keio.ac.jp)。

---

#### 交通・公共政策・産業組織論特殊合同演習(春学期)

コーディネーター 教授 井手 秀 樹

##### 授業科目の内容:

運輸、エネルギー等ネットワーク産業の競争政策の  
あり方について議論する。

---

#### 計量経済学特殊研究(経済指数論)(秋学期)

教授 桜本 光

##### 授業科目の内容:

経済指数理論をめぐる最近の理論的成果を展望し、  
応用例として主な官庁の経済統計の価格指数(C.P.I.  
等)あるいは数量指数(I.I.P.等)の作成方法及びそ  
の特性(作成目的、作成方法、採用品目等)を講義  
し、集計理論の応用として、小分類あるいは中分類の  
レベルから大分類への集計を様々な集計方法による差  
を比較検討する演習を受講者にもしてもらおう予定であ  
る。

- I. 概説
- II. 指数理論の系譜
- III. 指数理論の基礎と応用
- IV. 現代指数理論の展望
- V. 指数理論の応用
  - 5.1 卸売物価指数(W.P.I.)(日本銀行)
  - 5.2 消費者物価指数(C.P.I.)(総務省)
  - 5.3 鉱工業生産指数(I.I.P.)(経済産業省)
  - 5.4 景気動向指数(DI, CI)(内閣府)等
- VI. 経済指数と今後の課題

---

#### 計量経済学特殊研究(春学期)

教授 牧 厚 志

##### 授業科目の内容:

消費者行動の基礎理論を研究します。

---

#### 計量経済学特殊演習(実証経済分析)

(春学期)(秋学期)

教授 黒田 昌 裕

##### 授業科目の内容:

修士の「計量経済学演習」と合同にて、一般均衡数  
量モデルの構築について、実証的事例を踏まえて議論  
していく。

---

#### 計量経済学特殊演習(生産関数論・消費関数論)

(春学期)(秋学期)

教授 桜本 光

##### 授業科目の内容:

受講者による研究発表を予定している。

---

#### 計量経済学特殊演習(市場の質に関する理論形成と実証

分析)(経商連携 COE 科目)(春学期)(秋学期)

教授 中島 隆 信

教授 樋口 美 雄

##### 授業科目の内容:

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する  
研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外  
の最先端の分析について、研究していく。

---

#### 計量経済学特殊合同演習(経済関連分野における数量分 析の手法と課題)(春学期)(秋学期)

コーディネーター 教授 早見 均

##### 授業科目の内容:

この演習では主に計量経済学の応用分野での研究報  
告をおこない、実証分析の手法・政策的課題について  
議論する。商学部・経済学部と産業研究所に在籍し経  
済分野の実証研究を中心におこなっているスタッフも  
参加する。

昨年の報告例では、最近改定された国民経済計算の  
新しい体系 93SNA について旧体系との相違点、昨年  
発表された 2000 年産業連関表との概念の違いについ  
て 5 回ほどスタッフが解説・議論を行った。その  
後、受講者による研究報告や研究員による報告、ある  
いは他大学の研究者による報告も 2 回ほど行われ  
た。扱われたおもなテーマとしては産業連関分析一  
般、ミクロデータをもちいた労働供給分析、資金循環  
分析、環境問題の経済分析である。ただし、独占禁止  
法にかかわる最近の話題、医薬品産業の雇用や寺など  
NPO の産業組織、カナダの労働市場分析など多彩で  
あった。

今年度もできるかぎり広い分野からの報告を募り、  
研究活動の最前線を体験できる演習の時間としたいと  
考えている。春学期・秋学期ともに最初の講義の時間  
にだいたい報告予定を決めることにしている。はじ  
めの数回はスタッフによる研究報告をおこなうので見  
学するだけでなく、なるべく発言するつもりで参加  
して欲しい。計量経済学合同演習と併設科目。

---

### 計量経済学特殊合同演習（春学期）

---

コーディネーター 教授 樋口 美 雄  
教授 中 島 隆 信

#### 授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題となっており，これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば，一切問わない。

---

### 計量経済学特殊合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

---

コーディネーター 教授 樋口 美 雄  
教授 中 島 隆 信

#### 授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題となっており，これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば，一切問わない。

---

### 統計学特殊研究（統計的手法の最近の話題）（春学期）

---

教授 早 見 均

#### 授業科目の内容：

研究を進めていくうえで必要になる統計的手法は基本は変わらないものの時代とともに変化している。しかも各自の研究テーマに即してベストの統計的手法を利用することがのぞましい。この講義では受講生の研究対象に応じて必要となる統計学の最近の話題をピックアップして検討していきたい。

これまでに扱った文献テキストは B.L.S. Prakasa Rao [1999] *Statistical inference for diffusion type process*, *Kendall's Library of Statistics 8*, Arnold, H. Goldstein [1995] *Multilevel statistical models*, *Kendall's Library of Statistics 3*, Arnold, G. Grimmett and D. Stirzaker [2001] *Probability and random processes*, 3<sup>rd</sup> ed., Oxford University Press, D. Williams [2001] *Weighing the Odds*, Cambridge University Press である。

最初の講義でいくつかの参考文献を持参しながら，どのように講義を進めて行くかを定めることにする。修士課程設置の数理統計学特論と併設である。

---

### 統計学特殊演習

---

休 講

---

### 国際経済学特殊研究（中国の社会主義市場経済Ⅰ）（春学期）

---

教授 唐 木 園 和

#### 授業科目の内容：

中国の「社会主義市場経済」に進められている所有制改革に着目し，これが中国社会主義体制に対し，どのような影響を及ぼすかについて考察する。

---

### 国際経済学特殊研究（中国の社会主義市場経済Ⅱ）（秋学期）

---

教授 唐 木 園 和

#### 授業科目の内容：

春学期の授業内容を前提とした上で，財産権の公認が，民間企業に与える影響について考察する。

---

### 国際経済学特殊研究（国際経済政策）（秋学期）

---

教授 和 気 洋 子

#### 授業科目の内容：

1. 現代社会において，財・サービスの国際貿易の拡大と金融・資本市場の国際化の進展，そして企業経営の一層のグローバル化を通じて，各国間の国際的な相互依存関係はこれまで以上に高まっている。こうしたなかでわれわれの眼前には，各国経済間のボーダー分析，経済政策運営，ビジネスの競争と協調のロジック，そして地球環境問題など多くのグローバルイシューが，問われるべき課題として次から次へと現れている。本講は，これらの今日的な問題意識を基礎にして，とくに「貿易・直接投資・地球環境問題」をめぐる論点をさまざまな視点から整理し，いわば新しい国際経済政策論の枠組みのなかでより自由で活発な議論が行われることが目的である。
2. 授業内容および方法については，受講者の専門レベルなどに応じて，具体的に決めるつもりであるが，とくに地球環境問題に関連する資料など，とりあえず議論をすすめる上で必要と思われる基礎的な参考資料・文献については，その都度，講義のなかで紹介する予定である。

これに並行して、受講者による自主的な論文解題を積極的に取り入れて行きたいと考えている。

---

#### 国際経済学特殊演習（春学期）

---

教授 唐木 圀 和

##### 授業科目の内容：

国際経済学ないし中国経済に関心をもつ受講者の博士論文執筆に必要な文献を指示し、その内容についての報告を行なわせ、かつ論文作成を指導する。

---

#### 国際経済学特殊演習（秋学期）

---

教授 唐木 圀 和

##### 授業科目の内容：

博士論文作成に関する必要文献を指示しその報告、また、論文構成の報告を受け、論文作成を指導する。

---

#### 国際経済学特殊合同演習（春学期）

---

コーディネーター 教授 和気 洋子

##### 授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

---

#### 国際経済学特殊合同演習（経商連携COE科目）（秋学期）

---

コーディネーター 教授 和気 洋子

##### 授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

---

#### 産業史・経営史特殊研究（技術教育史）（春学期）

---

教授 吉田 正 樹

##### 授業科目の内容：

本年度もひき続いて西洋技術の移転をとりあげ移転の受皿となるべき人材形成という視点から技術教育の

歴史を考察していきたい。具体的な対象は日本の明治期におこなわれた西洋技術の導入に置き、それまで皆無であった近代技術の修得者をいかに確保し、そして育成していったかに焦点を絞っていくことになる。教育する者、教育を受ける者の出自、動機を考察し、さらに教育の制度化をはかった政府の役割も検討の対象となる。

受講者は工学、医学、農学、薬学などから一分野を選びその教育制度の確立過程をレポートしてもらうことになる。

---

#### 産業史・経営史特殊演習（産業史関連博士論文作成指導）（春学期）（秋学期）

---

教授 工藤 教 和

##### 授業科目の内容：

博士論文作成に向けての個人指導と、履修者と相談して選んだ関連文献の批判的な検討を行なう。分野は18世紀以降の産業史・経済史が中心となる。

---

#### 産業史・経営史特殊合同演習

---

休 講

## 経営学・会計学専攻

---

#### 経営学特殊研究（組織のマネジメント）（秋学期）

---

教授 今口 忠 政

##### 授業科目の内容：

現代の企業は事業の選択と集中を通して、事業の再構築を進めると同時に、新たな事業の創造に向けて、イノベティブな取り組みを増大させている。

講義では、このような事業再編の動向とイノベーションについて、関連する書物や論文を輪読しながら、討議を通じて理解を深めるような授業にしたい。

修士の講義の後を受けて、関連する文献、資料を輪読する。

---

#### 経営学特殊研究（企業環境の変化と組織原理の転換）（春学期）

---

名誉教授 植竹 晃 久

##### 授業科目の内容：

今日の企業環境の変化にともなって生じてきている企業経営上の課題に関わる内外の基本文献や論文を取り上げ、討論形式で検討していく。



---

### 経営学特殊研究（企業評価）（春学期）

---

教授 岡本大輔

#### 授業科目の内容：

近年、脳の働きをコンピュータ上で実現するニューラルネットワークの研究がマネジメントの世界でも注目され始めている。企業評価の分野でもさまざまな研究が進められている。本講義では企業評価におけるニューラルネットワークの適用問題を検討する。授業は関連文献の輪読を予定している。

---

### 経営学特殊研究（現代科学理論と経営経済学）（秋学期）

---

教授 榊原研互

#### 授業科目の内容：

経営学の方法論的諸問題について考察する。詳細については初回の授業で説明する。

---

### 経営学特殊研究（企業戦略と戦略的提携）（春学期）

---

教授 十川廣國

#### 授業科目の内容：

技術革新・グローバル化の進展によって、一段と競争が激しくなっている。企業の競争力構築のためには、自社内における技術開発にとどまらず、他社から新たな技術を学習し、取り込むという戦略的提携という行動も必要とされる。

そこで、本年度は、戦略的提携の誘因・目的、戦略的提携と組織間学習の問題などを中心に議論を進めていくことにしたい。議論のための材料としてここ数年に発表された **Strategic Management Journal** に掲載された論文、および実証データを使用する。

---

### 経営学特殊研究（新制度派経済学の系譜）（春学期）

---

教授 渡部直樹

#### 授業科目の内容：

当授業では、組織に対する経済学的分析の中心になっている新制度派経済学において、企業の進化や補完性という概念がいかなる役割を占めているかを検討する。特に Nelson や Winter による **Evolutionary Economics** や Langlois 等の **Capability** 論、ならびに Milgrom and Roberts 等のスーパーモジュラーゲームの進展がいかなる影響を与えているかを解明する。

授業の進め方は、授業の参加者による報告と討論が中心になる。成績評価もこの点を勘案して行いたい。

---

### 経営学特殊演習（組織のマネジメント）（春学期）（秋学期）

---

教授 今口忠政

#### 授業科目の内容：

演習科目であるので、組織のマネジメントを中心にしながら、博士論文のテーマと関係させて関連する論文の輪読、発表、調査・分析を混ぜ合わせた授業を行う。

最終的に博士論文を完成させるために必要とされる理論枠組みの研究、実証研究を行う。

---

### 経営学特殊演習（春学期）（秋学期）

---

教授 岡本大輔

#### 授業科目の内容：

本演習では参加者の論文作成のための発表と討論を行なう。具体的な指導方法については参加者と相談のうえ、決定する予定である。

---

### 経営学特殊演習（春学期）（秋学期）

---

教授 榊原研互

#### 授業科目の内容：

経営学の方法論的諸問題について輪読、討論を行う。詳細については履修者との相談の上決定する。

---

### 経営学特殊演習（経営戦略と組織（Ⅱ））（春学期）（秋学期）

---

教授 十川廣國

#### 授業科目の内容：

基本的には、論文作成の個別指導を行うことが主たる目的であるが、同時にこの演習を利用して「成熟企業の再活性化」問題についての実証研究の継続的分析とその深化、さらに国際比較を目的とした実証研究を進めていく予定である。

---

### 経営学特殊演習（新制度派経済学の基礎）（春学期）

---

教授 渡部直樹

#### 授業科目の内容：

当授業では、新制度派経済学の基礎概念について、吟味を加えたい。特にこのアプローチにおける限られた合理性(**Bounded Rationality**)の概念の役割に焦点を当ててみる。

授業は各自の報告と全員での討論が中心になる。成績評価もこれに関してなされる。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

---

**経営学特殊演習（新制度派経済学の基礎）（秋学期）**

---

教授 渡部 直樹

**授業科目の内容：**

当授業では、新制度派経済学の基礎概念について、吟味を加えたい。特にこのアプローチにおける制度概念について焦点を当ててみる。制度とはなにか、組織と市場は対立するような概念なのか、といった点を中心に討論を加えてみたい。

授業は演習形式のため、各人の報告が中心になる。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

---

**経営学特殊合同演習（秋学期）**

---

コーディネーター 教授 十川 廣國  
教授 渡部 直樹

**授業科目の内容：**

この演習は、基本的には、博士課程在籍者の論文作成指導をより適切なものにするためのものであり、個々の指導教授のみならず、多くの教員も参加して合同で論文発表の討論に参加する形式をとる。また、ここでは、学生の論文発表のみならず、教員、時には外部からの講師も参加して、それぞれの研究成果を報告し、学生とともに討論を行う機会を提供するものである。

なお単位付与は、平常の討論状況や論文発表による。

---

**会計学特殊研究（外貨換算会計論）（春学期）**

---

教授 伊藤 眞

**授業科目の内容：**

下記テキストについて、輪読形式により、担当者はレジメを作成し報告するとともに、これに基づいて参加者は議論し、下記事項につき理解を深める。

外貨建取引の換算、外貨表示財務諸表の換算、通貨換算デリバティブの会計処理、ヘッジ会計

登録前に担当教員とコンタクトすること。

---

**会計学特殊研究（金融商品会計論）（秋学期）**

---

教授 伊藤 眞

**授業科目の内容：**

IAS39 “Financial instruments: Recognition and Measurement” revised in 2004 及び金融商品会計に関する論文について、輪読形式により、担当者はレジメを作成し報告するとともに、これに基づいて参加者は議論し、下記事項につき理解を深める。

金融商品会計の論点、金融商品のキャッシュフロー及びリスク、時価概念

金融資産・負債の時価評価方法、認識及び認識の中止、事後測定、開示、ヘッジ会計

登録前に担当教員とコンタクトすること。

---

**会計学特殊研究（会計理論）（春学期）（秋学期）**

---

名誉教授 笠井 昭次

**授業科目の内容：**

本年度は、実現概念について検討する。

財務会計論の専門的知識を一通り具えている学生を対象にして、輪読を行なう予定である。

---

**会計学特殊研究（会計思考の拡張）**

（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行治

**授業科目の内容：**

I. ①会計に関する基礎概念を検討する。

②会計と法、経済との関連にも着目し、会計学の思考範囲の拡張を試みる。

II. テキストにそって、輪読を行う。毎回1～2章の予定。

報告者は、担当章の準備のため、予習が必要である。

---

**会計学特殊研究**

（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）

（春学期）（秋学期）

教授 友岡 賛

**授業科目の内容：**

会計ないし監査にかかわる基本的な論点について参加者全員でもってとつおいつきたい。

---

**会計学特殊研究（管理会計）（春学期）（秋学期）**

---

教授 横田 絵理

**授業科目の内容：**

マネジメント・コントロールに焦点をあて、理論的、実証的な研究を行う。

基本的なテキスト・論文の精読を通じ、理論的基盤を形成する。また、事例から、マネジメントコントロールの実証的意義を検討する。

会計学特殊演習（金融商品会計・外貨換算会計及び関連分野）（春学期）（秋学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

博士論文の指導を行う。

毎回、一人から論文の中間報告をしてもらい、参加者で議論し、相互に理解を深める。登録前に担当教員とコンタクトすること。

会計学特殊演習（春学期）（秋学期）

名誉教授 笠井 昭次

授業科目の内容：

本年度は、主として、時価評価に関する学説研究を行なう予定である。

会計学特殊演習（非営利組織体の会計）

（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行治

授業科目の内容：

- I. ①非営利会計に関する基礎概念を検討する。  
②非営利組織体の業績評価手法について検討する。
- II. テキストにそって、輪読を行う。毎回1～2章の予定。  
報告者は、担当章の準備のため、予習が必要である。

会計学特殊演習

（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）

（春学期）（秋学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

論文の作成を目的として、研究報告にもとづくディスカッションをおこなう。

会計学特殊演習（管理会計）（春学期）（秋学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

博士論文に向けた指導を基本とする。各学生の研究上の関心、これまでの研究成果の理論的意義を再確認しながら、理論研究、実証研究、分析などの報告とそれに基づいた議論を行う。

参考書：

授業内に提示します。

会計学特殊合同演習

休講

産業関係論特殊研究（社会保障論）（春学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

博士論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論特殊研究（産業社会研究Ⅰ（理論編））

（春学期）

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

「産業社会特論」（産業社会学Ⅰ（理論編））の延長線上に置かれる。理論的考察を行なうが、受講生が当該領域にそれなりに踏み込んでいることを前提としている。

産業関係論特殊研究（産業社会研究Ⅱ（実態編））

（秋学期）

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

「産業社会特論」（産業社会学Ⅱ（実態編））の延長線上に置かれる。受講生は、ある程度、当該領域についての具体的テーマを持っていることが望まれる。

産業関係論特殊研究（人的資源管理）

（春学期）（秋学期）

教授 八代 充史

授業科目の内容：

詳細は、履修希望者と相談の上決定する。

産業関係論特殊演習（社会保障論）（春学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 清家 篤

授業科目の内容：

労働市場分析の論文指導を行います。具体的には研究報告およびそれに対する討論のかたちで授業を進めます。

---

産業関係論特殊演習（産業社会学）（春学期）（秋学期）

---

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

「産業関係論演習」（産業社会学）の延長線上に置かれる。既にある程度まで専門化していることを前提に進める。可能な限り、そうした専門的関心が延びていけるよう対応したい。

---

産業関係論特殊演習（人的資源管理）

（春学期）（秋学期）

---

教授 八代 充史

授業科目の内容：

博士論文を執筆するために必要な指導を行う。

---

産業関係論特殊合同演習（春学期）（秋学期）

---

コーディネーター 教授 清家 篤

授業科目の内容：

研究科及び学部のスタッフ、学内外の研究者、実務家、並びに大学院生による研究報告と討議を行う。

## 慶應義塾大学 在外研修プログラム

慶應義塾大学では、全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季休業中に海外で在外研修プログラム「慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」「慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を開講します。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、現地研修には本学の教職員が同行します。

また、現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、環境をめぐるテーマを扱い、講義やディスカッションだけでなく豊かな自然環境を活かした体験学習旅行を含むワシントン大学でのプログラムを今年度から開設します。

このほか、春季休業期間中には、パリ政治学院の講師陣による EU に関する講義のほか、フランス語会話のクラスや EU の諸機関の訪問も含む「パリ政治学院春季講座」についても引き続き実施することを計画しています。

これら 2 つのプログラムについては国際センターのホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(月) 三田 528 教室 13:00~14:30  
4月5日(火) 藤沢 12 教室 15:45~17:15  
4月6日(水) 矢上 14-201 教室 13:00~14:30  
4月6日(水) 日吉 J11 教室 17:00~18:30

慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

原 田 隆 史 文学部助教授

柏 崎 千佳子 経済学部助教授

授業科目の内容:

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は 1693 年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

単位数:

4 単位

本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書:

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画:

現地研修期間: 2005 年 7 月 29 日(金)~8 月 16 日(火)(予定)

4 月下旬より事前研修(6 回程度)、また、帰国後には事後研修(2 回程度)を行います。

研修内容: ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて:

(1) 募集人数: 40 名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象: 全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類: 参加申込書(所定用紙)、学習計画書(日本語及び英語。各 A4 一枚程度)、最新の学業成績表のコピー(3 月中旬に保証人宛に送付されるもの)、英語能力証明書のコピー(TOEFL、TOEIC、各種英語検定など)、RESEARCH PROPOSAL(所定用紙)書類選考後、グループ分けの時に利用します。

(4) 募集期間: 4 月 7 日(木)~4 月 14 日(木) 各地区国際センター(窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木)13:00(予定)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席，中間発表，現地研修期間中の活動，Final Presentation，日本帰国後の Final Report により採点します。

慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

中野 誠彦 理工学部助教授

スネル，ウィリアム 文学部助教授

授業科目の内容：

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導に当たります。講座期間中は，専門分野の知識を深めるだけでなく，ダウニングコレッジ内での寮生活や，ケンブリッジ大生が企画する諸活動に積極的に参加することで，幅広い異文化交流を体験することができます。

単位数：

4単位

本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を，国際センター作成の募集要項に記載しています。また，事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間： 2005年8月8日(月)～9月7日(水)

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程： 第1週：

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：

Ancient Greece and Western Civilization, Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：

English Literature, The Science of Chaos

第4週：

Society and Politics in Contemporary Britain, Astronomy: Unveiling the Universe

9月6日(火) Closing ceremony

第2週から第4週までは，各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択，合計3科目を選択履修。

各科目とも定員が30名のため，事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容： ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答(午前)

ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後) エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類： 参加申込書(所定用紙)，学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)，最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)，英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)，履修希望科目申告表(所定用紙)

(4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木)13:00(予定)

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生
2. 単位 各科目 2 単位  
(なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

### 3. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

## 国際研究講座 ( INTERNATIONAL STUDIES )

---

オーストラリアのビジュアルアート

( 春学期 )( Spring )

AUSTRALIAN VISUAL ARTISTS: AN INTRODUCTORY COURSE

ニコルズ , クリスティーン 国際センター講師 ( 東京大学客員教授 )

Christine Nicholls

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

---

### **Course Description:**

In this topic Dr Nicholls will introduce students to a selection of (mainly) contemporary Australian visual artists, and their work. Approximately half of the artists whose work will be discussed in the course will be Aboriginal. This will necessitate an introduction to the religious basis and underlying philosophy of Indigenous artistic production. In addition to powerpoint presentations introducing the class to the work of individual artists, the class will view and then discuss a number of films showing the artists' approach to their work. The course will also introduce cultural theory required for understanding contemporary art: postmodernism; cultural hybridity; simulacra; theories of "the gaze"; "the spectacle" and Judith Butler's ideas about gender and performativity

### **Text Books:**

Nicholls, Christine, 2003, Art, Land, Story, Working Title Press, Adelaide, Australia, ISBN 1 876288 41 8 , price \$13.00 Australian (about 1200 yen) and Nicholls, Christine, 2003, Art, History, Place, Working Title Press, Adelaide, ISBN 1876288434 Australian price \$13.00 Australian (about 1200 yen)

Note that I will also be using handouts, so that students can avoid buying more expensive books. Text materials can be downloaded from the following Website <http://seekbooks.com.au>

### **Reference Books:**

Andrew Sayers, Publisher: Oxford University Press, ISBN: 0192842145

Format: Paperback AUD\$39.95

### **Grading Methods:**

Reports, and some oral presentation in class. Attendance, Participasion will also be taken into consideration.

### **Questions, Requests:**

The two text books can be purchased on <http://www.seekbnooks.com.au> at a very reasonable rate (less than \$12.00 Australian dollars)

---

異文化と自己理解

( 春学期 )( Spring )

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

シヨールズ , ジョセフ 国際センター講師 ( 立教大学助教授 )

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

### **Sub Title:**

Looking for the hidden roots of cultural difference

### **Course Description:**

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

### **Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

### **Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill



**Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

**Message to those taking this Course:**

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

**Grading:**

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

---

東南アジア世界の諸相

( 春学期 X Spring )

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

---

**Sub Title:**

Understanding Contemporary & Historical Aspects

**Course Description:**

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

**Text Books:**

None. Handouts will be given from time to time.

**Reference Books:**

Several books will be suggested during the class.

**Class Schedule per week:**

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

**Message to those taking this Course:**

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

**Grading Methods:**

In class Exams, Attendance, Participation

**Questions, Requests:**

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

現代中国の国家と社会

( 春学期 X Spring )

STATE AND SOCIETY IN CONTEMPORARY CHINA

ワンク , デイビッド

国際センター講師 ( 上智大学教授 )

David L. Wank

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

**Course Description:****Overview**

This course assumes no prior knowledge about contemporary China, or about communist social and political organization. It is designed to provide a historical and thematic overview of post-1949 authority relations and patterns of politics in China. The first half of the course looks at the distinguishing features of state and society, such as central economic planning and one-party rule, that took shape during the first decade of the People's Republic in the 1950s. The second half of the course looks at the ensuing patterns of politics and conflict and how they have evolved over time. The course readings include original documents, autobiographies, and writings by sociologists, as well as political scientists and anthropologists.

**Organization**

Each class meeting will consist of a lecture. The lectures are a historical narrative of economy, society, and politics from 1949 to present. They are coordinated with the readings, which illustrate specific themes mentioned in the lectures. In addition we will see one Chinese movie.

**Text Books:****Readings**

All readings listed in the course outline are required of all students. All readings are available online except for the following three books which are available for purchase.

GAO Yuan. *Born Red: A Chronicle of the Cultural Revolution*. Stanford University Press, 1987.

Shu-min HUANG. *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*. Westview Press, 1998 (second edition),

Andrew G. WALDER. *Communist Neo-Traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*. University of California Press, 1986,

**Class Schedule per week:****INTRODUCTION****Unit 1**

Lecture on the "state and society" concept in political sociology

Reading on models of state and society for China

Wank, "State and Society in American Studies of Contemporary China"

**HISTORICAL BACKGROUND****Unit 2**

Lecture on historical background

Reading on the origins of the party-state

Mao, "The Role of the Chinese Communist Party in the National War"

**Unit 3**

Lecture on communism in China and the Chinese Communist Party, 1917-1949

Reading on defining features of the party-state

Huang, *The Spiral Road*, chps. 1-5

Movie: To Live (directed by Zhang Yimou)

THE NEW ORDER, 1949-1957

#### Unit 4:

Lecture on stabilization immediately after the revolution, 1949–1953,

Readings on the party as an organization and status group

Vogel. “From Revolutionary to Semi-bureaucrat”

P. Link (ed.). “What if I Really Where?”, “A Bundle of Letters”, and “The Tyrant Bids Farewell to His Mistress”

Liu, “People or Monsters”

#### Unit 5

Lecture on building a centrally planned economy

Readings on the “corporateness” of social institutions

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, chps. 2,4,8,9,12.

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps 1-3.

#### Unit 6

Lecture on the bureaucratic administration of state and society

Readings on social inequality

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, ch. 3

Unger. “The Class System in Rural China”

#### DEEPENING THE REVOLUTION, 1958–1976

#### Unit 7

Lecture on the Great Leap Forward, 1958–1960

Readings on careers and social mobility;

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, ch. 4

Shirk. *Competitive Comrades*, pp. 63-178.

#### Unit 8

Lecture on economic retrenchment and competition within the elite, 1961–1965

Readings on the personalization of authority

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 5, 8

Oi. “Comunism and Clientelism: Rural Politics in China”

#### Unit 9:

Lecture on the Cultural Revolution

Readings on the conflict and instability in the polity

Gao. *Born Red*, entire

#### CHINESE SOCIALIST MODERNIZATION, 1979–

#### Unit 10

Lecture on the interregnum and further elite conflict, 1974–1979

Readings on the commercialization of power

Huang. *The Spiral Road*, chps. 6-12

Oi. “Market Reform and Corruption in Rural China”

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 6-7

Shirk. “The Decline of Virtuocracy in China”

#### Unit 11

Lecture on marketization and new patterns of conflict, 1979–1989

Readings on the Democracy Movement

Han. *Cries for Democracy: Writings and Speeches from the 1989 Chinese Democracy Movement*. pp. 5-16, 28-33, 36-44, 50-57, 59-62, 72-81, 83-91, 97-111, 118-126, 134-187, 197-208, 217, 221, 231-241, 246-251, 255-280, 285-295, 299-318, 335-349, 355-367

Saich. *The Chinese People's Movement: Perspective on Spring*, 1989, pp. 25-49, 83-163.

#### Unit 12

Lecture on the deepening of marketization and new conflicts

Readings on new social movement  
Mallee, "Migration, Hukou, and Resistance in Reform China"  
Zweig. The Externalities of Development"

### **Grading Methods:**

A. Short writing assignment (15 percent of final grade)

There will be a short writing assignment based on the movie. It will be graded Excellent, Satisfactory, Poor. If you miss the movie you will be asked to finish readings the Spiral Road and write a 1,000 word review of by the following class.

B. In-class exams (45 percent of final grade)

There will be two in-class exams of short identification and/or multiple choice answers based on the lectures. They will be graded on the regular A-F scale.

C. Final writing assignment (40 percent of final grade).

This will be graded on an A-F scale. As this assignment is considered a take-home final, failure to hand it results in an "F" grade for the entire course regardless of your grades on the other course assignments).

D. Attendance is expected of all students enrolled in course. Attendance will be taken.

---

グローバルヴィレッジ構築に向けて：日本とサブ サハラ アフリカ地域 ( 春学期 X Spring )  
BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

高橋良子	環境情報学部教授
Yoshiko Takahashi	Professor, Faculty of Environmental Information
フリードマン デビッド	環境情報学部教授
David Freedman	Professor, Faculty of Environmental Information

---

### **Sub Title:**

Perspectives on Japanese Policy in Sub-Saharan Africa

### **Syllabus:**

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to be combined in order to offer a fuller world view.

This course will focus on geo-political areas that stand outside the "global economy" (at this point) and issues that such areas face as they plan to integrate their economies and cultures into the "global village."

As the countries of Sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) a major part of its international policy. Last year, for example, at the third TICAD (Tokyo International Conference on African Development), Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged US\$1 billion for education and health care in Africa, which made Japan as one of the largest aid donors to Africa. Yet despite these official policies, Japanese trade with some Sub-Saharan countries has actually dropped, and the Japanese public remains distantly aware of Sub-Saharan Africa and the forces that have shaped its present situation and the role of the Japanese government in Sub-Saharan countries.

This course will help deepen students' understanding of the contemporary Sub-Saharan African nations and their socio-political and cultural issues which affect global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the African Union (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

### **Texts (tentative recommendations):**

- 1) <http://web.africa.ufl.edu/asq/v5/v5i2a4.htm> (African Studies Quarterly Japan-Emerging Trends in Japan-Africa Relations: An African Perspective)
- 2) Dynamics of Japan's Relations with Africa: South Africa, Tanzania and Nigeria By: Ampiah, Kweku Published By: Routledge

### **Tentative Course Schedule (this schedule is subject to change due to the availability of various Ambassadors and embassy officials.):**

Class 1 Introduction and Organization: A short discussion of Japan's involvement in Sub-Saharan Africa and the organization of student research group based on country.

- Class 2 A Short History of Africa: Overview lecture on African histories
- Class 3 Sub-Saharan Africa and Japan: Overview lecture by an official of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
- Class 4 Sub-Saharan African Aid and the Bretton Woods System: An examination of early aid projects to the newly independent African states and constraints by the prevailing economic theories of the Bretton Woods system; NEPAD's responses to some of the issues arisen from this system
- Class 5 "Mediated" Africa: The effect of the "classic" media images of African societies on policy, perceptions and tourism  
\*Ambassador of Kenya  
\*Ambassador of Tanzania
- Class 6 The African Response to AIDS: An examination of policies adopted to address the social and economic issues of AIDS pandemic.  
\*Ambassador of Uganda  
\*Ambassador of Zambia
- Class 7 Mid-term Review: Discussion of the students' ideas for their individual final papers, and work with their research group on their presentation.
- Class 8 African Issues and Solutions: An examination of the some of the issues of the post-colonial legacy  
\*H.E. Dr. B. Nugbane, Ambassador of the Republic of South Africa  
\*Ambassador of the Republic of Zimbabwe
- Class 9 Models of Development for Micro-Economies: Policy options pursued by smaller African nations with non-integrated economies  
\*Ambassador of Botsawana  
\*Ambassador of Malawi
- Class 10 African Policy and Japanese Scholarship : An intermediary role played by academic research and exchange between policy development and application.  
\*Ambassador of Angola
- Class 11 Symposium (tentative) In case of scheduling problems with the symposium this class will be a concluding lecture covering such topics as African Resources: Eco-tourism. spiritualities and communitas-the possibilities of non-material resources in development.
- Classes 12 & 13 Final group project presentations and class summary

### **Evaluation:**

As this class is based on the talks given by the guest speakers and the students response attendance is of the UTMOST importance. Daily participation will account for 45% of the final grade. Group work both in hosting the guest speaker from the group's chosen country and the final oral group presentation will account for a further 20% of the evaluation. A final individual research paper of 5 page minimum (single space, 12 pt font) with a separate bibliography will account for the final 35% of the grade.

### **Note to Interested Students:**

1. Students interested in this course, please be present at the first meeting and have researched the following sites:  
<http://www.mofa.go.jp/region/Africa/> 2) and <http://www.jica.go.jp/English/activities/regions/09afr.html>
2. Although the class will take place in 4th period, there will sometimes be an opportunity for interested students to spend sometime after the class period with the visiting Ambassadors of that day. Please consider this when planning your schedule

---

国際人権法

( 春学期 ) ( Spring )

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

---

### **Sub Title:**

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

### **Subject of the class:**

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

**The principal book:**

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3<sup>rd</sup> ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

**Assignments:**

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding  
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

**Comment on the Class:**

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

**Grading Policy:**

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

**Office Hours:**

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

---

世界政治におけるラテンアメリカ

( 春学期 ) Spring )

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez Lecturer, International Center

---

**Course Description:**

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general

remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

**Text Books:**

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

**Reference Books:**

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
- Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
- Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
- Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
- Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
- Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
- Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
- Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
- Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
- Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
- Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
- Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
- Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Política Exterior Latinoamericana", 1983.
- Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

**Class Schedule per week:**

PART I

- Session 1: Introduction
- Session 2: The Actors
- Session 3: The Inter-American System
- Session 4: Latin American Integration and Association
- Session 5: Economic Outlook
- Session 6: International Relations
- Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
- Session 9: Cuba: The Socialist Way
- Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
- Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
- Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
- The Caribbean: Colonies and Micro-states
- Session 13: Final Exam

**Grading:**

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

---

グローバルビジネスにおける革新と戦略

( 春学期 ) Spring )

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business

strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

### **Text Books:**

Leading the Revolution by Gary Hamel  
Supplementary Reading Materials and Case Studies  
Additional Book To Be Assigned

### **Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

### **Class Schedule per week:**

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy
- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

### **Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

### **Grading:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

### **Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

---

現代ロシア研究

( 春学期 )( Spring )

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー ,アンドリィ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

---

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike,



what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

---

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

( 春学期 ) Spring )

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス ,ムケシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

American History, Culture and Foreign Policy

**Rationale:**

After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation and democracy to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

**Course Outline:**

The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: ‘Old’ and ‘New’ immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock’ n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865–1917): Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920–2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war against terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?

**Aims:**

The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue independent thinking

### **Reference Books:**

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

———, *The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt.,1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

———, *Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvestan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

### **Class Schedule per week:**

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 1 <sup>st</sup> Week:  | Shopping   |
| 2 <sup>nd</sup> Week:  | Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's <i>The Conquest of America</i> ; Sollors, <i>Theories of Ethnicity</i> ; de Tocqueville, <i>Democracy in America</i> ,   |
| 3 <sup>rd</sup> Week:  | 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian-Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues   |
| 4 <sup>th</sup> Week:  | Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."  |
| 5 <sup>th</sup> Week:  | A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, <i>The Lonely Crowd</i> ); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation. |
| 6 <sup>th</sup> Week:  | Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.   |
| 7 <sup>th</sup> Week:  | World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).  |
| 8 <sup>th</sup> Week:  | Readings form speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, <i>Representation</i> ; Taylor and Appiah, <i>Multiculturalism</i> .   |
| 9 <sup>th</sup> Week:  | American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's <i>The Clash of Civilization</i> .   |
| 10 <sup>th</sup> Week: | Henry Kissinger and others on American Foreign Policy  |
| 11 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report  |
| 12 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report  |
| 13 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation   |

### **Message to those taking this Course:**

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

### **Grading Methods:**

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. An end-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participasion 10% credit.

---

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味

( 春学期 )( Spring )

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 ( 関西外国語大学助教授 )

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

---

### **Sub Title:**

The meaning of modernity and crises in Africa

### **Course Description:**

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of movement of people in contemporary Africa. Migration is an important feature of the lives of a large number of African. Contrary to a conventional view that African villagers never see the outside world, they often move away from their villages without severing their ties with homes. It is a practice of *longue durée* as well as experiencing contemporary transformations. However, movement does not merely refer to geographical movements of people but more importantly to social and cultural shifts. People commonly move between groups (therefore change their personal identities), between works, between religious faiths, between medical practices and lots more, which presupposes considerable social and cultural plurality.

Using wide range of academic disciplines, we will explore geographical movements, and social and cultural shifts in contemporary Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) urban-rural migration, (2) multiplicity of identities and their changes, (3) diversification of occupations and jobs, (4) situational changes in religious and medical practice, (5) crisis situations attributable to such movements and plurality. The course will highlight movement as modernity in Africa.

### **Text Books:**

Texts will be distributed in due course.

### **Reference Books:**

1. Trager, L. 2001. *Yoruba Hometowns*. Linne Tiennen.
2. Kondo, H. 2003. "Illness in Between". *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

### **Message to those taking this Course:**

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

### **Grading Methods**

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

---

国際開発協力論

( 秋学期 )( Fall )

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

長谷川 純一

国際センター講師 ( 東京大学客員教授 )

Junichi Hasegawa

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

---

### **Sub Title:**

Framework for Poverty Reduction in Developing Countries

### **Course Description:**

70% of the world population live in developing countries. Discussions will be provided for the students who are expected to live and work in the global world. The main topics of the class are: 1) nature of developing countries and development strategies; 2) actual practice and methodology of aid; 3) public opinion on ODA, national interest and international society; and 4) international organizations, bilateral aid agencies and history of development cooperation.

### **Text Books:**

Printed materials will be provided for the actual cost.

### **Reference Books:**

Todaro, Michael and Stephen C. Smith, *Economic Development 8<sup>th</sup> Edition*, Harlow/Boston, Pearson Education/Addison-Wesley, 2002

Easterly, William, *The Elusive Quest for Growth Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics*, Cambridge: The MIT Press, 2001

### **Class Schedule per week:**

1. Introduction to International Development Cooperation
2. Economies of Developing Country
3. Evolution of Development Economics
4. Actual Practices of ODA
5. ODA, Governing Law and National Interest
6. Japanese ODA and Public Opinion
7. 50 Years of ODA and Thoughts behind It
8. Aid Organizations
9. What is the Role of NGOs?
10. Pursuing Effective Aid
11. Current Topics in Donors' Circle
12. Is Aid Effective? <Micro Macro Paradox>
13. (TBD)

### **Message to those taking this Course:**

Let us think about Development! No prior knowledge is required, but your active participation is strongly encouraged.

### **Grading Methods:**

One Term Paper will be requested. Evaluation will be made based on active class participation (50%) and Term Paper (50%).

### **Inquires**

mailto: j-hasegawa@jbic.go.jp

---

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

( 秋学期 )( Fall )

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 ( 立教大学助教授 )

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

### **Sub Title:**

Human relations in the new global community

### **Course Description:**

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

### **Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

### **Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
- 2) Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

### **Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact — Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture — the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning — sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development — the three reactions
7. The roots of prejudice — Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism — Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond — Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

### **Message to those taking this Course:**

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

---

カナダという国とカナダの国際的な役割

( 秋学期 ) ( Fall )

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローレース, ジェームズ 国際センター講師 ( カナダ日本連盟日本代表 )

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

---

### **Course Description:**

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

### **Message to those taking this Course:**

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

### **Grading Methods:**

Grading Criteria: A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

---

国際関係

( 秋学期 ) ( Fall )

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 所長

Aftab Seth

Director, Keio University Global Security Research Center

---

### **Sub Title:**

A view from a practitioner

### **Course Description**

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be

presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

**Text Books:**

象は痩せても象である 英語版・“Even if an elephant gets thin, it is still an elephant”

**Reference Books:**

Leadership in an interdependent world by Ghita Ionescu, Longman  
Reconciliation in the Asia Pacific edited by Yoichi Funabashi, US Institute of Peace Press  
Peace and security in the Asia Pacific region edited by Kevin Clements, UN University Press  
Contemporary Conflict Resolution, Hugh Miall, Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse by Polity Press  
South Asia in the world edited by Ramesh Thakur and Oddny Wiggen UN University Press  
The debate over Vietnam by David W. Levy, Johns Hopkins, University Press  
Origins of the Cold War edited by Melvyn P Leffler and David S Painter Routledge publishers  
Beyond the Judgement of Civilisation by Ushimura Kei Translated by Steven J Ericson by International House of Japan, Japanese title Bunmei no sabaki o koete.  
Is Japan still number one, Ezra E Vogel Pelanduk Publications 2000  
Victor's Justice Tokyo War Crimes Richard H Minear Princeton University Press  
Japanese Higher Education a Myth by Brian J McVeigh published by ME Sharpe 2002  
The Journal of Oriental Studies: Special Series The Spirit of India VOL 13 2003, by the Institute of Oriental Philosophy  
The Man who Harvests Sunshine by Andras Erdelyi: the Modern Gandhi: MS Swaminathan (to be continued)  
Ten Years of the Sasakawa South East Asia Cooperation Fund by Sasakawa Peace Foundation  
Innovation and Change selected essays and Christianity in the Arab World by Prince El Hassan bin Talal of Jordan published by Majlis El Hassan Amman Jordan 2003 and SCM Press London respectively.  
Bulletin of the Royal Institute for Inter-Faith Studies Vol 5 Number 2 Autumn/Winter 2003 printed by the Institute in Amman Jordan

**Class Schedule per week:**

- 1) Introduction
- 2) & 3) India and Japan in a resurgent Asia-2 lectures including the role of an embassy
- 4) Cross fertilization in civilizations. A shared past
- 5) The Cold War, origins and demise
- 6) Asian Integration: Economic and Cultural
- 7) Conflict Prevention, Management and Resolution
- 8) South Asia-Perspectives and prospects
- 9) Leadership-its role in diplomacy: governance and inner peace
- 10) Regionalism, Multiculturalism and Multilateralism
- 11) Vietnam: perspective and prospects
- 12) Europe-Unity-Peace
- 13) Role of NGO's in international relations a case study: the MS Swaminathan Foundation, Institute of Satya Sai Education, Sasakawa Peace foundation, Toyota Foundation, The Royal Institute for Inter-Faith Studies

**Message to those taking this Course:**

There will be an attempt to invite guest speakers who will be Ambassador from other countries. This may lead to some changes in the titles of the lectures and the structure. The aim is to share experiences in the craft of diplomacy, the practical aspects of conducting international relations, including bilateral relations between 2 countries. Students from all faculties are welcome.

**Grading Methods:**

- Written Exam
- Graded on the basis of participation in class and group discussions and regular attendance.
- There will also be an oral interview for meritorious students

## VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

**Text Books:**

A partial list of films on the course syllabus:

*CEDDO* (SENEGAL, 1978)

*HEARTS AND MINDS* (U.S.A., 1975)

*THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN* (W. GERMANY, 1979)

*QUILOMBO* (BRAZIL, 1984)

*SANS SOLEIL* (FRANCE, 1982)

*TANGO* (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

*WALKER* (U.S.A., 1987)

*Last Samurai* (U.S.A., 2003)

**Grading Methods:**

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation(40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper(60%).

## DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

**Sub Title:**

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

**Course Description:**

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively “unknown” world, and so doing, to reconsider such questions as what is “development” and what is “prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

**Text Books:**

give you hand-out

**Reference Books:**

倉沢愛子 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』 中央公論新社 2001年

**Class Schedule per week:**

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

**Message to those taking this Course:**

read several books on developing countries in Southeast Asia

**Grading Methods:**

Reports ( 4-5 pages (A4) of essay ), Attendance,Participasion ( requires 70% attendance )

---

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

( 秋学期 )( Fall )

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

**Text Books:**

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

**Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

**Class Schedule per week:**

Introduction  
 How to Succeed in Asian Markets  
 Asian Market Leaders  
 Hybrid Management Styles  
 Leading Foreign Firms Successfully  
 Local Company and Country Trends  
 Country Information Presentations  
 Pan-Asia Strategy  
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style  
 Political and Economic Risks in Asia



Executive Development and HR  
Challenges in Asia  
Competition with Family Businesses  
Business in Frontier Markets  
Company Presentations

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

**Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

**Evaluations:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

**Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

---

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

( 秋学期 X Fall )

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

林 秀毅

経済学部非常勤講師 ( 新光証券商品企画部部长・グローバルストラテジスト )

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, General Manager Financial Products Planning Department Shinko Securities Co., Ltd)

---

**Course Description:**

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

**Text Books:**

Julie Gilson, "Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century", Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

**References:**

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

**Class Schedule (Subject to change):**

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

### **Message to Those Taking This Course:**

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

### **Evaluation:**

Exam. Reports. Attendance.

### **Questions and consultation:**

Anytime during the class, also by e-mail.

---

産業史各論 (科学技術政策史)

(春学期 X Spring)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

---

### **Course Description:**

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses on the roles of states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

### **Reference Books:**

Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.

Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.

Penley, Constance. 1997. *NASA/Trek: popular science and Sex in America*. Verso.

Samuels, Richard J., 1994. *Rich Nation, Strong Army*. Cornell University Press.

加藤弘一 著「*電腦社会の日本語*」文春新書, 2000

中山茂 他 著「*通史 日本の科学技術*」ガクヨウ書房, 1995

### **Class Schedule per week:**

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン (原子力ロケット)
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

### **Evaluation:**

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and post their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

### **Inquiries:**

Jonathan\_lewis@mac.com

<http://www.lewis.soc.hit-u.ac.jp>

## SEMINAR: LECTURE OF ETHICS 1

樽井 正義	文学部教授
Masayoshi Tarui	Professor, Faculty of Letters
エアトル, ヴォルフガング	文学部助教授
Ertl, Wolfgang	Associate Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Global Justice

Course Description:

Having been focused almost exclusively on the structure of singular societies, contemporary political philosophy has only recently begun to tackle normative issues of a global scale. The most prominent example is John Rawls who reapplied his famous original position argument on the level of peoples. Strikingly enough and to the dismay of many of his followers, Rawls thinks that there are only extremely weak principles of redistribution operating globally in marked contrast to the demands within a liberal society. In reaction to Rawls's claims a lively debate developed as to whether it might be possible to derive far stronger principles of global distributive justice and what they might look like. Two issues turned out to be of crucial importance: is there an equivalent to the so-called difference principle according to which inequalities are only justified if they are to the benefit of the worst-off? Between which entities are these principles supposed to operate, between peoples or states or rather between individual human beings? We are going to look at these discussions in more detail without confining ourselves to considerations of Rawls scholarship. Instead we shall also try to take into account different lines of thought.

Texts:

Pogge, Thomas (ed.): Global Justice. Oxford, Malden (Mass.): Blackwell 2001.(available in paperback)

Course Schedule (Subject to Change):

- 1) Introduction
- 2) Background: Rawls's "Law of Peoples"
- 3) Priorities of Global Justice
- 4) Global Inequality and International Institutions
- 5) Global Distributive Justice
- 6) Contractualism and Global Economic Justice
- 7) The Disanalogy of States and Persons
- 8) Cosmopolitan Justice and Equalizing Opportunities
- 9) The Global Scope of Justice
- 10) Towards a Critical Theory of Transnational Justice

## GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

田中俊郎	ジャン＝モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部専任講師
Yuichi Hosoya	Lecturer, Faculty of Law
庄司克宏	法務研究科 教授
Shoji Katsuhiko	Professor, Law School

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Treaty establishing a Constitution for Europe, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 25 member states on May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call Extension 22006 for appointment.

---

金融特論

(秋学期) (Fall)

ADVANCED STUDY OF FINANCE

深尾光洋

商学部教授

Mitsuhiro Fukao

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

Sub Title:

Corporate Governance and Financial System

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Scheifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers", in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics", in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1992

Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol.8, No.3, June 1994

Bank of Japan, "The Japanese Employment System," *Bank of Japan Quarterly Bulletin*, May 1994.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

#### 4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," Seoul Journal of Economics, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries, Governance structure of government owned companies and private companies, Issues related to bankruptcy procedures, Security exchange law and governance system, Incentive mechanism for directors, Banking problems and deposit insurance system.

#### Text:

Fukao, Mitsuhiro, Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies, Brookings, 1995.

---

会計学	(秋学期) (Fall)
Accounting	
伊藤 眞	商学部教授
Makoto Ito	Professor, Faculty of Business and Commerce

---

#### Course Description:

International Accounting Standard and International Financial Reporting Standard

International Accounting Standards (IAS) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRS) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which is restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepare new IFRS and improve IAS.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IAS (including IFRS) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, will be required to report in accordance with IAS from year 2005. Many countries are taking steps to harmonize their national accounting standards with IAS with some modifications to allow for local environment.

In this course, we will study the brief history of IAS, IASC and IASB, Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS2 "Inventory", IAS11 "Construction contracts", IAS12 "Income Taxes" and IAS39 "Financial Instruments: Recognition and Measurement", which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IAS, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

#### Text:

International Financial Reporting Standards 2005, IASB

The number of students who register this course through International Center will be limited to 5 persons.

---

国際経済	(秋学期) (Fall)
International Economy	
小島明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

---

#### Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

“Globalization and its Discontent”, Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI “White Paper on International Trade 2004” (This document can be accessed through METI web site, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and documents of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

## 日本研究講座 ( JAPANESE STUDIES COURSES )

異文化コミュニケーション 1 日本のコミュニケーションパターンから見た場合  
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

( 春学期 ) ( Spring )

手塚千鶴子  
Chizuko Tezuka

国際センター教授  
Professor, International Center

### **Sub Title:**

Seen from Japanese communication patterns

### **Course Description:**

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

### **Text Books:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

### **References:**

*Japanese culture and behavior: selected readings* by Takie Lebra & William Lebra  
*Japanese patterns of behavior* by Takie Sugiyama Leba  
*An introduction to intercultural communication* by John C. Condon & Fathi Yousef  
*Intercultural communication :a reader* (6th edition) by L. A. Samovar & R. E. Peter

### **Course Schedule:**

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. *Amae* psychology: prototype of *Amae* and definition of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi, Enryo and Honne* vs. *Tatema*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2
14. Wrap-up

### **Message to Those Taking This Course:**

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

### **Evaluation:**

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper

based on group project.

**Inquiries:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

英国と米国のマスコミに描かれた日本  
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

( 春学期 ) ( Spring )

キンモンズ, アール H. 国際センター講師 ( 大正大学教授 )  
Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

---

**Course Description:**

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

**Recommended Reading:**

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction to the course — “Whose images of which Japan?”
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation — Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation — progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching — the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother — the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment — rational choice versus revisionism in the American view of Japan’s “bubble economy”
13. “Comfort Women” and “The Rape of Nanking” — American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state — American images of “post bubble Japan”

**Message to Those Taking This Course:**

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

**Evaluation:**

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

**Inquiries:**

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.



**Sub Title:**

Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

**Course Description:**

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

**Recommended Readings:**

Will be advised at the beginning of the course.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

**Message to Those Taking This Course:**

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

**Evaluation:**

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student's own initiative.

**Inquiries:**

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

**Course Description:**

Japanese prose literature of the modern period will be discussed in this lecture course. In “Journey Through the Floating World” last summer, we covered the pre-modern literature of the Tokugawa period, an era that came to an abrupt end with the Meiji Restoration of 1868. The resulting political and social upheaval had a traumatic effect on many aspects of Japanese life, and literature was no exception. Some savored the sharp break with the past, while others looked back on their own cultural heritage for inspiration and continuity. We will focus on the development of the modern novel through the works of such writers as Natsume Soseki, Mori Ōgai, Akutagawa Ryūnosuke, Kawabata Yasunari, Tanizaki Junichirō and Mishima Yukio. Modern film adaptations will also be introduced.

**Text Books:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/mezame.htm](http://www.armour.cc/mezame.htm))

**Recommended Reading:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

**Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

**Message to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

**Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

**Course Description:**

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

**Recommended Reading:**

TBA

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

**Message to Those Taking This Course:**

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

**Evaluation:**

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

---

美術を「よむ」 - 日本美術史入門

( 春学期 ) Spring )

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

---

**Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Modernity was first and foremost articulated through the construction of the nation state “Japan.” Visual arts played a central role in providing the modern nation with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider broader issues such as commodity consumption, gender, and imperialism in the context of visual representation.

**Requirements:**

1. Short paper (4-5 double-spaced pages)
2. Take-home midterm exam
3. Take-home final exam
4. Two field trips to museums in the area

## **Readings:**

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be put on reserve.

## **Proposed Syllabus:**

1. *Introduction*
2. *Constructing "Japanese Art"*  
READING: Ellen Conant, "Refractions of the Rising Sun: Japan's Participation in International Exhibitions 1862-1910," (1991); Christine Guth, "From Temple to Tearoom," (1993).
3. *From Edo to Meiji: Takahashi Yuichi and Kanô Hôgai*  
READING: Tôru Haga, "The Formation of Realism in Meiji Painting: The Artistic Career of Takahashi Yuichi," (1971); Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," (1995).
4. *Body and the Nude*  
READING: Norman Bryson, "Yôga and the Sexual Structure of Cultural Exchange," (1994).
5. *Okakura Kakuzô and the Aesthetic Ideology of Asia*  
READING: Excerpts from Okakura Kakuzô, *The Ideals of the East*, (1903) and *The Book of Tea*, (1906); Emiko Usui, "National Identity, the Asiatic Ideal, and the Artist: Okakura Presents the Nihon Bijutsuin in Boston," (1999).
6. *The Modern Artist, Urban Spectacle and the Modernist Vision*  
READING: John Clark, "Artistic Subjectivity in the Taisho and Early Showa Avant-Garde," (1994); Miriam Silverberg, "Constructing the Japanese Ethnography of Modernity," (1992).
7. *Orientalism, Nativism, and Traditionalism*  
READING: Alexandra Munroe, "Circle: Modernism and Tradition," (1994); Yoko Kikuchi, "Hybridity and the Oriental Orientalism of *Mingei* Theory," (1997).
8. *Images After Ground Zero*  
READING: John Dower, "Japanese Artists and the Atomic Bomb," (1993); Yamanashi Emiko, "Painting in the Time of 'Heavy Hands'," (1997).
9. *Action and Expression: the Gutai Association*  
READING: Sin'ichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," (1998).
10. *"Anti-Art" in the 60s*  
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," (1994).
11. *The Postwar Unconscious: Performance and Photography*  
READING: Mark Holborn, "The Object Eye," "Junin-no-me," and Eikoh Hôse," (1986); Susan Klein, "The Origin and Historical Context of Ankoku Butô," (1988).
12. *Architecture and the Public Space*  
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," (1986).
13. *Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond*  
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," (1996); Yuko Hasegawa, "Pachinko, Mandala and Merry Amnesia," (1997); Alexandra Munroe, "*Hinomaru Illumination*: Japanese Art of the 1990s," (1994).

## **Bibliography:**

Bibliography will be distributed at the first class.

---

日本の近代思想：福澤諭吉と丸山真男

(春学期) (Spring)

JAPANESE TRADITION OF MODERN THOUGHT: FROM YUKICHI FUKUZAWA TO MASAO MARUYAMA

坂本 達哉

経済学部教授

Tatsuya Sakamoto

Professor, Faculty of Economics

---

## **Sub Title:**

Seminar for reading and discussing some key texts from the works of the two most influential thinkers

## **Course Description:**

This course aims to introduce students to a long and complicated history and its unique characteristics of Japanese modern thought as best represented by the works of Yukichi Fukuzawa, the founder of Keio University, and those of Masao Maruyama, the most single influential thinker in the post-war Japan.

### **Text Books:**

No particular text book will be used, but excerpts from the central writings by Fukuzawa, Maruyama and other great Japanese thinkers will be provided as the course develops.

### **Class Schedule per week:**

A feature of the course is its seminar style presentation. It uniquely attempts to include ample opportunities for an exchange of opinions between instructor and students and between students. Every class will be divided into three parts. First, an introductory lecture by the instructor will be made to highlight the historical and intellectual backgrounds of the relevant texts to be discussed every time. This is followed by a prepared essay presentation by students. The rest of the class will be devoted to a class discussion. The first half of the entire course will deal with the works of Fukuzawa and the second those of Maruyama.

### **Message to Those Taking This Course:**

This course is intended for international as well as Japanese students who eagerly wish to learn the wealth of Japanese intellectual tradition from Fukuzawa to Maruyama in English.

### **Grading Methods:**

Grading will be based on attendance, in-class presentations and a short term paper.

---

日本人の心理学 (1)	コンフリクト・マネイジメント	(春学期) (Spring)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)		
手塚 千鶴子	国際センター教授	
Chizuko Tezuka	Professor, International Center	

---

### **Sub title:**

Conflict Management

### **Course content:**

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict in the West claims that it is inevitable yet not necessary bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts at any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological backgrounds, and the challenges for both Japanese people and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some social psychological measures for self-understanding.

### **Textbooks:**

no designated textbook and handouts will be distributed.

### **References:**

*Conflict in Japan* edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

*Japanese Culture and Society: model of interpretation* edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Frantz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

### **Course schedule (subject to change)**

1. Orientation to the course and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs Conflict Model of Japanese society and orientation to writing conflict episode journals
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi and Gaman* in Japanese Work Place
5. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
6. How Japanese express anger
7. Comparison of conflict management between Japan and U.S.A.
8. Intercultural conflict around the *Ehimemaru* Incident in Jan, 2001

9. Intercultural conflict between Japanese teachers and int'l students
10. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori
11. How to make use of our own anger creatively
12. Wrap-up session

**Messages to students:**

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions. Active participation in pair-work, group work and class discussion is a must.

**Evaluation:**

Overall grade will be based on attendance, essays, participation in class, final presentation, and its resultant final paper. .

**Questions and consultation:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

近代日本の対外交流史

( 秋学期 ) ( Fall )

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

**Course Description:**

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

**Textbooks:**

No specific textbook will be used.

**Recommended Readings:**

The reading list will be given at the beginning of the term.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1 ~ 2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources  
Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

**Evaluation:**

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

手塚千鶴子  
Chizuko Tezuka

国際センター教授  
Professor, International Center

**Sub Title:**

Identity of Japanese sojourners

**Course Description:**

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

**Textbooks:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**Recommended Reading:**

*Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

*The White Plum: a biography of Ume Tsuda* by Yoshiko Furuki, Weatherheel, 1991.

*Intercultural Communication: reader 5<sup>th</sup> ed.*, Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

*Japanese Culture and Behavior (revised edition)* ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

*Japanese Patterns of behavior* ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

*Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness* ed by Ray

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment I: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angels: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world
14. Wrap-up

**Messages to Those Taking This Course:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

**Evaluation:**

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

**Inquiries:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or

**Sub Title:**

A case study of cross-cultural contact

**Course Description:**

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to about 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, students will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

**Recommended Reading:**

There will be a selection of assigned readings for each class (in Japanese, English and occasionally in other European languages or Chinese). Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

**Class Schedule per week:**

1. Orientation and overview
2. The background: Christianity missionary activity and religion in Japan
3. Jesuit approaches to Japan
4. Japanese approaches to Christianity
5. Christianity and Japanese politics
6. Christianity in Tokugawa Japan (1) Government policies
7. Christianity in Tokugawa Japan (2) Responses to government policies
8. The return of Roman Catholic missionaries and the 'hidden' Christians
9. Christianity and social change in Japan 1859-1945
10. Christianity and patriotism in Japan 1859-1945
11. Christianity in Japan in the second half of the twentieth century
12. Christianity in Japan today
13. Concluding remarks

**Message to those taking this Course:**

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

**Grading Methods:**

Oral presentations( 30% ), Reports( At least one short and one long ( 50% ) ), Attendance and Participation( 20% )



**Questions, Requests:**

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>)

多民族社会としての日本

( 秋学期 )( Fall )

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

**Message to Those Taking This Course:**

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

**Evaluation:**

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定、歴史的記憶、人種から見る明治期日本外交

( 秋学期 )( Fall )

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉章

国際センター講師 ( 城西国際大学教授 )

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor Josai International University)

**Sub Title:**

Decision-making, historical memory and race

**Course Description:**

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

### Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

### Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

### Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations
4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an "Anglo-Saxon" state reliable?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the "success" of the war and the "defeat" in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison's decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

### Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

### Grading Methods:

The final exam will be given based on the lecture. A short term paper on one of designated questions will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

---

日本の文学

( 秋学期 )( Fall )

JAPANESE LITERATURE

アーマー , アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

---

### Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

### Texts:

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/jlit.htm](http://www.armour.cc/jlit.htm)).

### Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

### Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

### **Messages to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

### **Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

---

20 世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

( 秋学期 ) ( Fall )

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside

Professor, Faculty of Law

---

### **Course Description:**

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20<sup>th</sup> century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki.

### **Reference Books:**

Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

*English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour*

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

*English Translation: A strange Tale from East of the River*

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』、『地獄変』、『河童』

*English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa*

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』、『蓼喰う虫』

*English Translation Naomi; Some Prefer Nettles*

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』、『憂国』

*English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"*

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

*English Translation Silence*

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

*English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!*

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

*English Translation Hard-boiled Wonderland*

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

### **Grading Methods:**

Reports

**Sub Title:**

The slow pace of economic reform

**Course Description:**

This course aims to help the student to understand the Japanese economic system, the style of economic regulations/deregulations and how the central/local government's involvement in many areas of the economy differs from other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) show several illustrative videos and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries. There will also be some special one-off guests who will talk about their experiences in dealing with regulations in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English).

**Text Books:**

Edward, J. Lincoln, Arthritic Japan: the slow pace of economic reform, Brookings, 2001.  
(Now available in Japanese translation (Nippon-hyoron-sha, 2004))

**Reference Books:**

Additional materials will be provided during some sessions as necessary.

**Class Schedule per week:**

(Subject to some changes):

Session 1 guidance and introduction

Session 2-4 the Japanese postwar economic system and related theories

Session 5-6 industrial policy and government involvement in the economy

Session 7-8 the bubble economy and macroeconomic policies

Session 9 the arguments about the current "structural reform" issue

Session 10-11 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system

Session 12-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform and deregulation

**Message to those taking this Course:**

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles (such as those from the Japan Times) as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures.

**Grading Methods:**

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

**Questions, Requests**

The lecturer's contact address is [noriko@fbc.keio.ac.jp](mailto:noriko@fbc.keio.ac.jp)

**Sub Title:**

'Amae' Reconsidered

### **Course content:**

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

### **Textbooks:**

no designated textbook and handouts will be distributed.

### **References:**

*The Anatomy of Dependence* by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

*The Anatomy of Self* by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

*Dependency and Japanese Socialization* by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

### **Course schedule:**

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and '*Doraemon*'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan
11. Functions of healthy *Amae*: social support?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples
14. Wrap-up session

### **Messages to students:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

### **Evaluation:**

Overall grade will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

### **Questions and consultation:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

日本の宗教：救済の探求

(秋学期 X Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー ,アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

---

### **Course Description:**

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

---

日本経済の展望

( 秋学期 )( Fall )

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 ( 上智大学教授 )

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

---

### **Course Description:**

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

### **Text Books:**

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

### **Class Schedule per week:**

1. Introduction  
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"  
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.  
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".  
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"  
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment  
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"  
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".  
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"  
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"  
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997  
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".  
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth  
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"  
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".  
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.  
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way

out”.

Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.

11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.  
Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”  
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.
12. Can Japan Compete?  
Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”  
Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,  
Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”  
Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000  
Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”  
Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

**Message to Those Taking This Course:**

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.  
High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

**Evaluation:**

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

---

家族の近代

( 秋学期 )( Fall )

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター , デビッド 経済学部助教授

David M. Notter Associate Professor, Faculty of Economics

---

**Course Description:**

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

**Text Books:**

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

**Grading Methods:**

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, essays, and a final paper.

---

日本の金融ビッグバン

( 春学期 )( Spring )

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

ハリス , グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師

Graham Harris O.B.E. Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

**Text Books:**

Current materials will be used.

**Class Schedule (Subject to change):**

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign

and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established — many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

**Evaluation:**

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation

---

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期)(Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

---

**Course Description:**

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

**Recommended Readings:**

“Japan's Policy Trap Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

**Message to Those Taking This Course:**

Active participation by students strongly desired.

**Evaluation:**

Report and in-class exam



## ECONOMY OF JAPAN

吉野 直行

経済学部教授

Naoyuki Yoshino

Professor, Faculty of Economics

Course Schedule per week (Subject to Change):

「Economy of Japan」

1. Historical fluctuations of Japanese Economy and the Monetary Policy
2. Flow of Funds Table of Japanese Economy  
(Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Households' Sector)
3. Monetary Policy of Japan, Asset Price Inflation and Recent Recession
4. Fiscal Policy of Japan, Budget Deficits
5. Industrial Policy of Japan, Tax Policy and Fiscal Investment Policy
6. Capital Market of Japan (Bond market, equity market)
7. Bank Failures and Bank Restructuring
8. Aging population of Japan and Its impact on Japanese Economy
9. Privatization of Postal Savings and Japanese Financial Market
10. Currency Crisis of Asia, Its causes and consequences
11. Exchange Rate Policy of Asia and Optimal Exchange Rate System
12. Effectiveness of Public Works in Japan and Revenue Bond
13. Central and Local Government Relations in Japan
14. Japanese Policy Making and Incentive Mechanism
15. Final Examination

科学技術文化特論

(秋学期) (Fall)

## SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE

ドゥウルフ, チャールズ

理工学部教授

Charles De Wolf

Professor, Faculty of Science and Technology

Course Description:

The leitmotif of this course is the question of how our perceptions of and approaches to science are influenced both by the Zeitgeist and by the particular culture in which we have grown up. How, for example, is the "evolution controversy" in America a peculiarly "American" phenomenon? How is it that Japanese scientists and engineers appear to be (on the whole) remarkably indifferent to ideological issues? Other topics include: (1) What is a proper or possible subject of scientific inquiry. To what extent, for example, can the study of language be considered "scientific"? (2) What is the appropriate role of scientists in matters political and social? In addition to the primary goals discussed above, it is hoped that this course will enable non-Japanese students to have a better understanding of Japanese history and culture through a cross-cultural approach to the philosophy of science. Students are strongly encouraged to participate actively, discussion being preferred to "lecturing."

Texts:

Materials to be distributed by instructor

Recommended Readings:

To be announced

Class Schedule (Subject to change)

1. Words for science: the concept of science in historical and cultural perspective
2. "Hard sciences" vs. "Soft sciences"
3. Linguistic science I: an historical overview
4. Linguistic science II: How "scientific" is linguistics?
5. Science and culture
6. Science and ideology
7. Science vs. scientism

- 8.The evolution debate in cross-cultural perspective
- 9.Science in Japan: an historical overview
- 10.Science and technology: science vs. technology
- 11.The role of the scientist in society: a cross-cultural persepective
- 12.Loose ends

Evaluation:

Attendance and participation are most important.

## 知的資産センター設置講座（平成 17 年度開講）

### 1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、起業の支援と拡大しています。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品を生み出しています。さらに、バイオ分野を中心にベンチャー企業のスタートアップも相次いでいます。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

### 2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

### 3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―  
(ナテグリニド特別講座)

知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

#### 授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

#### テキスト：

講義資料を配布します。

#### 参考書：

「知的創造時代の知的財産」 清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」 竹田著 ダイアモンド社

「著作権の考え方」 岡本著 岩波新書

#### 授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み

- 3 著作権の仕組み
- 4 商標ブランドの価値
- 5 マルチメディアに関する知的財産
- 6 キャラクタービジネス
- 7 音楽に関する著作権問題
- 8 企業における知的財産戦略
- 9 知的財産に関する世界の動向
- 10 知的財産の紛争処理
- 11 ベンチャー・起業の仕組み
- 12 知的財産ビジネス
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

**履修者へのコメント：**

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

**成績評価方法：**

平常点及びレポートによる評価

**質問・相談：**

授業の最後に質問の時間を設けます。

# 関係規程抜粋

商学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

## 〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規
- 1-3 商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規（抜粋）

## 〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

## 〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

## 〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

# 1 学 位

## 1-1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定  
平成15年7月4日改正

**第1条 (目的)** 本規程は、慶應義塾大学学部学則及び大学院学則に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

**第2条 (学位)** 本大学において授与する学位は次の通りとする。

### 1 学 士

#### 文 学 部

##### 人文社会科学

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

##### 経済学部

##### 法 学 部

##### 商 学 部

##### 医 学 部

##### 理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) 又は 学士 (工学)

##### 総合政策学部

##### 環境情報学部

##### 看護医療学部

### 2 修 士

#### 文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
----------	---------

美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学)
中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)
経済学研究科	修士 (経済学)
法学研究科	修士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)
医学研究科	
医科学専攻	修士 (医科学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
開放環境科学専攻	修士 (工学)
経営管理研究科	修士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)

### 3 博 士

#### 文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)
経済学研究科	博士 (経済学)
法学研究科	博士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	博士 (社会学)
心理学専攻	博士 (心理学)
教育学専攻	博士 (教育学)
商学研究科	博士 (商学)
医学研究科	博士 (医学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
総合デザイン工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
開放環境科学専攻	博士 (工学)
経営管理研究科	博士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士 (政策・メディア)

### 4 専門職学位

#### 法務研究科

法務専攻	法務博士 (専門職)
------	------------

② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

③ 第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。

**第2条の2**（学士学位の授与要件） 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

**第3条**（修士学位の授与要件） 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

**第4条**（課程による博士学位の授与要件） 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

**第5条**（論文による博士学位の授与要件） 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。

**第5条の2**（専門職学位の授与要件） 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

**第6条**（学識の確認の特例） ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績及び経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部若しくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

**第7条**（課程による学位の申請） ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

**第8条**（論文による学位の申請） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

**第9条**（審査料） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次の通りとする。

- |                                      |          |
|--------------------------------------|----------|
| 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 | 50,000円  |
| 2 本大学学士、修士又は専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者  | 70,000円  |
| 3 第1号・第2号のいずれにも該当しない者                | 100,000円 |
| 4 本塾専任教職員である者                        | 20,000円  |
- （医学研究科については40,000円）

**第10条**（審査並びに期間） ① 修士及び博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

**第11条**（審査委員会） 研究科委員会は、学位論文の審査並びにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授及び関連科目担当教授2名以上から成る審査委員会（主査及び副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教教授又は専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

**第12条**（審査結果の報告・判定方法） ① 審査委員会は、論文審査の要旨並びに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査並びに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

**第13条**（学位授与） 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査並びに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

**第14条**（学位論文要旨の公表） 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

**第15条**（学位論文の公表） 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

**第16条**（学位の表示） 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「（慶應義塾大学）」と付記するものとする。

**第17条**（学位の取消） 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

**第18条**（学位記及び書類） 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表の通りとする。

**第19条**（規程の改廃） この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号及び第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則（平成15年7月4日）

① この規程は平成16年4月1日から施行する。

〔以下省略〕

## 1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

**第1条** 慶應義塾大学学位規程第13条（学位授与）に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

**第2条** 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

**第3条** 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する

る課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末（3月23日）をもって学位を授与する。

- ② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引続き在学している者が、研究科委員会の特に認められた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。
- ③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。
- ④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。
- ⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。
- ⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。
- ⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

**第4条** 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

**第5条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

**第1条** この内規は、平成12年4月1日から実施する。

**第2条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

### 1-3 商学研究科における課程による 博士学位の授与要件に関する 内規（抜粋）

#### 1. 学位論文の提出要件

学位論文を提出しようとする者は、原則として次の2要件を充たすものとする。

- ① 『三田商学研究』またはこれに準ずる学術研究誌に論文を1編以上掲載しなければならない。
- ② 商学研究科研究報告会において口頭による研究発表を少なくとも1回は行わなければならない。また、研究発表を行おうとする者は、下記附則の手続きを踏まなければならない。

但し、1の②における研究発表は、学位請求論文（予定）の内容を含むこと。

**附則** 商学研究科研究報告会についての特別運用規定  
報告者は、遅くとも研究報告会開催日の1ヶ月前までに

研究科委員会宛に下記の書類を提出のこと。（付表）

1. 発表内容のレジメ（6000字程度でA4版使用を6部）
2. 発表用フルペーパー（4部）
3. これまでの業績一覧（3部）

#### ① 学位論文審査の基準

学位論文は、概ね以下に掲げる要件を充たすものとする。

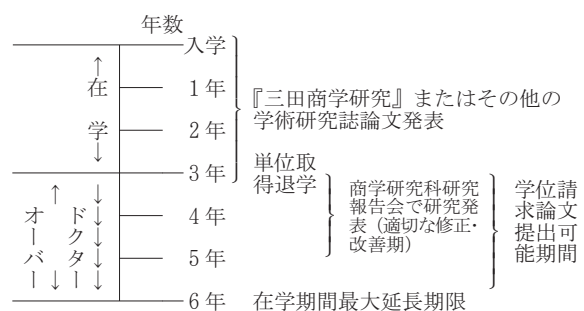
イ. 論理的・体系的な論旨の展開が認められるものであること。

ロ. 研究成果に獨創性が認められるものであること。

この場合獨創性とは、新しい視点からの問題への接近、新しい分析方法の採用、あるいは新しい所見、結論への到達等のいずれかが含まれていることを意味する。

ハ. 当該分野の過去の研究成果を十分に参酌したものであること。

#### ② 課程による博士学位取得のプロセス（モデル）



## 2 奨学金

### 2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成10年4月21日改正

#### 第1章 総 則

**第1条**（根拠） 慶應義塾大学は、大学院学則第16節奨学制度に基づき、貸費及び給費の奨学制度を置く。

**第2条**（奨学金の種類・金額） ① 奨学金の種類は、次の通りとする。

- 1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（但し、外国人留学生を除く。）
  - 2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象
- ② 前項に定める奨学金の年額は、次の通りとする。

- 1 文、経済、法、社会、商学研究科 400,000円
- 2 医学、経営管理研究科 600,000円
- 3 理工学、政策・メディア研究科 500,000円

#### 第2章 貸 費 生

**第3条**（資格） 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（但し、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

**第4条**（期間） 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。但し、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。



**第5条（申請）** 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

**第6条（選考）** 貸費生は、第3条の条件により選考する。

**第7条（決定）** 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。

**第8条（家計急変者に対する救済措置等）** 天災その他の災害及び家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

**第9条（誓約書）** 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

**第10条（身分等変更の届出）** 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

**第11条（貸与の休止）** 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

**第12条（貸与の復活）** 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。但し、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

**第13条（失格）** 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

**第14条（貸与の辞退）** 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

**第15条（貸与金借用証書の提出）** 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人及び保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人及び保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

**第16条（貸与金の返還）** ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。但し、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

**第17条（返還猶予）** ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害又は疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。但し、原則として3か年を越えて延長することはできない。

**第18条（返還免除）** ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人又は連帯保証人の申請により、貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。但し、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人又は相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書又は戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

### 第3章 給費生

**第19条（資格）** 給費生の資格は、大学院博士課程学生及び私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

**第20条（期間）** 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

**第21条（申請）** 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

**第22条（選考）** 給費生は、第19条の条件により選考する。

**第23条（決定）** 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

**第24条（身分等変更の届出）** 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

**第25条（失格）** 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第24条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

**第26条（返還）** ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、既にその年度に給付された金額の全部又は一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請により既に給付された奨学金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 第25条第1号の規定により、給費生として資格を失った

場合

**第27条**（事務） 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

**第28条**（規定の改廃） この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長がこれを行う。

**附 則**（平成10年4月21日）

- ① この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- ② 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。
- ③ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。
- ④ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）入学者を、本規程第2条第1項第2号及び第19条の対象に加えるものとする。

## 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

**第1条** 小泉信三記念奨学金規程第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

**第2条** 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

**第3条** 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

**第4条** 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

**第5条** この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

**第6条** この規程に関する細則は別に定める。

**付 則**

- ① この規程は、昭和52年4月1日から施行する。
- ② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

**付 則**（昭和54年7月27日）

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

**附 則**（平成14年5月1日）

この規程は、平成14年5月1日から施行する。

**附 則**（平成16年3月15日）

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

## 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

**第1条** 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

**第2条** 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

**第3条** 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

**第4条** 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

**第5条** 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人及び保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

**第6条** 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認められた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく第5条に定める届け出を怠った場合

**第7条** 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

**付 則**

- ① この細則は、昭和52年4月1日から施行する。
- ② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則とする。

**付 則**（昭和54年7月27日）

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

**附 則**（平成14年5月1日）

この細則は、平成14年5月1日から施行する。

**附 則**（平成16年3月15日）

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

## 3 授業料減免

### 3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成2年4月1日施行

平成11年11月26日改正

平成14年7月12日改正

**第1条**（目的） 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生並びに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあっては在学科等、以下授業料等とい

う)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することが出来る。

**第2条 (対象)** ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院又は通院している者並びに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役に就くために休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

**第3条 (申請)** 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書並びに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

**第4条 (減免額)** ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策メディア研究科及び看護医療学部については授業料等の半額及び実験実習費の半額とする。なお、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び法学部政治学科9月入学者は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

② 正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

**第5条 (審査)** 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

**第6条 (減免の取消し)** 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、既に減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることが出来る。

**第7条 (就学の届出)** 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

**第8条 (規程の改廃)** この規程の改廃は、大学奨学委員会並びに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

**第9条 (所管)** この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則 (平成元年7月18日)

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則 (平成11年11月26日)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年7月12日)

この規程は、平成14年8月1日から施行する。

### 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成2年4月1日施行

平成12年5月30日改正

**第1条** 慶應義塾大学学部学則第153条及び慶應義塾大学大学院学則第124条により外国の大学に留学する学生(以下留学生という)の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

**第2条** 留学期間中の学費の取り扱いは、次の通りとする。

1 留学の始まる日(以下留学開始日という)の属する年度の学費は納入するものとする。但し、留学の奨励を図るた

め、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内(医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内)の場合は、留学開始日から1年(医学研究科博士課程は2年)を経過した日の属する年度の授業料(在学料)及び実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内(医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内)の場合は、留学開始日から2年(医学研究科博士課程は3年)を経過した日の属する年度の授業料(在学料)及び実験実習費の半額を免除する。

**第3条** 留学生在が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部又は全額を納入させることがある。

**第4条** この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

**第5条** この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則 (平成元年5月23日)

① この規程は、平成2年4月1日から施行する。

② この規程の制定により、昭和56年5月12日制定、同年4月1日施行の留学期間中の学費の取り扱いに関する規程は、これを旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程とする。

③ この規程は、留学開始日が平成2年4月1日以降の者に適用する。

④ この規程の施行前、既に留学を許可され留学している者の学費については、旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程を適用する。

附 則 (平成12年5月30日)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

## 4 その他

### 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

**第1条** 本塾大学大学院後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

**第2条** 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

**第3条** 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する充分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間(4月1日~翌年3月31日)の在学を許可できるものとする。

**第4条** 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

**第5条** 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることが

できる。

#### 付 則

**第1条** この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

**第2条** この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

**第3条** 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

**第4条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

**第4条** この内規の改廃は、塾長が決定する。

## 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

**第1条** 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」

第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）  
大学院学則第132条に定める金額

**第2条** 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）  
免除
- 3 実験実習費（毎年）  
大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

**第3条** 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

#### 附 則

**第1条** この内規は、平成8年4月1日から施行する。

**第2条** この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

**第3条** この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に

# 学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

〇〇論文 平成〇年度 (20〇〇)
論 題
慶應義塾大学大学院〇〇研究科
氏 名

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
20〇〇	
	} 1.0 cm
〇 〇 論文	
	} 1.0 cm
論  題	
氏  名	} 5.0 ~ 6.0 cm

